

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年6月29日
【事業年度】	第34期（自平成21年4月1日至平成22年3月31日）
【会社名】	株式会社ソディック
【英訳名】	Sodick Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤原 克英
【本店の所在の場所】	横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
【電話番号】	(045)942-3111(代)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 古川 健一
【最寄りの連絡場所】	横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
【電話番号】	(045)942-3111(代)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 古川 健一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第30期 平成18年3月	第31期 平成19年3月	第32期 平成20年3月	第33期 平成21年3月	第34期 平成22年3月
売上高(百万円)	66,961	71,553	75,647	54,533	36,761
経常利益又は経常損失( ) (百万円)	8,428	6,541	4,498	5,717	3,073
当期純利益又は当期純損失 ( )(百万円)	6,119	3,757	244	8,527	3,669
純資産額(百万円)	29,428	44,373	42,748	27,401	23,848
総資産額(百万円)	82,210	100,477	103,967	84,351	72,767
1株当たり純資産額(円)	625.74	771.90	733.52	516.38	449.54
1株当たり当期純利益金額又 は当期純損失金額( ) (円)	129.36	72.22	4.62	170.15	74.11
潜在株式調整後1株当たり当 期純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	35.8	40.8	36.6	30.3	30.6
自己資本利益率(%)	23.5	10.7	0.6	-	-
株価収益率(倍)	15.11	12.13	94.16	-	-
営業活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	4,909	5,813	2,042	1,935	7,256
投資活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	4,973	9,059	7,133	7,088	693
財務活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	3,848	11,508	4,049	4,605	9,437
現金及び現金同等物の期末残 高(百万円)	12,228	21,164	19,781	18,693	15,804
従業員数(人)	3,090	3,283	3,622	3,158	2,575

(注) 1. 上記売上高には、消費税等は含めておりません。

- 第30期、第31期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第32期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。なお、第33期、第34期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。
- 第31期より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号 平成17年12月9日)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を適用しております。
- 第32期より国内における機械本体の売上計上基準を従来の出荷基準から検収基準に変更しております。
- 第32期より法人税法の改正に伴い、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産の減価償却方法について、改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。
- 第33期、第34期の自己資本利益率、株価収益率については、当期純損失を計上しているため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第30期 平成18年3月	第31期 平成19年3月	第32期 平成20年3月	第33期 平成21年3月	第34期 平成22年3月
売上高(百万円)	27,127	25,318	23,762	14,614	12,090
経常利益又は経常損失( ) (百万円)	3,873	3,255	1,723	1,960	1,678
当期純利益又は当期純損失 ( )(百万円)	2,975	2,199	672	4,736	2,002
資本金(百万円)	16,848	20,775	20,775	20,775	20,775
発行済株式総数(株)	47,108,810	53,432,510	53,432,510	53,432,510	53,432,510
純資産額(百万円)	28,404	37,198	35,983	28,728	24,616
総資産額(百万円)	51,768	59,443	58,455	58,876	56,025
1株当たり純資産額(円)	603.97	699.61	694.32	579.55	496.70
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額) (円)	15.00 (5.00)	15.00 (7.50)	20.00 (10.00)	10.00 (10.00)	- (-)
1株当たり当期純利益金額又 は当期純損失金額( ) (円)	63.28	42.28	12.72	94.52	40.44
潜在株式調整後1株当たり当 期純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	54.9	62.6	61.6	48.7	43.9
自己資本利益率(%)	11.0	6.7	1.8	-	-
株価収益率(倍)	30.89	20.72	34.20	-	-
配当性向(%)	23.5	35.5	157.2	-	-
従業員数(人)	204	225	184	228	289

(注) 1. 上記売上高には、消費税等は含めておりません。

2. 第30期、第31期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第32期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。なお、第33期、第34期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。
3. 第31期より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号 平成17年12月9日)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を適用しております。
4. 第32期より国内における機械本体の売上計上基準を従来の出荷基準から検収基準に変更しております。
5. 第32期より法人税法の改正に伴い、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産の減価償却方法について、改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。
6. 従業員数については、提出会社からその連結子会社等への出向者数を除いて記載しております。
7. 第33期、第34期の自己資本利益率、株価収益率及び配当性向については、当期純損失を計上しているため記載しておりません。

## 2【沿革】

昭和51年 8月	横浜市緑区（現 青葉区）桜台に資本金2,000万円で設立、NC放電加工機の開発・製造・販売を開始。
昭和51年12月	横浜市緑区（現 都筑区）池辺町に本社・工場を移転。
昭和52年 3月	株式会社ピーイーエムを吸収合併。
昭和53年12月	横浜市港北区新羽町に本社・工場を移転。
昭和55年 6月	福井県坂井郡（現 坂井市）坂井町に福井事業所を開設。
昭和55年 8月	米国Sodick-Inova Inc.（現Sodick Inc.）に資本参加。
昭和56年 7月	放電システム株式会社（株式会社ソディック・エフ・エーに商号変更）に資本参加。
昭和57年 3月	米国にSodick Ltd.を設立。
昭和57年 6月	横浜市緑区（現 都筑区）池辺町に関係会社株式会社エス・アンド・オー（株式会社ケイ・エッチ・エスと合併）を設立。
昭和57年 7月	横浜市港北区新羽町に関係会社ソディックリース株式会社を設立。
昭和57年 8月	（旧）株式会社北陸ソディック（富山県高岡市）を吸収合併し、（新）株式会社北陸ソディックに営業の譲渡を行う。
昭和57年10月	横浜市港北区新横浜に本社を移転。
昭和58年 3月	ドイツ・フランクフルト市にSodick Europe GmbHを設立。
昭和58年12月	Sodick Inc.がSodick Ltd.を吸収合併。
昭和60年 6月	事業目的に関し、新素材の研究及び製造を追加し業容の拡大を図る。
昭和61年 2月	東京証券取引所市場第二部へ株式を上場。
昭和61年10月	関係会社株式会社北陸ソディック及び株式会社ソディックメカトロニクス（株式会社ソディック・エフ・エーに商号変更）からその営業の全部を譲受ける。
昭和62年 8月	石川県加賀市に加賀事業所を開設。
昭和63年 1月	加賀事業所敷地内にセラミック工場を開設。
昭和63年11月	タイにSodick (Thailand) Co.,Ltd.を設立。（日本アジア投資株式会社と合併）
平成元年 3月	横浜市緑区（現 都筑区）仲町台に技術・研修センターを開設。
平成元年 6月	事業目的に関し、工作機械及び合成樹脂加工機械の開発製造ならびに販売を追加し業容の拡大を図る。
平成元年11月	加賀事業所敷地内に射出成形機工場を開設。
平成 3年 4月	ジャパックス株式会社に資本参加。
平成 3年 5月	中国・上海市に上海沙迪克軟件有限公司を設立。
平成 4年10月	ジャパックス株式会社より放電加工機に関する部門の営業の一部を譲受ける。
平成 6年 4月	シンガポールにSodick Singapore Pte.,Ltd.を設立。
平成 6年12月	中国・蘇州市に蘇州沙迪克特種設備有限公司を設立。
平成 9年 1月	横浜市都筑区仲町台の技術・研修センター内に本社を移転。
平成 9年 4月	中国・上海市に沙迪克機電（上海）有限公司を設立。
平成 9年10月	国際標準化機構の定める品質保証規格「ISO 9002」を加賀事業所・福井事業所で取得。
平成12年 5月	株式交換により株式会社ケイ・エッチ・エス（株式会社ソディック新横に商号変更）を完全子会社とする。
平成13年 8月	連結子会社株式会社ソディックプラスチックがジャスダック市場に上場。
平成13年11月	上海沙迪克軟件有限公司が、国際標準化機構の定める品質保証規格「ISO 9001」を取得。
平成13年12月	世界最高水準のナノ加工機「NANO-100」を開発。
平成15年 3月	中国・上海市に上海テクニカルセンターを開設。
平成16年 5月	Sodick Deutschland GmbH兼 ヨーロッパテクニカルセンターをドイツ・シュツットガルトに設立。
平成17年12月	連結子会社株式会社ソディックハイテックが大坂証券取引所「ヘラクレス」スタンダードに上場。
平成18年 7月	中国・福建省に沙迪克（廈門）有限公司を設立。
平成18年 9月	リニアモータ駆動ハイブリッドワイヤ放電加工機「Hybrid Wire:ハイブリッドワイヤ」を発表。
平成18年12月	福井事業所が、環境マネジメントシステム「ISO 14001」を取得。
平成19年11月	リニアモータ駆動高速形彫り放電加工機「AG シリーズ」を発表。
平成20年11月	連結子会社株式会社ソディックハイテック株式への公開買付けの開始。
平成20年11月	ナノマシニングセンタ「AZ250」を発表。
平成21年 3月	連結子会社株式会社ソディックCPCを吸収合併。
平成21年10月	連結子会社株式会社ソディックハイテックを吸収合併。
平成21年10月	リニアモータ駆動超精密ワイヤ放電加工機「AP250L」を発表。

### 3【事業の内容】

当社グループ（当社及び連結子会社）は、当社ならびに連結子会社27社で構成されており、NC放電加工機ならびにマシニングセンタの開発・製造・販売を行う工作機械事業と、プラスチック射出成形機、リニアモータ応用製品等の開発・製造・販売を行う産業機械事業、プラスチック成形品等の開発・製造・販売を行う精密金型・精密成形品事業、麺製造プラント、製麺機等の食品機械の開発・製造・販売を行う食品機械事業、金型生産統合システム、セラミックス製品及びその関連機器などの開発・製造・販売を行うその他の事業で構成され、これらの事業が有機的に結合・共生して事業の発展に寄与しております。また、これらの事業を担当する関係会社の位置づけは下記のとおりであります。

なお、次の各事業は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 注記事項」に掲げる事業の種類別セグメント情報の区分と同一であります。

#### (1) 工作機械事業

##### 開発・製造拠点

高性能のNC放電加工機、細穴加工機ならびにナノ加工機の開発及び製造を、連結財務諸表提出会社（以下、当社という。）及び㈱ソディック・エフ・エー、Sodick (Thailand) Co., Ltd.（タイ）、蘇州沙迪克特種設備有限公司（中国）、沙迪克（厦門）有限公司（中国）が担当しております。また、マシニングセンタの開発及び製造は、当社が、放電加工周辺機器の開発及び製造は当社及び㈱ソディック新横が、機械用セラミック部材の開発及び製造を㈱ソディック新横が担当しております。なお、Sodick America Corporation（アメリカ）、上海沙迪克軟件有限公司（中国）は、工作機械用のソフトウェアの開発を行っております。

##### 販売・保守サービス拠点

NC放電加工機、細穴加工機ならびにナノ加工機の国内販売については、当社及び㈱ソディック新横が担当しており、保守サービスについては、当社が担当しております。また、マシニングセンタの製品の販売については、当社が担当しており、保守サービスとこれらの機械の周辺機器ならびに消耗品の販売につきましても、当社が対応しております。

NC放電加工機ならびにマシニングセンタの海外販売については、当社が南米地域を、Sodick Inc.（アメリカ）が北米地域を、Sodick Deutschland GmbH（ドイツ）がドイツ語圏を、Sodick Europe Ltd.（英国）がその他のヨーロッパ地域の販売を担当しております。また、アジア地域は、当社が中華圏の販売会社である沙迪克機電（上海）有限公司、Sodick (H.K.) Co., Ltd.（中国香港）、Sodick (Taiwan) Co., Ltd.（台湾）を統括しており、Sodick (Thailand) Co., Ltd.（タイ）がタイ及びベトナムを、Sodick Technologies India Private Ltd.（インド）がインド地域を、Sodick Singapore Pte., Ltd.（シンガポール）がその他の南アジア地域とオセアニア地域における販売を担当しております。なお、Sodick Inc.、Sodick Hightech Germany GmbH、Sodick Hightech Europe Ltd.、沙迪克機電（上海）有限公司、Sodick (H.K.) Co., Ltd.、Sodick (Taiwan) Co., Ltd.、Sodick Engineering Service (Thailand) Co., Ltd.、及びSodick Singapore Pte., Ltd.は製品の保守・サービスや精密加工技術指導も行っております。

##### リース事業

工作機械及び各種産業機器のリースは㈱ソディック新横が担当しております。

#### (2) 産業機械事業

##### 開発・製造拠点

㈱ソディックプラステックが小型精密プラスチック射出成形機の開発及び製造、リニア応用機器の開発及び製造を担当しております。

##### 販売・保守サービス拠点

㈱ソディックプラステックがプラスチック射出成形機の販売及び保守サービス、リニア応用機器の販売及び保守サービスを担当しております。

(3) 精密金型・精密成形事業

開発・製造拠点

(株)ソディック新横及び蘇州凱旋機電元件有限公司(中国)が金型、電子部品の設計・製造ならびにプラスチック成形加工を担当しております。

販売・保守サービス拠点

(株)ソディック新横及び蘇州凱旋機電元件有限公司(中国)が金型、プラスチック成形品及び電子部品の販売を担当しております。

(4) 食品機械事業

開発・製造拠点

(株)ソディックプラステックが食品機械の開発、製造を担当しております。

販売・保守サービス拠点

(株)ソディックプラステックが食品機械の販売、保守を担当しております。

(5) その他の事業

開発・製造拠点

当社がCAD/CAM及び自動化ソフトウェアの開発を担当しております。

販売・保守サービス拠点

当社がCAD/CAM及び自動化ソフトウェアの販売を担当しております。

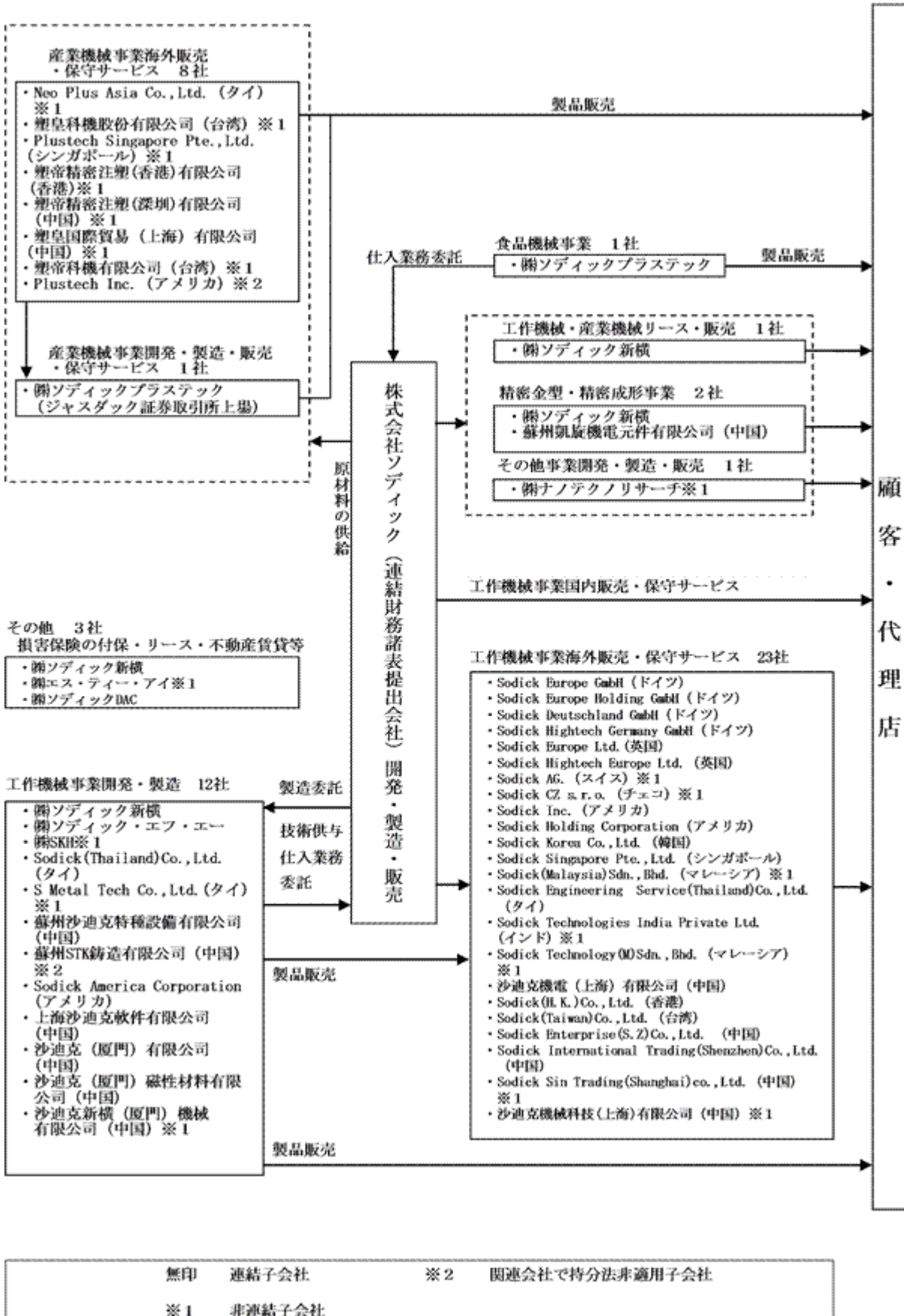
(6) その他

前連結会計年度まで、連結子会社でありました株式会社ソディックハイテックは株式会社ソディックと合併したことにより、廈門沙迪克電子有限公司は沙迪克(廈門)有限公司と合併したことにより、連結の範囲から除いております。

前連結会計年度まで、連結子会社でありました株式会社ソディックセールスジャパン及びFine Plas21(Thailand) Co.,Ltd.は当連結会計年度において会社を清算したため、連結の範囲から除いております。

以上述べた事項を事業系統図によって示すと、次のとおりであります。

なお、工作機械事業、産業機械事業、精密金型・精密成形事業、食品機械事業、その他の事業を担当する関係会社は下記のとおりですが、当社、(株)ソディックプラスチック及び(株)ソディック新横は各事業を併営しております。



#### 4【関係会社の状況】

##### (1) 連結子会社

名称	住所	資本金または出資金	主要な事業の内容	議決権所有割合(%) (注4,5)	関係内容					主要な損益情報等
					役員の兼任(人) (注3)	資金援助	営業上の取引	設備の賃貸借	その他	
株式会社ソディック プラスチック (注1,2,7)	横浜市 港北区	百万円 2,873	射出成形機の開発・製造・販売 食料品加工機械の開発・製造・販売	64.4	2	-	当社製品の販売	-	-	-
株式会社ソディック ・エフ・エー	横浜市 都筑区	百万円 24	NC工作機械の製造 仕入業務受託	100	1	長期貸付金	当社製品資材の代行仕入	建物の賃貸	-	-
株式会社ソディック 新横(注1)	横浜市 港北区	百万円 91	NC放電加工機等賃貸・割賦販売、不動産管理、放電加工機・周辺機器の販売、放電加工消耗品の開発・製造・販売 工業用セラミックの製造	100	2(1)	-	当社からの製品仕入、当社製品及び資産の賃貸借、当社製品の販売・原材料の代行仕入・製品の仕入	土地・建物の賃貸借	債務保証	-
株式会社ソディック D A C	福井県 坂井市	百万円 10	印刷業	60	2	短期貸付金・長期貸付金	当社製品カタログ・取扱説明書の購入	建物の賃貸	-	-
Sodick Inc.	アメリカ合衆国	千米ドル 671	北米における当社製品の販売・アフターサービス	100 (100)	(1)	短期貸付金・長期貸付金	当社製品の販売・保守サービス	-	-	-
Sodick America Corporation	アメリカ合衆国	千米ドル 900	工作機械用ソフトウェアの開発	100	3(3)	短期貸付金・長期貸付金	工作機械用ソフトウェアの開発	-	-	-
Sodick Europe GmbH	ドイツ	千ユーロ 1,278	欧州における当社製品の販売・アフターサービス	100	-	長期貸付金	-	-	-	-
Sodick Singapore Pte.,Ltd.	シンガポール	千シンガポールドル 300	東南アジアにおける当社製品の販売・アフターサービス	100	1(2)	-	当社製品の販売・保守サービス	-	-	-
Sodick Engineering Service(Thailand) Co.,Ltd.	タイ	千タイバーツ 10,000	タイにおけるNC放電加工機の周辺機器販売・アフターサービス	100 (1.6)	2(2)	-	当社製品の販売・保守サービス	-	-	-
上海沙迪克軟件有限公司	中国	百万円 166	工作機械用ソフトウェアの開発	62	3(2)	-	工作機械用ソフトウェアの開発	-	-	-
沙迪克機電(上海)有限公司	中国	千米ドル 1,700	中国における当社製品の販売・アフターサービス	100	1(4)	-	当社製品の販売・保守サービス	-	-	-
蘇州沙迪克特種設備有限公司	中国	千米ドル 7,000	NC放電加工機、各種産業機器の製造	100	2(3)	-	原材料の代行仕入・製品の仕入	-	-	-
蘇州凱旋機電元件有限公司	中国	千人民元 104,192	金型の設計・製造、成形加工	100 (100)	-	短期貸付金・長期貸付金	-	-	-	-
Sodick(H.K.) Co.,Ltd.	中国香港	千米ドル 2,000	中国香港における当社製品の販売・アフターサービス	100	2(1)	-	当社製品の販売・保守サービス	-	-	-



名称	住所	資本金または出資金	主要な事業の内容	議決権所有割合(%) (注4,5)	関係内容					主要な損益情報等
					役員の兼任(人) (注3)	資金援助	営業上の取引	設備の賃貸借	その他	
Sodick(Taiwan) Co.,Ltd.	台湾	千NTドル 63,000	台湾における当社製品の販売・アフターサービス	100	2(2)	-	当社製品の販売・保守サービス	-	-	-
Sodick(Thailand)Co., Ltd. (注1)	タイ	千タイバート 420,000	NC放電加工機、各種産業機器の製造	100	3(4)	長期貸付金	原材料の代行仕入、製品の仕入	-	債務保証	-
Sodick Europe Ltd.	英国	千ポンド 100	欧州における当社製品の販売・アフターサービス	100 (100)	-	-	当社製品の販売・保守サービス	-	-	-
Sodick Deutschland GmbH	ドイツ	千ユーロ 150	欧州における当社製品の販売・アフターサービス	100 (100)	-	-	当社製品の販売・保守サービス	-	-	-
Sodick Holding Corporation	アメリカ合衆国	千米ドル 1,000	北米における事業統括会社	60 [25]	(1)	-	当社製品の販売・保守サービス	-	-	-
Sodick Europe Holding GmbH	ドイツ	千ユーロ 2,050	欧州における事業統括会社	100	(1)	-	当社製品の販売・保守サービス	-	債務保証	-
Sodick Hightech Europe Ltd.	英国	千ポンド 731	欧州における当社製品のアフターサービス・周辺機器販売	100.0 (9.6)	(1)	-	当社製品の販売・保守サービス	-	-	-
Sodick Hightech Germany GmbH	ドイツ	千ユーロ 25	欧州における当社製品のアフターサービス・周辺機器販売	100 (100)	-	-	-	-	-	-
Sodick Enterprise (S.Z)Co.,Ltd.	中国	千香港ドル 2,500	中国における当社製品の販売・アフターサービス	100 (100)	1(1)	-	-	-	-	-
Sodick Korea Co.,Ltd.	韓国	千韓国ウォン 192,840	韓国における当社製品の販売・アフターサービス	100	1(2)	-	当社製品の販売・保守サービス	-	-	-
沙迪克(厦門)有限公司 (注1)	中国	千米ドル 57,000	NC放電加工機、各種産業機器の製造、射出成形機の製造、食料品加工機械の製造	100	1(4)	短期貸付金・長期貸付金	原材料の代行仕入、製品の仕入	-	-	-
沙迪克(厦門)磁性材料有限公司	中国	千人民元 10,000	磁石の製造・開発・販売・サービス	80 (80)	1	-	-	-	-	-
Sodick International Trading(Shenzhen) Co.,Ltd.	中国	千香港ドル 2,000	中国における当社製品の販売・アフターサービス	100 (100)	1	-	-	-	-	-

(注) 1. 特定子会社に該当しております。

- 株式会社ソディックプラスチックは、連結財務諸表の売上高に占める個別の売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の割合が100分の10を超えておりますが、(セグメント情報)の事業の種類別セグメントのうち「産業機械事業」の売上高の100分の90を超えておりますので、主要な損益情報等への記載を省略しています。
- 役員の兼任欄の( )書きの数(外書)は、当社の従業員であります。
- 議決権所有割合欄の( )書きの数(内書)は、議決権所有割合の中の間接所有割合であります。
- 議決権所有割合欄の[ ]書きの数(外書)は、緊密な者の議決権所有割合であります。
- 上記子会社のうち、連結財務諸表に重要な影響を与えている債務超過会社はありません。
- 上記子会社のうち、株式会社ソディックプラスチックは、有価証券報告書を提出しております。

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成22年3月31日現在

事業の種類別セグメントの名称	従業員数(人)	
工作機械事業	1,894	(90)
産業機械事業	245	(16)
精密金型・精密成形事業	248	(236)
食品機械事業	78	(5)
その他の事業	72	(3)
全社(共通)	38	(5)
合計	2,575	(355)

- (注) 1. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない当社の管理部門に所属しているものであります。
2. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含む。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。
3. 従業員が、前連結会計年度と比較して583名減少しましたのは、主に経営の合理化による希望退職者募集によるものです。

### (2) 提出会社の状況

平成22年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
289	40.1	6.3	4,688,592

- (注) 1. 従業員数については、提出会社からその連結子会社等への出向者数を除いて記載しております。
2. 従業員数に、臨時雇用者は含めておりません。
3. 平均年間給与は税込支払給与額であり、基準外賃金及び賞与が含まれております。
4. 従業員数が前期末に比べ61名増加しましたのは、人的資源を含めた経営資源の最適化を目的として、NC放電加工機のアフターサービス及び周辺機器販売を行ってまいりました子会社との合併を行ったことによるものです。

### (3) 労働組合の状況

当社グループ(当社及び連結子会社)には、一部の会社で労働組合が組織されていますが、労使関係について、特に記載すべき事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度のわが国経済は、中華圏を中心としたアジア地域への輸出増加や政府による景気刺激策の効果もあり景気の悪化には歯止めがかかったものの、デフレや円高の進行により企業の業績回復は遅れ、個人消費も引き続き低迷し、雇用情勢も厳しさを増すなど景気の先行きは不透明なまま推移しました。

当社グループを取り巻く経営環境につきましては、主要な取引先である金型業界の設備投資は依然として抑制傾向にあり、引き続き予断を許さぬ状況が継続しました。

このような状況の中、当社グループは主要な子会社である株式会社ソディックハイテックの吸収合併をはじめ、事業拠点の移転や統廃合、人員配置の見直し、経費削減の徹底などあらゆる経営合理化策を推進するとともに、今後の成長が期待できる新興市場向け製品の開発に努めるなど、景気回復後に向けた活動にも注力しました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は前年同期比177億71百万円減（32.6%減）の367億61百万円となりました。また利益面では、営業損失は26億88百万円（前年同期は営業損失25億12百万円）、経常損失は30億73百万円（前年同期は経常損失57億17百万円）、当期純損失は36億69百万円（前年同期は当期純損失85億27百万円）となりました。

なお、事業の種類別セグメントの状況は次のとおりです。

**工作機械事業** ... 放電加工機、精密切削加工機の機械販売は、金型業界をはじめとした顧客の設備投資需要は、上期においては低調に推移しましたが、中国の景気回復などもあり、下期以降は回復基調で推移しました。このような状況の中、生産調整を行い在庫の適正化に努めつつ、ワイヤ放電加工機で使用するワイヤ線など安定した需要が期待できる消耗品販売を鋭意進め、売上の増加に注力いたしました。上記の結果、当事業の売上高は前年同期比132億43百万円減（36.9%減）の226億31百万円となりました。

**産業機械事業** ... 当事業の主力製品である小型精密射出成形機は、LED製品向けの設備投資需要など一部の分野では旺盛でしたが、全体としては低調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は前年同期比40億61百万円減（33.3%減）の81億42百万円となりました。

#### 精密金型・

**精密成形事業** ... 精密金型・精密成形品の製造販売においては、ハイブリッド車の販売が好況だったこともあり、自動車向け精密コネクタの受注が増加し、当事業は好調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は前年同期比16百万円増（0.5%増）の37億24百万円となりました。

**食品機械事業** ... 食品機械事業は、各種製麺機、麺製造プラントなどの開発・製造を行っております。麺製造プラントの受注状況は良好でした。また、受注案件の一部で、新規の開発が必要になるなどコストアップ要因が多く発生しました。上記の結果、当事業の売上高は前年同期比48百万円増（2.4%増）の20億67百万円となりました。

**その他の事業** ... 当事業は大型ファインセラミックスの製造販売及び金型生産統合システムの販売を行っておりますが、液晶パネルの検査装置向けのファインセラミックスの需要は低調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は前年同期比6億2百万円減（66.7%減）の3億円となりました。

また、所在地別セグメントの状況は次のとおりです。

**日本** ... 前期から引き続き主要な顧客である金型業界の設備投資需要は低迷しており、受注環境は底ばいのまま推移しました。営業組織の合理化など国内の需給環境の変化に応じた体制づくりを推進するなど業績の回復に努めましたが、当地域の売上高は前年同期比185億72百万円減（40.8%減）の269億22百万円となりました。

**北・南米** ... 北米地域においては、医療機器関連メーカー向けや、航空宇宙産業、エネルギー開発産業向けを中心に需要が推移し、金融危機の影響は比較的限定的でした。以上の結果、当地域の売上高は前年同期比10億22百万円減（29.9%減）の23億96百万円となりました。

**欧州** ... 前期の金融危機以降急速に減退していた設備投資意欲にも歯止めがかかり、ロシア、トルコなど一部の地域では好転の兆しが見られました。そのような環境の中、当地域の販売体制を簡素化し、収益体質の改善を図りました。以上の結果、当地域の売上高は前年同期比27億60百万円減（44.0%減）の35億7百万円となりました。

**アジア** ... 当地域においても金融危機の影響はありましたが、中国内需向けの設備投資需要が増加し、他地域に先駆けて回復基調に入りました。特に携帯電話やネットブックなど電子機器向けの設備投資意欲が旺盛であり、下期の当地域の市場環境は順調でしたが、上期が低調に推移したこともあり、当地域の売上高は前年同期比126億69百万円減（49.1%減）の131億54百万円となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、以下のキャッシュ・フローの増減により、前連結会計年度末に比べ28億88百万円減少（前年同期比15.5%減）し、当連結会計年度末の残高は158億4百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、72億56百万円（前連結会計年度は19億35百万円の獲得）となりました。これは主にたな卸資産の減少36億72百万円、売掛債権の減少16億13百万円、仕入債務の増加13億94百万円等の増加要因によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、6億93百万円（前連結会計年度は70億88百万円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出5億21百万円、貸付による支出3億40百万円によるものですが、貸付金の回収による収入2億61百万円で一部相殺されています。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、94億37百万円（前連結会計年度は46億5百万円の獲得）となりました。これは主に短期借入金の減少64億62百万円、社債の償還による支出24億34百万円、長期借入金の返済による支出24億66百万円によるものですが、長期借入れによる収入で一部相殺されています。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績を、事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当連結会計年度（百万円） （平成21年4月1日～平成22年3月31日）	前年同期比（％）
工作機械事業	13,180	49.1
産業機械事業	7,091	88.3
精密金型・精密成形事業	4,254	99.1
食品機械事業	2,459	118.1
その他の事業	188	42.0
合計	27,174	65.2

- (注) 1. 金額は、販売価格によって表示しており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含めておりません。  
3. 上記の金額には、サービス売上等の生産を伴わないものは含めておりません。

### (2) 受注状況

当社グループ（当社及び連結子会社）は、販売計画に基づいて生産計画をたて、これにより生産を行っているため、受注生産は行っておりません。

### (3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当連結会計年度（百万円） （平成21年4月1日～平成22年3月31日）	前年同期比（％）
工作機械事業	22,631	63.1
産業機械事業	8,142	66.7
精密金型・精密成形事業	3,724	100.5
食品機械事業	2,067	102.4
その他の事業	300	33.3
合計	36,866	67.4

- (注) 1. 金額にはセグメント間の内部売上高又は振替高を含めております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含めておりません。

### 3【対処すべき課題】

当社グループ（当社及び連結子会社）が対処すべき課題は、以下のように考えております。

#### 景気変動の影響について

工作機械業界の業績は、製造業の設備投資の動向に左右されやすいと言われております。当社グループが、今後成長を継続していくためには、世界各地のマーケットの状況を的確に把握し、その市場にあった製品群を投入することにより、地域経済の景気動向に左右されにくい製品構成にする必要があります。また、製品構成においても、不断の研究開発の結果として、世の中になく新製品を市場に投入することにより、より幅広い顧客層を獲得し、業績が業種や地域の景気動向に左右されにくい、安定した収益構造の構築を目指します。

#### 新市場への対応について

当社グループは、成長市場である東南アジア・中国市場において、他社に先駆けて生産・開発拠点や販売拠点の拡充を進めてまいりました。その結果、これらの地域では放電加工機の販売において成功を収め、当社製品のシェアは日本同様高いと推測されます。しかし「ものづくり」の世界においても、近年BRICsやVISTAといわれる新興工業国の台頭が見られ、工作機械各社もインドやブラジル、ロシア、東欧などに積極的に販売子会社の設立や代理店へのサポートの強化などを打ち出しています。今後も市場の動向を注視し、適切な対応を継続する必要があると考えております。

#### 原価低減について

製造面では、人員の配置などを含めた生産体制の見直しを進めております。また、お客様のニーズである自動化・高速化等の対応のための新製品投入を同時に推し進めてまいりました。原価低減に対しては、来期以降も更なる重要部材の内製化を推進するとともにたな卸資産の適正化や生産工程の見直し等を行い、原価管理の厳格化を進める必要があります。

#### 社内管理体制の拡充について

当社グループは従来より、企業が永続的に成長を続けていくために、株主その他のステークホルダーの方々に信頼していただけるよう誠実な経営を行うことを心がけております。また、事業が拡大する中で効率的経営を行うために、リスク管理やコンプライアンスを含めた内部統制システムの確立に努めてまいりました。さらに、金融商品取引法(日本版SOX法)の成立に伴い「財務報告に係る内部統制の構築」を推進するため、内部監査室を中心として全社的な取組により内部統制システムの充実を図っております。今後も当社グループ全体で「財務報告に係る内部統制の構築」を積極的に実施し、全社的な統制を強化することによって、財務報告の信頼性と適正性が確保できる体制を整備充実させてまいります。

#### 財務面について

平成22年3月末現在で当社グループの有利子負債は、約351億93百万円となっております。経営数値目標でありますD/Eレシオ1.0倍以下には達しませんでした。引き続き財務バランスを意識した経営に取り組んでまいります。今後有利子負債の圧縮を含め様々な施策を行い、株主の皆様に対して継続した利益還元を可能にする強固な財務体質を早期に確立いたします。

#### 4【事業等のリスク】

当社グループ（当社及び連結子会社）の事業展開その他に関するリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項には以下のようなものがあります。当社グループとしては、これらのリスク発生の可能性を認識した上で発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。当社の株式に関する投資判断は、本項及び本書中の本項以外の記載内容も合わせて慎重に検討した上で行なわれる必要があると考えております。また、以下の記載は当社株式への投資に関するリスクを全て網羅するものではありませんので、この点をご留意ください。

なお、文中における将来の事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

##### (1) 景気動向が当社グループにあたる影響

当社グループの業績は、家電、精密機器、半導体、自動車、その他の業界の業績、設備投資動向に大きく影響を受ける傾向にあります。長期的な不況・デフレーションや世界同時不況のような状況に陥った場合は、当社グループの業績は大きな影響を受ける可能性があります。

##### (2) 新規事業に関するリスク

当社グループは、上記（1）にあるように特定の業種の景気動向に業績が左右されやすい構造を持っているため、常に新しい顧客層を取り込む必要があり、新製品を市場に投入しております。しかし、その新しい製品をお客様に理解して頂き、売上高・利益の増加に貢献するには、時間がかかる場合があります。その場合は、研究開発費、販売促進費などの費用は、その回収に先行して発生するため、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。現在においては、食品機械事業やナノ放電加工機などがこれにあたります。食品機械事業は新規参入事業であるため、お客様の幅広いニーズにお応えできる業容を整えるためには、研究開発のための費用と時間が必要です。また、ナノ加工機は、極めて高度な技術が要求される光学部品用金型などの超微細形状の加工を可能とする超高精度加工機であります。普及には時間が必要だと見込まれます。

##### (3) 為替相場の大幅な変動によるリスク

当社グループにおける海外売上高の連結売上高に占める割合は53.0%であり、それぞれの国の経済状況に大きく依存します。また、現地法人との取引はアメリカドル、ユーロ等で決済されており、為替変動によっては、業績に影響を与える場合があります。特に工作機械事業において主要製品の90%以上をタイ及び中国の現地法人が製造しているため、タイバーツ・中国人民元における対円為替相場の大幅な高騰が発生すると製品の製造コストの増大につながり、当社グループの業績に影響を受ける可能性があります。

##### (4) 海外生産に対するリスク

上記（3）為替相場の大幅な変動で挙げましたとおり、工作機械事業における主要製品の90%以上をタイ及び中国の現地法人が製造しております。従って、当該国の経済状況やインフラの整備の遅れ、政治状況の劇的な変化等が発生した場合には、製品の安定した供給が不可能となり納期や品質に影響を及ぼし、当社グループの業績において影響があります。

##### (5) 法的規制のリスク

当社グループの技術及び製品を外国に輸出する場合、外国為替及び外国貿易法の第25条及び第48条により、経済産業大臣の許可が必要な国があります。当社グループとしては、当社の輸出管理室において輸出が規制されている国に対し製品が輸出されないよう厳しくチェックしておりますが、仮にこれらの国に製品が販売された場合、法的な制裁や社会的な信用の失墜などで業績に大きな影響を与える可能性があります。

##### (6) 競合に対するリスク

国内外に競合企業が存在するので、他社の技術で当社グループのカバーできる範囲を大きく超えた製品が開発された場合、当社は市場占有率を大きく失う可能性があります。また、当社グループに関しましては、競合他社とは、技術力で差別化する戦略を採っておりますが、他社の値下げ攻勢により、当社グループ製品の販売価格も引き下げざるをえない状況になった場合、利益を圧迫する可能性があります。

##### (7) 仕入れに関するリスク

原油の高騰及び需要の増大などから生ずる、機械の主要構造体である鉄鋳物や加工タンクなどに使用されるステンレス材、消耗品等に使われる真鍮や銅等の価格の高騰が長期化した場合、当社製品の原価に大きな影響を及ぼす可能性があります。また、受注の一時的集中により部材の需要量が仕入先の供給能力を大きく超えた場合、受注機会を損失する可能性があります。

(8)災害に関するリスク

当社グループの工場、事業所などにおいて、万一大きな産業事故や自然災害が発生した場合には、社会的信用の失墜や、補償などを含む事故対策費用、生産活動の停止による機会損失及び顧客に対する補償などによって、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(9)有利子負債のリスク

平成22年3月末現在の有利子負債残高は351億93百万円となっております。事業資金の調達及び返済は、金利情勢その他の外的環境に左右されるため、金利が上昇するなどした場合には業績に影響が及び可能性があります。

(10)財務制限条項のリスク

当社が複数の金融機関との間で締結しているシンジケートローン（グローバル・コミットメントライン契約）には財務制限条項が定められており、2008年度（第33期）に係る連結財政状態により、当該財務制限条項に抵触する懸念がありました。同決算の確定前に、当該金融機関との間で当該財務制限条項の修正を合意しており、現在では当該財務制限条項への抵触は回避されております。

平成22年3月末現在、当該シンジケートローンから76億28百万円を借入れておりますが、2009年度末時点の連結ベースで現金及び預金が158億17百万円あることから、この借入金を返済した場合でも、短中期的に資金繰りが悪化する可能性は低いと考えております。しかし、当社の翌期以降の連結経常損益、連結純資産が修正後の財務制限条項に定める基準を下回った場合には、借入先金融機関の請求により期限の利益を喪失し、当社グループの事業運営に影響を与える可能性があります。

## 5【経営上の重要な契約等】

当連結会計年度において、新たに締結した重要な契約は次のとおりであります。

連結子会社である株式会社ソディックプラステックは、運転資金の効率的な調達を行うため複数の銀行とコミットメントライン契約を締結いたしました。

(1)借入形態	コミットメントライン契約
(2)融資枠設定金額	15億円
(3)契約日	平成21年11月20日
(4)コミット期間開始日	平成21年11月20日
(5)コミット期間満了日	平成22年3月31日
(6)資金使途	食品機械関連事業譲受資金及び長期運転資金
(7)借入人	株式会社ソディックプラステック
(8)貸付人	株式会社三井住友銀行 株式会社みずほ銀行 株式会社横浜銀行
(9)アレンジャー及びエージェント	株式会社三井住友銀行



## 6【研究開発活動】

研究開発活動の拠点として、横浜本社技術研修センターに研究開発本部を置き、中国上海、米国カリフォルニア州シリコンバレーに研究開発子会社を開設しております。この世界3極体制のもと、技術研修センターを軸に、機械構造設計開発、放電加工用電源の開発、リニアサーボモータ開発、放電加工及びマシニングセンタなどの性能向上の研究を行い、世界最高水準のナノ加工機、Q<sup>3</sup>vic-solution(3D-CAD/CAM)などの開発を行っております。さらに中国上海、カリフォルニア州シリコンバレーなどの地域性を利用し、各種ソフトウェア開発、CNC装置開発、モーションコントローラ開発、カスタムLSI研究などの工作機械の基礎技術となる研究開発を実践しております。

なお、基礎・応用研究には、当社の連結企業グループの合計で15億32百万円（工作機械事業11億63百万円、産業機械事業2億39百万円、食品機械75百万円、その他の事業54百万円）の研究開発費を投入いたしました。

当連結会計年度における主な研究開発の成果は、以下のとおりです。

- ・超精密ワイヤ放電加工機の新製品の開発（工作機械事業、株式会社ソディック）  
超精密金型部品（高速デジタル・インターフェイス用コネクタ、光学デバイス）や微小精密部品（医療・バイオ関連）など最先端のものづくり分野の生産性を向上させるため、加工の高い再現性を可能にした「AP250L」を開発し、販売を開始いたしました。

- ・ワイヤ放電加工機の新製品の開発（工作機械事業、株式会社ソディック）  
インドやブラジルなどの新興国では、ものづくりに必要十分な性能を備えたコストパフォーマンスに優れた製品が求められており、そのニーズにお応えするため、リニアモータ駆動ワイヤ放電加工機“VZシリーズ”を開発し、販売を開始いたしました。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来の事項は、当連結会計年度末現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

### （１）重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されておりますが、この連結財務諸表の作成にあたっては、経営者により、一定の会計基準の範囲内で見積りが行われている部分があり、資産・負債や収益・費用の数値に反映されております。これらの見積りについては、継続して評価し、必要に応じて見直しを行っておりますが、見積りには不確実性が伴うため、実際の結果は、これらとは異なることがあります。

### （２）当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度のわが国経済は、中華圏を中心としたアジア地域への輸出増加や政府による景気刺激策の効果もあり景気の悪化には歯止めがかかったものの、デフレや円高の進行により企業の業績回復は遅れ、個人消費も引き続き低迷し、雇用情勢も厳しさを増すなど景気の先行きは不透明なまま推移しました。

当社グループを取り巻く経営環境につきましては、主要な取引先である金型業界の設備投資は依然として抑制傾向にあり、引き続き予断を許さぬ状況が継続しました。

このような状況の中、当社グループは主要な子会社である株式会社ソディックハイテックの吸収合併をはじめ、事業拠点の移転や統廃合、人員配置の見直し、経費削減の徹底などあらゆる経営合理化策を推進するとともに、今後の成長が期待できる新興市場向け製品の開発に努めるなど、景気回復後に向けた活動にも注力いたしました。

#### [ 売上高 ]

当連結会計年度の売上高は、下期より景気に回復の兆し見えたものの上期低迷の影響もあり、前連結会計年度比177億71百万円減（32.6%減）の367億61百万円となっております。

#### [ 売上原価 ]

当連結会計年度の売上原価は、前連結会計年度比115億78百万円減（29.3%減）の278億77百万円となっております。固定費の削減に努めましたが、売上の減少による影響が大きく、売上高に占める売上原価の比率は、75.8%と前連結会計年度と比較して3.4ポイント増加しております。

#### [ 販売費及び一般管理費 ]

当連結会計年度の販売費及び一般管理費は、前連結会計年度比60億26百万円減（34.2%減）の115億75百万円となっております。これは人件費の削減、旅費交通費や広告宣伝費の圧縮を実施したことによるものです。

#### [ 営業利益 ]

当連結会計年度の営業損失は、景況感の悪化に伴う売上の減少による影響などもあり、26億88百万円となっております。

#### [ 経常利益 ]

当連結会計年度の経常損失は、円安の進行による為替差益、銅・亜鉛のスワップ取引の評価益が発生しましたが、支払利息などの影響もあり30億73百万円となっております。

#### [ 当期純利益 ]

特別利益として、貸倒引当金戻入額2億77百万円、特別損失として、事業構造改善費用6億22百万円を計上した結果、税金等調整前当期純損失は34億22百万円となっております。これに法人税、住民税及び事業税2億78百万円、過年度法人税等1億27百万円、法人税等調整額2億29百万円及び少数株主損失1億33百万円を加減し、当連結会計年度における当期純損失は36億69百万円となっております。

### （３）経営成績に重要な影響を与える要因について

「第2 事業の状況 4 事業等のリスク（１）景気動向が当社グループにあたる影響」にあるように、当社グループの業績は、顧客の設備投資意欲に大きく依存する傾向にあります。これをできる限り回避し、安定した企業経営を行うため、グループ各社において効率性を重視した研究開発投資を行い、従来にない多様な製品・サービスを提供することにより、顧客層を広げ景気変動の業績に対する影響を極力抑えることを経営課題としております。また同様の目的で、景気動向に左右されにくい傾向にある食品機械事業に取り組むなど、事業基盤の安定を図っております。

#### (4) 経営戦略の現状と見通し

当社グループを取り巻く経営環境は現在急激に変化しておりますが、その変化に対応しつつ、グループの継続的な成長を図るため、当社グループは「経営改善計画」を策定し、徹底的なコスト削減と抜本的な組織再編による経営資源の最適化・合理化や市場環境に応じた事業展開を進めております。

当社グループは、主力事業である工作機械事業の市場を日本・欧米などの成熟市場とアジア・南米などの新興国市場に区分し、それぞれの市場に応じた事業展開を行ってまいります。成熟市場である日本や欧米においては、工作機械がすでに市場全体に行きわたっていることから、既存の納入機のユーザーへの継続的な技術指導や保守契約によるメンテナンスを通じて、周辺機器や消耗品の販売強化を図ります。一方、インドやブラジルなどに代表される新興国市場においては、すでに進出に成功した中国市場における経験を活かし、新興国市場のニーズを反映した機種の開発を行い、積極的なシェアの獲得に取組んでまいります。航空宇宙産業や医療機器産業などの分野は、要求されるレベル・特殊性ともに高いものがありますが、安定した需要が見込まれることから、豊富なノウハウを活かした専用機の開発に積極的に取組み、収益力の強化に努めてまいります。また、当社グループはリニアモーターや大型セラミック部材の製造など優れた要素技術を有しておりますが、これらの要素技術の外販も進めて事業の拡大を目指します。

上記「(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について」にあるように研究開発の成果によって新しい事業を興すことにより、リスク分散を図り、安定した収益を得ることができる体制の構築を目指しております。具体的な成果としては、射出成形機、食品機械等であり、特に食品機械は景気動向に左右されにくく、安定した事業基盤の構築につながるものと期待されることから、企画開発から加工、搬入、メンテナンスのトータルサポートまで幅広く注力してまいります。

#### (5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、以下のキャッシュ・フローの増減により、前連結会計年度末に比べ28億88百万円減少（前年同期比15.5%減）し、当連結会計年度末の残高は158億4百万円となりました。

営業活動の結果得られた資金は、72億56百万円（前連結会計年度は19億35百万円の獲得）となりました。これは主にたな卸資産の減少36億72百万円、売掛債権の減少16億13百万円、仕入債務の増加13億94百万円等の増加要因によるものです。

投資活動の結果使用した資金は、6億93百万円（前連結会計年度は70億88百万円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出5億21百万円、貸付による支出3億40百万円によるものですが、貸付金の回収による収入2億61百万円で一部相殺されています。

財務活動の結果使用した資金は、94億37百万円（前連結会計年度は46億5百万円の獲得）となりました。これは主に短期借入金の減少64億62百万円、社債の償還による支出24億34百万円、長期借入金の返済による支出24億66百万円によるものですが、長期借入れによる収入で一部相殺されています。

なお、当連結会計年度末における有利子負債残高（短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、1年内償還予定の社債、社債、長期借入金の合計）は351億93百万円であります。

#### (6) 当連結会計年度の財政状態の分析

当連結会計年度末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ115億84百万円減少し、727億67百万円となりました。主な要因は、たな卸資産の減少40億86百万円、現金及び預金の減少29億円、受取手形及び売掛金の減少15億72百万円によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ80億30百万円減少し、489億19百万円となりました。主な要因は、短期借入金、長期借入金及び社債を合わせた有利子負債の減少91億26百万円によるものですが、支払手形及び買掛金の増加13億13百万円により一部相殺されています。

純資産につきましては、当期純損失36億69百万円の計上により、前連結会計年度末に比べ35億53百万円減少し、238億48百万円となりました。

(7) 経営者の問題意識と今後の方針について

近年の工作機械市場は世界経済の好調に支えられ拡大傾向にあり、当社グループも市場の拡大に対応するため、事業の分社化を推進し、グループ内の各事業別の部分最適化を重視した方針を採用しておりました。しかしながら、一昨年の金融危機の影響による市場の収縮は顕著であり、このような外部環境の変化に対応するため、成長重視の部分最適化からグループ内の経営資源を最大限に利用する全体最適化の路線に方針を変更いたしました。この新たな方針に則って、上記「(4) 経営戦略の現状と見通し」にある各種施策を実施するとともに、グループ各社の吸収合併など徹底的な合理化を行い、経営資源の最適な配置を行ってまいります。また、グループ全体を俯瞰した経営管理を意識した情報システムを構築し、適切な資金管理、必要な業務情報の掌握、決算業務の迅速化など各種業務プロセスの質・スピード・正確性を高めてまいります。

資金需要に関しましては、近年、当社グループは市場の拡大に伴い運転資金の需要が増加し、借入金も増加傾向にありました。しかし、上記のグループ組織再編によるグループ全体の運転資金の減少、たな卸資産の圧縮などの諸施策により、資金需要は抑制されるものと考えられます。資金のバランスに関しましては、現在、当社グループは現預金と借入金の両建てで資金を運用しております。今後は金利水準の上昇も想定されることから、シンジケートローンなどを活用し資金効率を意識した経営に取り組んでまいります。

以上のように事業環境を的確に把握し、主力事業の拡大や新規事業のための設備投資等を適切に行い、早期の業績回復を目指します。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループ（当社及び連結子会社）では、各事業セグメントにおきまして設備の更新を中心に、有形固定資産・無形固定資産への資本的支出を行いました。

工作機械事業におきましては、Sodick（Thailand）Co., Ltd.、蘇州沙迪克特種設備有限公司及び沙迪克（廈門）有限公司におけるNC放電加工機の生産性の向上のために製造設備の更新を中心に6億97百万円の資本的支出を行いました。

産業機械事業におきましては、(株)ソディックプラスチックにおける射出成形機の生産能力増強のため、製造設備の増設を中心に1億45百万円の資本的支出を行いました。

精密金型・精密成形事業におきましては、蘇州凱旋機電元件有限公司における合成樹脂加工製品の製造設備の更新を中心に32百万円の資本的支出を行いました。

食品機械事業におきましては、(株)ソディックプラスチックにおける食品機械製造設備の増設などを中心に17百万円の資本的支出を行いました。

その他の事業におきましては、(株)ソディック新横における工業用ファインセラミック生産のための製造設備の更新を中心に4百万円の資本的支出を行いました。

なお、当連結会計年度において、重要な設備の除却等はありません。

## 2【主要な設備の状況】

当社グループ（当社及び連結子会社）における主要な設備は、次のとおりです。

なお、各表の金額は平成22年3月31日現在の帳簿価額であり、建設仮勘定は含めておりません。また面積欄の（ ）内は賃借分であります。

### (1) 提出会社

事業所名 (所在地)	事業の種類 別セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額							従業員数 (人)
			建物及び 構築物 (百万円)	機械装置 及び運搬 具 (百万円)	工具器具 備品 (百万円)	土地		リース資産 (百万円)	合計 (百万円)	
						面積 (㎡)	(百万円)			
本社、技術・研修センター (横浜市都筑区)	全社、工作 機械事業	管理及び研 究開発設備	625	51	42	15,644.13	2,529	1	3,249	17
福井事業所 (福井県坂井市坂井町)	工作機械事 業	工作機械生 産設備	1,353	183	49	49,090.50 (32,185.00)	173	198	1,959	136

(注) 従業員数については、連結子会社等の従業員数を除いております。

### (2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	事業の種類 別セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額							従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (百万円)	機械装置 及び運搬 具 (百万円)	工具器具 備品 (百万円)	土地		リース資産 (百万円)	合計 (百万円)	
							面積 (㎡)	(百万円)			
株式会社 ソディック プラスチック	加賀事業所 (石川県加 賀市)	産業機械事 業	産業機械生 産設備	1,525	518	46	98,638.66	1,161	406	3,659	201 (6)
株式会社 ソディック プラスチック	トム事業部 ・工場 (石川県白 山市)	食品機械事 業	食品機械生 産設備	62	46	7	10,498.98	272	-	388	52 (1)
株式会社 ソディック 新横	EWS事業 部・工場 (宮崎県宮 崎市)	工作機械事 業	工作機械用 消耗品の生 産設備	650	317	17	-	-	-	986	45
株式会社 ソディック 新横	EMG事業 部・工場 (石川県加 賀市)	工作機械事 業 その他の事 業	機械部材用 セラミック ・セラミッ クス応用製 品生産設備	223	130	5	12,639.84	103	-	462	53

(注) 従業員数の( )書は臨時雇用者で年間の平均人数を外数で記載しております。

(3) 在外子会社

会社名	事業所名 (所在地)	事業の種類 別セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額							従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (百万円)	機械装置 及び運搬 具 (百万円)	工具器具 備品 (百万円)	土地		リース資産 (百万円)	合計 (百万円)	
							面積 (㎡)	(百万円)			
Sodick (Thailand) Co.,Ltd.	本社・工場 (タイ・ナ ワナコン)	工作機械事 業	工作機械生 産設備	1,160	428	34	96,439.00	185	148	1,957	600
蘇州沙迪克 特種設備有 限公司	本社・工場 (中国・江 蘇省)	工作機械事 業	工作機械生 産設備	554	447	21	-	-	105	1,128	173
蘇州凱旋機 電元件有限 公司	本社・工場 (中国・江 蘇省)	精密金型・ 精密成形事 業	金型製造設 備	433	641	45	-	-	22	1,143	163
沙迪克(厦 門)有限公 司	本社・工場 (中国・福 建省)	工作機械事 業	工作機械生 産設備	2,552	1,108	75	-	-	-	3,736	271

(注) 従業員数の( )書は臨時雇用者で年間の平均人数を外数で記載しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループ(当社及び連結子会社)における設備投資計画については、原則として事業の種類別セグメントごとに、製品の需要動向等及び業務改革の必要性を参考に検討を加え、策定しております。

当連結会計年度末現在における重要な設備投資計画は、次のとおりです。

会社名事業所 名	所在地	事業の種類 別セグメン トの名称	設備の種類	設備の目的	投資予定金額		資金調達方 法	着手および完了予定年月		完成後の 増加能力
					総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
提出会社	横浜市 都筑区	全社、工作 機械事業	管理及び研 究開発設備	本社ビルの 増築(ナノ 加工技術開 発設備を付 設)	3,000	-	増資資金	未定 (注3)	未定	-

(注) 1. 上記金額には消費税を含めておりません。

2. 当連結会計年度末における重要な設備の除却・売却などの計画はありません。

3. 横浜市と建築関係の許認可の確認を済ませ、各種条例に基づき近隣住民との建設合意に向けた交渉の準備を進めておりますが、着手時期は未定としております。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000,000
計	150,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成22年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成22年6月29日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	53,432,510	53,432,510	東京証券取引所 (市場第二部)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	53,432,510	53,432,510	-	-

(注) 提出日現在の発行数には、平成22年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。



( 2 ) 【新株予約権等の状況】

平成19年 6月28日定時株主総会決議

	事業年度末現在 (平成22年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成22年5月31日)
新株予約権の数(個)	1,295	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	129,500	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	932	同左
新株予約権の行使期間	自平成21年9月1日 至平成24年8月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 932 資本組入額 466	同左
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、権利行使時において当社の取締役、監査役または従業員のいずれかの地位にあることを要する。ただし、任期満了により当社の取締役または監査役を退任した場合、定年を理由に退職した場合、その他当社の取締役会が正当な理由があると認めた場合は、この限りではない。</p> <p>新株予約権者の相続人による新株予約権の行使は認められない。</p> <p>その他の条件については、当社株主総会決議及び取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-	-

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

平成22年2月1日以後に開始する事業年度に係る有価証券報告書から適用されるため、記載事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(百万円)	資本金残高(百万円)	資本準備金増減額(百万円)	資本準備金残高(百万円)
平成18年6月14日 (注1)	6,000,000	53,108,810	3,726	20,574	3,716	6,746
平成18年7月14日 (注2)	323,700	53,432,510	201	20,775	200	6,947

- (注) 1. 平成18年6月14日を払い込み期日とする募集株式の発行による増資により、発行済株式総数が6,000,000株、資本金及び資本準備金が、3,726百万円及び3,716百万円それぞれ増加しております。
2. 平成18年7月14日を払い込み期日とする第三者割当による増資により、発行済株式総数が323,700株、資本金及び資本準備金が、201百万円及び200百万円それぞれ増加しております。

(6) 【所有者別状況】

平成22年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	22	31	196	53	7	16,041	16,350	-
所有株式数(単元)	-	50,215	4,027	23,090	28,510	198	427,915	533,955	37,010
所有株式数の割合(%)	-	9.40	0.76	4.32	5.34	0.04	80.14	100	-

(注) 自己株式3,920,587株は「個人その他」に39,205単元及び「単元未満株式の状況」に87株を含めて記載しております。

(7)【大株主の状況】

平成22年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
株式会社ソディック	神奈川県横浜市都筑区仲町台 三丁目12番1号	3,920	7.33
古川 利彦	神奈川県横浜市港北区	2,345	4.39
大村 日出雄	神奈川県茅ヶ崎市	1,045	1.95
ノーザントラストカンパニーエイブイエフシー サブアカウントアメリカンクライアント (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	50 BANK STREET CANARY WHART LONDON E14 5NT UK (東京都中央区日本橋三丁目11番1 号)	944	1.76
ソディック共栄持株会	神奈川県横浜市都筑区仲町台 三丁目12番1号	880	1.64
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区有楽町一丁目 1番2号	850	1.59
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番 11号	739	1.38
鈴木 正昭	神奈川県横浜市青葉区	726	1.35
株式会社北陸銀行	富山県富山市堤町通り一丁目 2番26号	700	1.31
ソディック従業員持株会	神奈川県横浜市都筑区仲町台 三丁目12番1号	541	1.01
合計	-	10,582	23.75

(注) 上記の持株数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりになります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 739千株

(8)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成22年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,920,500	-	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 49,475,000	494,750	同上
単元未満株式	普通株式 37,010	-	-
発行済株式総数	53,432,510	-	-
総株主の議決権	-	494,750	-

【自己株式等】

平成22年3月31日現在

所有者の氏名又は 名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社ソディック	横浜市都筑区仲町 台三丁目12番1号	3,920,500	-	3,920,500	7.33
計	-	3,920,500	-	3,920,500	7.33

( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】  
(平成19年6月28日 定時株主総会決議)

決議年月日	平成19年6月28日
付与対象者の区分及び人数(名)	取締役 9 監査役 5
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数(株)	新株予約権1個あたりの目的となる株式数は、100株とする。 各事業年度に係る定時株主総会開催日の翌日以降1年間に発行する新株予約権の総数は、割当てる新株予約権の各々の数に、それぞれ割当てる日(以下「割当日」という。)においてブラック・ショールズ・モデルに基づき算出した新株予約権1個あたりの公正価額を乗じた額の合計が新株予約権に関する報酬額を超えないものとする。 なお、当社が合併、募集株式の発行、会社分割、株式分割または株式併合等を行うことにより、株式数の変更をすることが適切な場合は、当社は必要と認める調整を行うものとする。
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株あたりの行使価額は、新株予約権を割当てる日の属する月の前月の各日(取引が成立していない日を除く)における東京証券取引所における当社株式普通取引の終値の平均値または新株予約権割当日の前日の東京証券取引所における当社株式普通取引終値(取引が成立しない場合はそれに先立つ直近日の終値)のうちいずれか高い方に1.03を乗じた金額(1円未満は切上げ)とする。 なお、当社が合併、募集株式の発行、会社分割、株式分割または株式併合等を行うことにより、行使価額の変更をすることが適切な場合は、当社は必要と認める調整を行うものとする。(調整による1円未満は切上げ)
新株予約権の行使期間	新株予約権割当日の翌日から10年間を経過する日までの範囲内で、当社取締役会の定めるところによる。
新株予約権の行使の条件	新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、権利行使時において当社の取締役及び監査役または従業員のいずれかの地位にあることを要す。 ただし、任期満了により退任した場合、定年退職その他取締役会が正当な理由があると認めた場合は、この限りではない。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	871	183,808
当期間における取得自己株式	60	17,910

(注) 当期間における取得自己株式には、平成22年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	3,920,587	-	3,920,647	-

(注) 当期間における保有自己株式には、平成22年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りおよび売渡による株式は含まれておりません。

## 3【配当政策】

当社は大切な資本をお預かりさせていただいた株主の皆様に対し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定かつ継続的な配当を実施することを基本方針としています。そこで株主の皆様に対する利益還元は、当該年度の業績や資金収支などを総合的に判断して行うこととしており、株主資本配当率(DOE)2%以上を目標として考えております。

なお、内部留保金については恒常的に業績の向上をはかっていくために、長期的視野に立った研究開発や設備投資に有効活用してまいります。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

#### 4【株価の推移】

##### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第30期	第31期	第32期	第33期	第34期
決算年月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月
最高(円)	2,150	2,000	947	585	385
最低(円)	851	731	429	125	130

(注) 株価は、東京証券取引所市場第二部の市場相場であります。

##### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成21年10月	平成21年11月	平成21年12月	平成22年1月	平成22年2月	平成22年3月
最高(円)	227	202	177	235	217	385
最低(円)	181	130	132	161	186	217

(注) 株価は、東京証券取引所市場第二部の市場相場であります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長 (代表取締役)	-	古川 利彦	昭和15年3月26日生	昭和38年2月 株式会社日本放電加工研究所入社 昭和51年8月 当社設立と同時に取締役社長に就任に就任 平成3年6月 遠州製作株式会社(現エンシュウ株式会社)取締役就任 平成6年12月 蘇州沙迪克特種設備有限公司董事長に就任 平成13年4月 当社取締役会長に就任 平成15年2月 株式会社ソディックハイテック取締役会長に就任 平成16年4月 株式会社ソディックCPC(現株式会社ソディック新横)取締役就任 平成18年3月 ソディックリース株式会社(現株式会社ソディック新横)取締役社長に就任 平成21年1月 株式会社ソディックハイテック取締役社長に就任 平成21年6月 当社代表取締役会長に就任(現) 平成21年6月 株式会社ソディックプラステック取締役会長に就任 平成22年6月 株式会社ソディックプラステック取締役相談役に就任(現)	(注) 2、6	2,345
取締役社長 (代表取締役)	-	藤原 克英	昭和24年7月31日生	昭和51年8月 当社入社 昭和61年4月 海外本部第二部長に就任 昭和62年11月 海外本部業務部長に就任 昭和63年9月 戦略物質管理室室長兼海外本部業務部長に就任 平成元年7月 特許室室長に就任 平成14年1月 知的財産室室長に就任 平成16年4月 管理本部本部長に就任 平成16年6月 当社取締役に就任 管理本部本部長を委嘱 平成18年7月 当社常務取締役に就任 平成20年12月 当社代表取締役社長に就任(現)	(注) 2	150
取締役副社長	-	保坂 昭夫	昭和23年12月25日生	昭和51年8月 当社入社 昭和60年5月 当社EDM事業部製造部長に就任 昭和62年6月 当社取締役 加賀FMS事業部事業部長に就任 平成2年6月 当社常務取締役に就任 平成6年12月 蘇州沙迪克特種設備有限公司總經理に就任 平成10年7月 Sodick(Thailand)Co.,Ltd.取締役会長に就任 平成13年4月 当社専務取締役に就任 平成16年4月 当社取締役に就任 平成16年4月 株式会社ソディックCPC代表取締役社長に就任 平成21年3月 当社生産統括本部本部長に就任 平成21年6月 当社取締役副社長に就任(現) 平成21年7月 Sodick(Thailand)Co.,Ltd.取締役会長に就任(現)	(注) 2	210

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
専務取締役	営業統括 担当	高木 圭介	昭和30年2月20日生	昭和53年4月 当社入社 昭和63年8月 当社大阪支店支店長に就任 平成3年7月 当社海外本部付部長に就任 平成6年1月 Sodick Inc.代表取締役社長に就任 平成9年7月 当社海外営業部部長に就任 平成13年6月 当社取締役 営業統括部海外担当に 就任 平成16年4月 株式会社ソディックCPC取締役 副社長に就任 平成21年3月 当社亜細亜営業本部本部長に就任 平成21年6月 当社常務取締役に就任 平成21年7月 Sodick(Thailand)Co.,Ltd.取締役 に就任(現) 平成22年4月 当社営業統括担当に就任(現) 平成22年6月 当社専務取締役に就任(現)	(注)2	113
専務取締役	研究開発・ 商品技術 担当	金子 雄二	昭和32年4月7日生	昭和56年4月 当社入社 平成4年5月 研修開発本部次長に就任 平成5年6月 生産本部エレクトロニクス技術部 部長に就任 平成11年7月 研究開発本部研究開発グループマ ネージャーに就任 平成12年2月 Sodick America Corp.取締役社長 に就任(現) 平成16年4月 当社研究開発本部本部長に就任 平成16年6月 当社取締役に就任 研究開発本部本部長に就任 平成16年11月 アドバンスト研究本部本部長に就 任 平成20年6月 当社常務取締役に就任 研究開発担当に就任(現) 平成22年4月 当社商品技術担当に就任(現) 平成22年6月 当社専務取締役に就任(現)	(注)2	103
常務取締役	国内営業 担当	松井 孝	昭和29年11月4日生	昭和55年10月 当社入社 平成15年12月 株式会社ソディックハイテック入 社 平成16年6月 株式会社ソディックエンジニアリ ング常務取締役に就任 平成18年4月 同社代表取締役社長に就任 平成18年6月 株式会社ソディックハイテック常 務取締役に就任 平成18年7月 同社精密機械事業事業部長に就任 平成21年1月 当社国内営業本部本部長に就任 平成21年6月 当社常務取締役に就任(現) 平成22年4月 当社営業本部本部長に就任(現)	(注)2	100
常務取締役	カスタマー エンジニア リング事業 担当	唐戸 幸作	昭和28年4月17日生	昭和53年4月 当社入社 昭和62年4月 当社研究開発本部研究部次長に就 任 平成8年5月 当社研究開発本部NCグループ次 長に就任 平成13年4月 当社技術開発本部本部長に就任 平成13年6月 当社取締役 技術開発本部本部長に 就任 平成14年1月 当社研究開発本部本部長 平成16年4月 株式会社ソディックCPC専務取 締役 平成21年3月 当社営業技術本部本部長に就任 平成21年6月 当社常務取締役に就任(現)	(注)2	118



役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常務取締役	財務・経営 企画・情報 システム 担当	古川 健一	昭和47年 8月 5日生	平成11年 8月 当社入社 平成19年 4月 株式会社トム・ソディック取締役 社長に就任 平成19年12月 財務部部長に就任 平成20年 4月 総合企画本部本部長に就任(現) 平成20年 6月 当社取締役に就任 平成22年 6月 当社常務取締役に就任(現)	(注) 2、6	272
取締役	欧米営業 担当	久保 光宏	昭和39年 1月24日生	昭和63年 4月 当社入社 平成15年 2月 Sodick(Thailand)Co.,Ltd. タイ技 術支援部部長に就任 平成17年12月 Sodick(Thailand)Co.,Ltd. 本機製 造部部長 平成20年 7月 Sodick(Thailand)Co.,Ltd. 取締役 に就任(現) 平成21年 6月 当社取締役に就任(現) カスタマーサポート本部長を委嘱 平成22年 4月 当社欧米営業担当に就任(現)	(注) 2	-
取締役	生産本部 担当	岡崎 秀二	昭和33年 2月24日生	平成元年 1月 当社入社 平成12年 6月 当社生産技術本部技術部次長に就 任 平成16年11月 蘇州沙迪克特種設備有限公司副総 経理に就任 平成21年 3月 当社生産統括本部技術部部長に就 任 平成22年 4月 当社生産本部本部長に就任(現) 平成22年 6月 当社取締役に就任(現)	(注) 2	-
取締役	国内営業 担当	島田 幸徳	昭和34年 3月16日生	昭和56年 4月 当社入社 平成13年 7月 当社営業統括本部本社営業部部長 に就任 平成14年10月 当社営業統括本部関東支店支店長 に就任 平成19年 4月 株式会社ソディック東日本販売取 締役社長に就任 平成21年 1月 当社国内営業本部東日本支店支店 長に就任 平成22年 4月 当社国内営業統括部部長に就任 (現) 平成22年 6月 当社取締役に就任(現)	(注) 2	-
取締役	研究開発 担当	原田 武則	昭和39年 7月 2日生	昭和62年 4月 当社入社 平成18年 4月 当社アドバンスト研究本部先端制 御基盤研究グループマネージャー に就任 平成19年 4月 当社アドバンスト研究本部副本部長 に就任 平成20年 4月 当社研究開発本部副本部長に就任 平成22年 4月 当社研究開発本部本部長に就任 (現) 平成22年 6月 当社取締役に就任(現)	(注) 2	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	-	鈴木 正昭	昭和15年4月11日生	昭和51年8月 当社入社 昭和53年6月 当社常務取締役に就任 昭和58年6月 当社専務取締役に就任 昭和61年6月 当社取締役副社長に就任 平成2年6月 当社代表取締役社長に就任 平成3年5月 上海沙迪克軟件有限公司董事長に就任 平成4年6月 当社取締役副社長に就任 平成5年6月 当社取締役に就任 平成5年6月 株式会社セマ ソディック(現株式会社ソディック・エフ・エー)取締役に就任 平成5年12月 ソディックリース株式会社(現株式会社ソディック新横)取締役に就任 平成7年3月 Sodick(Thailand)Co.,Ltd.取締役に就任 平成11年5月 当社取締役副社長に就任 平成12年2月 沙迪克機電(上海)有限公司董事長に就任 平成13年4月 当社取締役に就任 平成14年6月 当社取締役会長に就任 平成15年2月 株式会社ソディックハイテック監査役に就任 平成18年4月 株式会社CPC(後ソディックCPC)取締役に就任 平成21年6月 当社取締役副会長に就任 平成21年6月 株式会社ソディックプラスチック代表取締役に就任 平成22年6月 株式会社ソディックプラスチック代表取締役に就任(現) 平成22年6月 当社取締役に就任(現)	(注)2	726
常勤監査役		楠 左衛治	昭和18年1月8日生	昭和60年4月 当社入社 昭和62年4月 総務部長に就任 平成15年1月 総務部付部長に就任 平成15年6月 当社監査役に就任 平成18年6月 当社常勤監査役に就任(現)	(注)3	10
監査役		小山 秋吉	昭和9年11月30日生	昭和29年1月 株式会社双葉製作所(現フランスベッド株式会社)入社 昭和54年4月 フランスベッド株式会社専務取締役に就任 昭和61年4月 フランスベッド販売株式会社専務取締役に就任 平成3年6月 フランスベッド販売株式会社取締役社長に就任 平成12年6月 フランスベッド販売株式会社取締役名誉会長に就任 平成15年10月 フランスベッド販売株式会社非常勤相談役に就任 平成17年6月 当社監査役に就任(現)	(注)1、4	-
監査役		大木 國男	昭和16年3月15日生	昭和43年9月 尾澤修治公認会計士共同事務所入所 昭和45年10月 監査法人朝日会計社(現あざさ監査法人)入社 昭和59年10月 公認会計士大木國男会計士事務所開設(現) 平成20年6月 当社監査役に就任(現)	(注)1、5	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役		下山 和人	昭和34年12月30日生	昭和58年4月 税理士下山貞男事務所入所(現) 平成14年11月 株式会社シー・エフ・ネットス監査 役(現) 平成16年4月 学校法人高根学園理事に就任(現) 平成20年6月 当社監査役に就任(現)	(注) 1、5	-
計						4,149

- (注) 1 . 監査役小山秋吉、大木國男及び下山和人は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
- (注) 2 . 平成22年6月29日開催の第34回定時株主総会の終結の時から2年間
- (注) 3 . 平成19年6月28日開催の第31回定時株主総会の終結の時から4年間
- (注) 4 . 平成21年6月26日開催の第33回定時株主総会の終結の時から4年間
- (注) 5 . 平成20年6月27日開催の第32回定時株主総会の終結の時から3年間
- (注) 6 . 常務取締役古川健一は、代表取締役会長古川利彦の実子であります。

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 1. 企業統治の体制

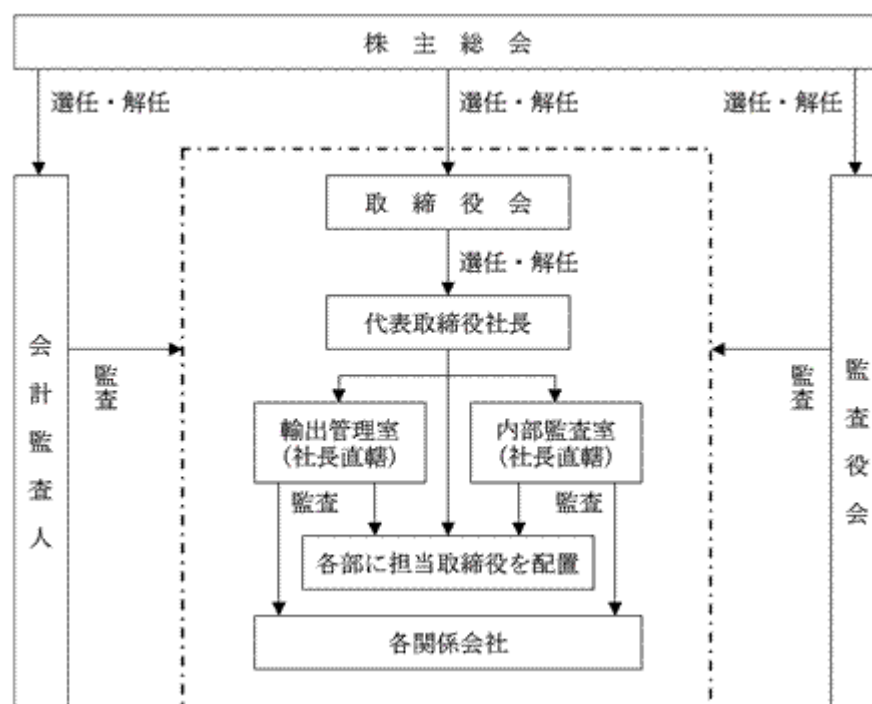
企業統治の体制の概要とその体制を採用する理由

当社は監査役制度を採用しており、経営上の重要な事項についての意思決定を取締役会が行い、監査役会により業務執行の監視を行っています。

取締役会は平成22年6月29日現在、取締役13名及び監査役4名（うち社外監査役3名）で構成されています。取締役会は、毎月1回定例開催し、「取締役会規程」により法令に準拠する重要事項は全て諮られています。なお、関係会社の経営については「関係会社運営管理規程」のもと、独立性を尊重しつつ、当社から関係会社への出資目的等も踏まえ、事業内容の定期的な報告を求め、重要案件については事前協議及び当社取締役会への付議を行うなど、関係会社との緊密な連携のもとに「ソディック」ブランドの維持向上に努めています。

監査役会は平成22年6月29日現在、監査役4名（うち社外監査役3名）で構成されています。社外監査役は社外の独立した立場からの視点を取締役会に反映させることによって、当社取締役会の活性化を図り、適切な経営チェック機能による経営監視体制を整えた上で、企業経営の自治と機動性を確保した事業活動を行っています。

現状の体制につきましては、取締役による相互チェックや監査役による監査並びに監査役が会計監査人と連携を図る体制により、適正な業務執行及び監督が可能であることから採用しており、具体的な関係を図示しますと以下のとおりです。



#### 内部統制システムの整備の状況

当社では、平成18年5月17日の取締役会において会社法及び会社法施行規則に基づき、業務の適正を確保するための内部統制システムの基本方針について決議いたしました。この基本方針に従い、従来より構築している内部統制システムをより発展させることといたします。

#### リスク管理体制の整備の状況

当社は、各部門において有するリスクの把握、分析、評価及びその回避等適切な対応を実施するとともに、経営に重大な影響を及ぼす不測の事態が発生したまたは発生する恐れが生じた場合に備え、予め必要な対応方針を整備し、それが発生した場合には、必要かつ適切な対応を行うこととしています。また、新たに生じたリスクについては、取締役会において、速やかに対応責任者となる取締役を定め、特に、法令遵守（コンプライアンス）、環境（自然環境および就業環境、健全な職場を含む）、災害、品質（製品・サービス・業務）、情報セキュリティ、輸出管理等におけるリスクについては、各担当部門において、規程の整備を進め、ガイドライン、マニュアル等の作成を行い、かつ研修・教育を行っております。全社的なリスク管理状況の監視は、経営企画担当部門が行うほか、各部門におけるリスクマネジメント体制の整備を推進しています。

## 2. 内部監査及び監査役監査、会計監査の状況

当社では、内部監査規程に基づき組織的にも業務的にも独立した社長直轄の内部監査室（5名）を設置しています。監査役は全社的な監査体制の強化を図りコーポレート・ガバナンスを徹底し、全社の財産保全と経営効率の向上を図るために、内部監査室及び会計監査人の協力のもと、社内各部門及び国内外の子会社に対する業務の適正性に対する監査を行っています。また、監査役は内部監査室から内部監査の結果報告を受け、それについて説明を求めるとともに、会計監査人とも必要に応じて意見・情報交換を行うなど連携を図りながら厳正な監査を遂行しています。なお、監査役 大木國男は、公認会計士ならびに税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

また、当社の会計監査業務を執行した公認会計士は久保幸年氏及び岩田亘人氏であり、三優監査法人に所属しております。当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士7名、会計士補等14名、その他3名であります。

## 3. 社外取締役及び社外監査役との関係

当社は、独立性を保ち中立な立場から客観的に監査を実施することを目的として社外監査役3名（平成22年6月29日現在）選任しており、そのサポート体制として、監査役会において監査状況報告を行うとともに、必要に応じて取締役から業務の遂行状況に関する報告の機会を設けております。なお、当社と社外監査役個人との間に特別な利害関係はありません。

当社は社外取締役を選任しておりません。当社は、経営の意思決定機能を持つ取締役会に対し、監査役4名中の3名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しております。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役3名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

## 4. 役員報酬等

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役	104	103		0		15名
監査役 (うち社外監査役)	18 (8)	18 (8)				5 (3)
計	122	122		0		20

(注) 1. 上記のほか、次のとおり支払った金額があります。

使用人兼務取締役の使用人給与(賞与を含む)

5名 30百万円

2. 社外監査役が当該親会社の子会社から受けた監査役としての報酬等の総額は1名2百万円です。

3. 役員ごとの報酬等の総額につきましては、1億円以上を支給している役員はありませんので、記載を省略しております。

役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

取締役の報酬限度額は、平成2年6月開催の第14回定時株主総会において年額300百万円、平成19年6月開催の第31回定時株主総会において監査役の報酬限度額は、年額40百万円と決議いただいております。

5. 株式の保有状況

投資株式のうち保有目的が純投資以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額  
21銘柄 1,162百万円

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数貸借対照表計上額及び保有目的

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)ほくほくフィナンシャルグループ	1,378,100	282	企業間取引等の強化
プレス工業(株)	1,071,000	249	企業間取引等の強化
(株)サカタのタネ	96,600	121	企業間取引等の強化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	33,808	104	企業間取引等の強化
三菱鉛筆(株)	75,100	104	企業間取引等の強化
(株)東京海上ホールディングス	37,300	98	企業間取引等の強化
(株)北國銀行	200,000	69	企業間取引等の強化
Cho Ei Ltd.	1,155,000	45	企業間取引等の強化
オーニック(株)	100	19	企業間取引等の強化
(株)エヌシーネットワーク	220	15	企業間取引等の強化

保有目的が純投資目的の投資株式  
該当事項はありません。

保有目的を変更した投資株式  
該当事項はありません。

6. 取締役の定数

当社の取締役の定数は15名以内とする旨定款に定めております。

7. 取締役選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

8. 株主総会の決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の客足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

9. 株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、機動的な資本政策の遂行を可能にするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

取締役及び監査役の責任免除

取締役及び監査役(取締役及び監査役であった者を含む。)が、期待される役割を十分に発揮できるよう、会社法第423条第1項の損害賠償責任について、当該取締役及び監査役が善意でかつ重大な過失がない場合には、取締役会の決議によって、法令の定める限度において、責任を免除することができる旨を定款に定めております。

中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を可能にするため、取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対して、会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	62	-	77	-
連結子会社	71	5	52	-
計	133	5	129	-

その他重要な報酬の内容

(前連結会計年度)

- ・当社の連結子会社であるSodick Inc.は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているHOTTA LIESENBERG SAITO & CO.に対して、監査証明業務に基づく報酬等20百万円を支払っております。
- ・当社の連結子会社であるSodick Deutschland GmbHは、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているBDO Deutsche Warentreuhand Aktiengesellschaftに対して、監査証明業務に基づく報酬等8百万円を支払っております。
- ・当社の連結子会社であるSodick Europe Ltd.は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているBDO Stoy Hayward LLPに対して、監査証明業務に基づく報酬等2百万円を支払っております。
- ・当社の連結子会社であるSodick Singapore Pte.,Ltd.は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているBDO Rafflesに対して、監査証明業務に基づく報酬等1百万円を支払っております。
- ・当社の連結子会社であるSodick (Thailand) Co.,Ltd.は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているBDO Richfield Limitedに対して、監査証明業務に基づく報酬等4百万円を支払っております。
- ・当社の連結子会社である沙迪克(厦門)有限公司は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているBDO McCABE LO LIMITEDに対して、監査証明業務に基づく報酬等4百万円を支払っております。
- ・当社の連結子会社であるSodick Engineering Service (Thailand) Co.,Ltd.は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているBDO Richfield Limitedに対して、監査証明業務に基づく報酬等2百万円を支払っております。

(当連結会計年度)

- ・当社の連結子会社であるSodick Inc.は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているHOTTA LIESENBERG SAITO & CO.に対して、監査証明業務に基づく報酬等14百万円を支払っております。
- ・当社の連結子会社であるSodick Deutschland GmbHは、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているBDO Deutsche Warentreuhand Aktiengesellschaftに対して、監査証明業務に基づく報酬等8百万円を支払っております。
- ・当社の連結子会社であるSodick Europe Ltd.は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているBDO Stoy Hayward LLPに対して、監査証明業務に基づく報酬等1百万円を支払っております。
- ・当社の連結子会社であるSodick Singapore Pte.,Ltd.は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているBDO Rafflesに対して、監査証明業務に基づく報酬等2百万円を支払っております。
- ・当社の連結子会社であるSodick (Thailand) Co.,Ltd.は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているBDO Richfield Limitedに対して、監査証明業務に基づく報酬等4百万円を支払っております。
- ・当社の連結子会社である沙迪克(厦門)有限公司は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているBDO McCABE LO LIMITEDに対して、監査証明業務に基づく報酬等3百万円を支払っております。
- ・当社の連結子会社であるSodick Engineering Service (Thailand) Co.,Ltd.は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているBDO Richfield Limitedに対して、監査証明業務に基づく報酬等0百万円を支払っております。

監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

監査報酬の決定方針

当社は、取締役会において、当社の事業規模の観点から合理的監査日数を勘案し、監査公認会計士等(金融商品取引法監査人)に対する監査報酬額を決議しております。

なお、監査予定時間については、当社の監査計画に基づき4,340時間とし、監査契約締結しております。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号、以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前事業年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）及び当連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の連結財務諸表並びに前事業年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）及び当事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の財務諸表について、三優監査法人により監査を受けております。



1【連結財務諸表等】  
(1)【連結財務諸表】  
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3 18,717	3 15,817
受取手形及び売掛金	13,226	11,653
割賦売掛金	3 240	147
商品及び製品	5,997	4,690
仕掛品	5,933	4,160
原材料及び貯蔵品	5,753	4,745
繰延税金資産	174	73
その他	3 2,147	3 1,584
貸倒引当金	892	717
流動資産合計	51,297	42,156
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3 18,732	3 18,880
機械装置及び運搬具	12,956	12,362
工具、器具及び備品	3,016	2,714
土地	3 7,052	3 7,041
リース資産	1,541	1,607
建設仮勘定	115	1
減価償却累計額	17,765	18,821
有形固定資産合計	25,649	23,786
無形固定資産		
のれん	2,617	1,946
その他	889	797
無形固定資産合計	3,507	2,743
投資その他の資産		
投資有価証券	4 1,502	4 1,685
長期貸付金	1,440	3 1,513
その他	4 1,350	3,4 1,151
貸倒引当金	395	269
投資その他の資産合計	3,897	4,081
固定資産合計	33,053	30,611
資産合計	84,351	72,767

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,724	7,037
短期借入金	3,6 28,113	3,6 21,687
1年内返済予定の長期借入金	3 2,451	3,7 2,976
1年内償還予定の社債	3 2,434	3 434
未払金	1,118	1,117
未払法人税等	-	188
製品保証引当金	244	204
品質保証引当金	3	6
賞与引当金	454	349
その他	2,265	2,779
流動負債合計	42,809	36,781
固定負債		
社債	1,226	3 792
長期借入金	3 10,095	3,7 9,303
退職給付引当金	944	1,005
役員退職慰労引当金	118	-
製品保証引当金	146	84
債務保証損失引当金	86	48
その他	1,522	903
固定負債合計	14,140	12,137
負債合計	56,950	48,919
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,775	20,775
資本剰余金	6,949	6,949
利益剰余金	1,698	1,990
自己株式	2,135	2,135
株主資本合計	27,288	23,599
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	135	33
繰延ヘッジ損益	6	-
為替換算調整勘定	1,579	1,375
評価・換算差額等合計	1,721	1,341
新株予約権	71	24
少数株主持分	1,762	1,566
純資産合計	27,401	23,848
負債純資産合計	84,351	72,767

## 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
売上高	54,533	36,761
売上原価	2 39,456	2 27,877
売上総利益	15,077	8,883
割賦販売未実現利益戻入額	16	4
割賦販売未実現利益繰入額	3	0
差引売上総利益	15,090	8,887
販売費及び一般管理費		
人件費	1 7,037	1 4,443
貸倒引当金繰入額	576	147
のれん償却額	375	354
その他	2 9,612	2 6,630
販売費及び一般管理費合計	17,602	11,575
営業損失( )	2,512	2,688
営業外収益		
受取利息	75	23
受取配当金	71	73
為替差益	-	69
固定資産賃貸料	69	39
デリバティブ評価益	-	238
助成金収入	-	108
その他	353	207
営業外収益合計	570	759
営業外費用		
支払利息	603	640
為替差損	2,244	-
持分法による投資損失	63	60
デリバティブ評価損	407	-
シンジケートローン手数料	-	189
その他	457	254
営業外費用合計	3,775	1,145
経常損失( )	5,717	3,073
特別利益		
固定資産売却益	3 15	3 59
投資有価証券売却益	84	2
関係会社株式売却益	-	32
貸倒引当金戻入額	105	277
退職給付引当金戻入額	-	67
前期損益修正益	7 37	-
持分変動利益	2	37
その他	50	134
特別利益合計	295	611

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
特別損失		
固定資産売却損	4 1	4 54
固定資産除却損	5 134	5 75
投資有価証券評価損	413	4
たな卸資産廃棄損	14	-
たな卸資産評価損	193	-
減損損失	6 103	6 65
持分変動損失	2	2
過年度製品保証引当金繰入額	81	-
債務保証損失引当金繰入額	75	-
前期損益修正損	8 92	-
特別退職金	252	-
事業構造改善費用	-	9 622
その他	125	134
特別損失合計	1,492	959
税金等調整前当期純損失( )	6,914	3,422
法人税、住民税及び事業税	459	278
過年度法人税等	104	127
法人税等調整額	1,718	229
法人税等合計	2,073	380
少数株主損失( )	460	133
当期純損失( )	8,527	3,669

## 【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	20,775	20,775
当期末残高	20,775	20,775
<b>資本剰余金</b>		
前期末残高	6,949	6,949
<b>当期変動額</b>		
自己株式の処分	0	-
<b>当期変動額合計</b>	0	-
当期末残高	6,949	6,949
<b>利益剰余金</b>		
前期末残高	11,230	1,698
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	1,013	-
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減	53	-
海外子会社における従業員奨励福利基金 への積立金	-	19
持分法の適用範囲の変動	23	-
<b>当期純損失( )</b>	8,527	3,669
<b>連結範囲の変動</b>	84	-
<b>当期変動額合計</b>	9,532	3,688
当期末残高	1,698	1,990
<b>自己株式</b>		
前期末残高	971	2,135
<b>当期変動額</b>		
自己株式の取得	1,163	0
自己株式の処分	0	-
<b>当期変動額合計</b>	1,163	0
当期末残高	2,135	2,135
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	37,984	27,288
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	1,013	-
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減	53	-
海外子会社における従業員奨励福利基金 への積立金	-	19
持分法の適用範囲の変動	23	-
<b>当期純損失( )</b>	8,527	3,669
<b>連結範囲の変動</b>	84	-
自己株式の取得	1,163	0
自己株式の処分	0	-
<b>当期変動額合計</b>	10,695	3,689
当期末残高	27,288	23,599

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	249	135
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	384	168
当期変動額合計	384	168
当期末残高	135	33
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
前期末残高	5	6
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	6
当期変動額合計	0	6
当期末残高	6	-
<b>為替換算調整勘定</b>		
前期末残高	226	1,579
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,352	203
当期変動額合計	1,352	203
当期末残高	1,579	1,375
<b>評価・換算差額等合計</b>		
前期末残高	16	1,721
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,737	379
当期変動額合計	1,737	379
当期末残高	1,721	1,341
<b>新株予約権</b>		
前期末残高	42	71
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	29	47
当期変動額合計	29	47
当期末残高	71	24
<b>少数株主持分</b>		
前期末残高	4,704	1,762
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,942	196
当期変動額合計	2,942	196
当期末残高	1,762	1,566

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	42,748	27,401
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	1,013	-
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減	53	-
海外子会社における従業員奨励福利基金への積立金	-	19
持分法の適用範囲の変動	23	-
当期純損失( )	8,527	3,669
連結範囲の変動	84	-
自己株式の取得	1,163	0
自己株式の処分	0	-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	4,650	135
<b>当期変動額合計</b>	<b>15,346</b>	<b>3,553</b>
当期末残高	27,401	23,848

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純損失( )	6,914	3,422
減価償却費	3,096	2,640
のれん償却額	375	354
貸倒引当金の増減額( は減少)	167	342
受取利息及び受取配当金	146	97
支払利息	603	640
為替差損益( は益)	1,293	63
投資有価証券売却及び評価損益( は益)	329	1
特別退職金	252	-
持分変動損益( は益)	0	35
固定資産除売却損益( は益)	120	71
減損損失	103	65
事業構造改善費用	-	622
売上債権の増減額( は増加)	10,718	1,613
たな卸資産の増減額( は増加)	1,231	3,672
仕入債務の増減額( は減少)	7,860	1,394
割引手形の増減額( は減少)	55	116
未払金の増減額( は減少)	492	24
その他	1,094	204
小計	4,026	7,463
利息及び配当金の受取額	146	97
利息の支払額	603	596
特別退職金の支払額	190	217
法人税等の支払額又は還付額( は支払)	1,443	508
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,935	7,256
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	-	20
定期預金の払戻による収入	168	12
有形固定資産の取得による支出	3,184	521
有形固定資産の売却による収入	1,441	251
無形固定資産の取得による支出	757	176
投資有価証券の取得による支出	1,182	3
投資有価証券の売却による収入	1,420	59
関係会社株式の取得による支出	3,660	274
関係会社株式の売却による収入	20	32
関係会社出資金の払込による支出	119	230
貸付けによる支出	3,015	340
貸付金の回収による収入	1,801	261
その他	19	255
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,088	693



	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	9,217	6,462
長期借入れによる収入	5,206	2,200
長期借入金の返済による支出	3,739	2,466
社債の発行による収入	93	-
社債の償還による支出	3,420	2,434
少数株主からの払込みによる収入	28	253
自己株式の取得による支出	1,163	-
配当金の支払額	1,013	-
ファイナンス・リース債務の返済による支出	210	337
少数株主への配当金の支払額	169	1
その他	225	189
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>4,605</b>	<b>9,437</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	747	15
<b>現金及び現金同等物の増減額（は減少）</b>	<b>1,295</b>	<b>2,891</b>
現金及び現金同等物の期首残高	19,781	18,693
<b>新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額</b>	<b>207</b>	<b>2</b>
現金及び現金同等物の期末残高	18,693	15,804

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
<p>1. 連結の範囲に関する事項</p> <p>(1) 連結子会社の数31社(名称は下記)</p> <p>株式会社ソディックプラスチック 株式会社ソディック・エフ・エー 株式会社ソディックハイテック 株式会社ソディック新横 株式会社ソディックD A C 株式会社ソディックセールスジャパン Sodick Holding Corporation Sodick Inc. Sodick Europe GmbH Sodick Europe Holding GmbH Sodick Deutschland GmbH Sodick Europe Ltd. Sodick Hightech Europe Ltd. Sodick Hightech Germany GmbH Sodick Singapore Pte.,Ltd. Sodick Engineering Service (Thailand) Co.,Ltd. Fine Plas21 (Thailand) Co.,Ltd. 上海沙迪克軟件有限公司 沙迪克機電(上海)有限公司 蘇州沙迪克特種設備有限公司 蘇州凱旋機電元件有限公司 廈門沙迪克電子有限公司 沙迪克(廈門)有限公司 沙迪克(廈門)磁性材料有限公司 Sodick (H.K.) Co.,Ltd. Sodick Enterprise (S.Z.) Co.,Ltd. Sodick International Trading(Shenzhen) Co., Ltd. Sodick (Taiwan) Co.,Ltd. Sodick America Corporation Sodick (Thailand) Co.,Ltd. Sodick Korea Co.,Ltd.</p> <p>当連結会計年度において、株式会社ソディック東日本販売は株式会社ソディックセールスジャパンに商号変更しております。</p> <p>また、Sodick Hightech Europe Ltd.およびSodick Hightech Germany GmbHは重要性が増加したことにより連結の範囲に含めております。</p> <p>なお、前連結会計年度において連結子会社でありました株式会社ソディックC P Cは株式会社ソディックと合併したことにより、株式会社ソディックE M Gおよび株式会社トム・ソディックは株式会社ソディック新横と合併したことにより、連結の範囲から除いております。</p>	<p>1. 連結の範囲に関する事項</p> <p>(1) 連結子会社の数27社(名称は下記)</p> <p>株式会社ソディックプラスチック 株式会社ソディック・エフ・エー 株式会社ソディック新横 株式会社ソディックD A C Sodick Holding Corporation Sodick Inc. Sodick Europe GmbH Sodick Europe Holding GmbH Sodick Deutschland GmbH Sodick Europe Ltd. Sodick Hightech Europe Ltd. Sodick Hightech Germany GmbH Sodick Singapore Pte.,Ltd. Sodick Engineering Service (Thailand) Co.,Ltd. 上海沙迪克軟件有限公司 沙迪克機電(上海)有限公司 蘇州沙迪克特種設備有限公司 蘇州凱旋機電元件有限公司 沙迪克(廈門)有限公司 沙迪克(廈門)磁性材料有限公司 Sodick (H.K.) Co.,Ltd. Sodick Enterprise (S.Z.) Co.,Ltd. Sodick International Trading(Shenzhen) Co., Ltd. Sodick (Taiwan) Co.,Ltd. Sodick America Corporation Sodick (Thailand) Co.,Ltd. Sodick Korea Co.,Ltd.</p> <p>前連結会計年度において連結子会社でありました株式会社ソディックハイテックは株式会社ソディックと合併したことにより、廈門沙迪克電子有限公司は沙迪克(廈門)有限公司と合併したことにより、連結の範囲から除いております。</p> <p>なお、前連結会計年度において連結子会社でありました株式会社ソディックセールスジャパン及びFine Plas21 (Thailand) Co.,Ltd.は当連結会計年度において会社を清算したため、連結の範囲から除いております。</p>

<p>前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>前連結会計年度において連結子会社でありました株式会社ソディック電子、株式会社ソディック関東販売、株式会社ソディック首都圏販売、株式会社ソディック中部販売および株式会社ソディック西日本販売は当連結会計年度において会社を清算したため、連結の範囲から除いております。</p> <p>(2)主要な非連結子会社の名称等 主要な非連結子会社の名称 株式会社エス・ティー・アイ 沙迪克新横（厦門）機械有限公司 非連結子会社について連結の範囲から除いた理由 連結の範囲から除いた子会社の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）および利益剰余金（持分に見合う額）等はいずれも小規模であり、全体としても連結財務諸表に重要な影響を及ぼしておりません。</p> <p>2. 持分法の適用に関する事項 (1) 持分法適用の非連結子会社及び関連会社の数 1社（名称は下記） 株式会社 ピカット 当連結会計年度において、株式会社ピカットは重要性が増加したことにより、持分法の適用範囲に含めております。</p> <p>(2) 持分法を適用していない主要な非連結子会社は、株式会社エス・ティー・アイおよび 沙迪克新横（厦門）機械有限公司であり、持分法を適用していない主要な関連会社は、蘇州STK鑄造有限公司であります。</p> <p>(3) 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社は、それぞれ連結純損益及び連結剰余金（持分に見合う額）等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性に乏しいため、これらの会社に対する投資については、持分法適用範囲から除外しております。</p> <p>3. 連結子会社の事業年度等に関する事項 連結子会社31社のうち、11社（上海沙迪克軟件有限公司、沙迪克機電（上海）有限公司、蘇州沙迪克特種設備有限公司、蘇州凱旋機電元件有限公司、沙迪克（厦門）有限公司、厦門沙迪克電子有限公司、沙迪克（厦門）磁性材料有限公司、Sodick Enterprise (S.Z.) Co.,Ltd., Sodick International Trading (Shenzhen) Co.,Ltd., Sodick Hightech Europe Ltd., Sodick Hightech Germany GmbH）の決算日は12月31日であり、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結決算上必要な調整を行っております。</p>	<p>(2)主要な非連結子会社の名称等 主要な非連結子会社の名称 株式会社エス・ティー・アイ 沙迪克新横（厦門）機械有限公司 非連結子会社について連結の範囲から除いた理由 同左</p> <p>2. 持分法の適用に関する事項 (1) 持分法適用の非連結子会社及び関連会社の数 0社 当連結会計年度において、株式会社ピカットは株式会社ソディック新横と合併したことにより、持分法の範囲から除いております。</p> <p>(2) 持分法を適用していない主要な非連結子会社は、株式会社エス・ティー・アイおよび 沙迪克新横（厦門）機械有限公司であり、持分法を適用していない主要な関連会社は、蘇州STK鑄造有限公司であります。</p> <p>(3) 同左</p> <p>3. 連結子会社の事業年度等に関する事項 連結子会社27社のうち、8社（上海沙迪克軟件有限公司、沙迪克機電（上海）有限公司、蘇州沙迪克特種設備有限公司、蘇州凱旋機電元件有限公司、沙迪克（厦門）有限公司、沙迪克（厦門）磁性材料有限公司、Sodick Enterprise (S.Z.) Co.,Ltd., Sodick International Trading (Shenzhen) Co.,Ltd.）の決算日は12月31日であり、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結決算上必要な調整を行っております。また、Sodick Hightech Europe Ltd.及びSodick Hightech Germany GmbHは決算日を12月31日から3月31日に変更し、15ヶ月間の決算となっており、これによる影響は軽微であります。</p>

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p>4. 会計処理基準に関する事項</p> <p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>有価証券            其他有価証券                時価のあるもの...決算日の市場価格などに基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定)                時価のないもの...移動平均法による原価法</p> <p>デリバティブ            時価法            同左</p> <p>たな卸資産            商品及び製品            並びに仕掛品.....主として個別法による原価法                (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)            原材料及び貯蔵品...主として先入先出法による原価法                (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法            有形固定資産(リース資産を除く)            有形固定資産の減価償却方法は、主として定率法、ただし建物(建物附属設備を除く)については主として定額法。            なお、主な耐用年数は以下のとおりです。            建物及び構築物            2～60年            機械装置及び運搬具          2～12年            工具器具備品                2～20年</p> <p>無形固定資産(リース資産を除く)            無形固定資産の減価償却方法は、定額法。ただしソフトウェアについては、自社利用目的のものは社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法、販売目的のものは見込販売数量に基づく償却額と、残存見込販売有効期間に基づく均等償却額との、いずれか大きい金額を計上しております。            なお、販売目的のソフトウェアの当初における見込販売有効期間は3年としております。</p>	<p>4. 会計処理基準に関する事項</p> <p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>有価証券            其他有価証券                時価のあるもの...同左</p> <p>デリバティブ            同左</p> <p>たな卸資産            商品及び製品            並びに仕掛品.....同左</p> <p>原材料及び貯蔵品...同左</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法            有形固定資産(リース資産を除く)            同左</p> <p>無形固定資産(リース資産を除く)            同左</p>

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p>リース資産 所有権移転外ファイ ナンス・リース取引 に係るリース資産 ... リース期間を耐用年数とし、 残存価額を零とする定額法 を採用しております。</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、当社及び国内 連結子会社は一般債権については貸倒実績率によ り、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回 収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しており ます。また、在外連結子会社は主として特定の債権に ついて回収不能見込額を計上しております。</p> <p>賞与引当金 当社及び一部の連結子会社は、従業員の賞与の支出 に備えて、賞与支給見込額のうち当連結会計年度の 負担額を計上しております。</p> <p>退職給付引当金 当社及び一部の連結子会社は、従業員の退職給付に 備えるため、当連結会計年度末における退職給付債 務および年金資産の見込額に基づき、当連結会計年 度末において発生していると認められる額を計上し ております。</p> <p>また、数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生 時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年 数による定率法（10年）により発生の際連結会計年 度から費用処理することとしております。</p> <p>過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤 務期間以内の一定の年数（10年）による定額法によ り費用処理しております。</p> <p>役員退職慰労引当金 一部の連結子会社は、役員の退職慰労金の支給に備 えて、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を 計上しております。</p> <p>製品保証引当金 当社及び一部の連結子会社は製品の無償補修費用 の支出に備えるため、過去の売上高に対する支出割 合に基づき必要額を計上しております。</p> <p>品質保証引当金 一部の連結子会社は、有償修理後に発生する品質保 証費用の支出に充てるため、過去の実績を基礎にし て、品質保証引当金を計上しております。</p>	<p>リース資産 所有権移転外ファイ ナンス・リース取引 に係るリース資産 ... リース期間を耐用年数と し、残存価額をリース契約上 に残価保証の取決めがある ものは当該残価保証額、それ 以外のものは、ゼロとする定 額法によっております。</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>貸倒引当金 同左</p> <p>賞与引当金 同左</p> <p>退職給付引当金 同左</p> <p>役員退職慰労引当金 同左</p> <p>製品保証引当金 同左</p> <p>品質保証引当金 当社は、有償修理後に発生する品質保証費用の支出 に充てるため、過去の実績を基礎にして、品質保証引 当金を計上しております。</p>

<p>前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)</p>
<p>債務保証損失引当金 一部の連結子会社は、債務保証等に係る損失に備えるため被保証者の財政状態等を勘案して将来の損失負担見込額を計上しております。</p> <p>(4) 収益及び費用の計上基準 割賦販売の収益計上基準 割賦販売については、引渡時に総額を売上高に計上し、支払期日未到来の金額に対応する利益を未実現利益として繰延べる方法によっております。 ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準 リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。</p> <p>(5) 重要な外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算の基準 外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は、期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めております。</p> <p>(6) 重要なヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法...繰延ヘッジ処理を採用しております。ただし、金利スワップ取引のうち特例処理の対象となる取引については、当該特例処理を適用しております。 ヘッジ手段とヘッジ対象 a . ヘッジ手段...金利スワップ取引、為替予約取引 b . ヘッジ対象...変動金利社債の支払金利、変動金利借入の支払金利、外貨建金銭債権 ヘッジ方針 当社は、財務上のリスク管理対策の一環として、デリバティブ取引を行っております。外貨建債権の為替変動リスクを軽減する目的で為替予約取引を、また借入金等の金利変動リスク軽減の為に金利スワップ取引を行うものとしております。</p>	<p>債務保証損失引当金 同左</p> <p>(4) 収益及び費用の計上基準 割賦販売の収益計上基準 同左  ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準 同左  完成工事高及び完成工事原価の計上基準 当連結会計年度未までの進捗部分について成果の確実性が認められる契約については工事進行基準（進捗率の見積りは主として原価比例法）を、その他の契約については工事完成基準（検収基準）を適用しております。</p> <p>(5) 重要な外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算の基準 同左</p> <p>(6) 重要なヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法...金利スワップ取引のうち特例処理の対象となる取引については、当該特例処理を適用しております。  ヘッジ手段とヘッジ対象 a . ヘッジ手段...金利スワップ取引 b . ヘッジ対象...変動金利借入の支払金利  ヘッジ方針 当社及び一部の連結子会社は、財務上のリスク管理対策の一環として、デリバティブ取引を行っております。借入金等の金利変動リスク軽減の為に金利スワップ取引を行うものとしております。</p>

<p>前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ開始時から有効性判定時までの、ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計額を比較する方法によっております。 なお、特例処理によっている金利スワップについては、有効性評価を省略しております。</p> <p>(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しております。</p> <p>5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項 連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。</p> <p>6. のれん及び負ののれんの償却に関する事項 のれん及び負ののれんの償却については、連結子会社ごとに投資効果の発現する期間で均等償却しております。</p> <p>7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に期限が到来する短期投資からなっております。</p>	<p>ヘッジ有効性評価の方法 同左</p> <p>(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 同左</p> <p>5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項 同左</p> <p>6. のれん及び負ののれんの償却に関する事項 同左</p> <p>7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 同左</p>

【会計処理の変更】

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p><b>製品保証引当金</b></p> <p>一部の連結子会社は、販売した機械本体の無償補修費用を、従来支出時の費用として処理しておりましたが、当連結会計年度より過去の売上高に対する支出割合に基づき、製品保証引当金を計上する方法に変更しております。</p> <p>この変更は、近年、製品保証に伴う費用の重要性が増加していること及び、将来の無償補修費用を合理的に見積ることが可能となったことから、期間損益計算のより一層の適正化と財務体質の強化を目的に行うものであります。</p> <p>この変更により、当連結会計年度の繰入額59百万円は売上原価に、過年度分相当額81百万円は特別損失に計上しております。この変更に伴い、従来と同一の基準によった場合と比較し、営業損失及び経常損失は22百万円それぞれ減少し、税金等調整前当期純損失は59百万円増加しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載しております。</p>	
<p><b>たな卸資産</b></p> <p>通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、評価基準として原価法によっておりましたが、当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分）が適用されたことに伴い、原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）に変更しております。</p> <p>これにより、営業損失、経常損失及び税金等調整前当期純損失は、それぞれ29百万円増加しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載しております。</p>	
<p><b>「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用</b></p> <p>当連結会計年度より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号 平成18年5月17日）を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。</p> <p>これにより、営業損失及び経常損失は、それぞれ1億92百万円増加し、税金等調整前当期純損失は1億69百万円増加しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載しております。</p>	
<p><b>製品補修に係る費用計上区分の変更</b></p> <p>一部の連結子会社は、当連結会計年度より、販売した機械本体の無償補修等に係る費用の計上区分を「販売費及び一般管理費」から「売上原価」に変更しております。</p> <p>この変更は、近年、製品補修に係る費用の重要性が増加していることを受けて、その内容を再検討した結果、売上高と個別に対応させる性質を有すると判断し、より適切に損益区分を表示するために行うものであります。</p> <p>この変更に伴い、従来の方法に比べて、売上総利益は3億44百万円減少しております。</p> <p>なお、営業損失、経常損失及び税金等調整前当期純損失に与える影響はありません。</p>	



<p>前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>リース会計 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当連結会計年度より「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。 なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、前連結会計年度末における未経過リース料期末残高相当額(利息相当額控除後)を取得価額とし、期首に取得したのものとしてリース資産に計上する方法によっております。 これにより、営業損失が39百万円、経常損失及び税金等調整前当期純損失は、それぞれ50百万円増加しております。 なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載しております。</p>	
	<p>退職給付引当金 当社及び一部の連結子会社は、当連結会計年度より「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3) (企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。 なお、これによる営業損失、経常損失及び税金等調整前当期純損失に与える影響はありません。</p>
	<p>工事契約に関する会計基準の適用 一部の連結子会社における機械装置に係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準(検収基準)を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を当連結会計年度より適用し、当連結会計年度の期首に存在する契約を含む全ての契約において、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる契約については工事進行基準(進捗率の見積りは主として原価比例法)を、その他の契約については工事完成基準(検収基準)を適用しております。当連結会計年度において、工事進行基準を適用すべき契約はなく、全て工事完成基準(検収基準)を適用しているため、当該変更による損益に与える影響はありません。また、セグメント情報に与える影響もありません。</p>

【表示方法の変更】

<p>前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>(連結貸借対照表) 「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日 内閣府令第50号)が適用となることに伴い、前連結会計年度において、「たな卸資産」として掲記されていたものは、当連結会計年度から「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」に区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「たな卸資産」に含まれる「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」は、それぞれ6,447百万円、7,162百万円、6,879百万円であります。</p>	<p>(連結貸借対照表)</p>
<p>(連結損益計算書) 前連結会計年度において、営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました受取配当金は、当連結会計年度より「受取配当金」として区分掲記しております。 なお、前連結会計年度における「受取配当金」は38百万円であります。 また、前連結会計年度において区分掲記しておりました「受取手数料」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めております。 なお、当連結会計年度における「受取手数料」は13百万円であります。</p>	<p>(連結損益計算書) 前連結会計年度において、営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました助成金収入は、当連結会計年度より「助成金収入」として区分掲記しております。 なお、前連結会計年度における「助成金収入」は36百万円であります。 また、前連結会計年度において、営業外費用の「その他」に含めて表示しておりましたシンジケートローン手数料は、当連結会計年度より「シンジケートローン手数料」として区分掲記しております。 なお、前連結会計年度における「シンジケートローン手数料」は225百万円であります。</p>
<p>(連結キャッシュ・フロー計算書)</p>	<p>(連結キャッシュ・フロー計算書) 財務活動によるキャッシュ・フローの「自己株式の取得による支出」は当連結会計年度において、金額的重要性が乏しくなったため、「その他」に含めております。 なお、当連結会計年度の「その他」に含まれている「自己株式の取得による支出」は 0百万円であります。</p>

【追加情報】

前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
	当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号平成20年3月10日)を適用しております。
	当連結会計年度より、「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第20号平成20年11月28日)及び「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第23号平成20年11月28日)を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)																																																												
<p>1. リース債権(将来のリース料)の引当として、貸与先より84百万円の手形を預かっております。</p> <p>2. 受取手形割引高及び輸出為替手形割引高</p> <table border="0"> <tr> <td>輸出為替手形割引高</td> <td>55百万円</td> </tr> <tr> <td>受取手形裏書譲渡高</td> <td>213百万円</td> </tr> </table> <p>3. 担保に供している資産</p> <table border="0"> <tr> <td>現金及び預金</td> <td>10百万円</td> </tr> <tr> <td>割賦売掛金</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>その他の流動資産</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td>2,920</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>3,442</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="border-top: 1px solid black;">6,446</td> </tr> </table> <p>上記物件について、短期借入金3,180百万円、1年以内返済予定の長期借入金1,224百万円、長期借入金5,439百万円、1年以内償還予定の社債1,500百万円に係る銀行保証債務の担保に供しております。</p> <p>4. 非連結子会社及び関連会社に対する株式及び出資金投資その他の資産</p> <table border="0"> <tr> <td>投資有価証券</td> <td>176百万円</td> </tr> <tr> <td>その他(出資金)</td> <td>335百万円</td> </tr> </table> <p>5. 偶発債務</p> <p>次の会社について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>保証先</th> <th>金額(百万円)</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(株)EXCERA</td> <td>115</td> <td>借入債務</td> </tr> <tr> <td>Plustech Inc.</td> <td>75</td> <td>借入債務</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>190</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、上記Plustech Inc.に対する債務保証は、債務保証損失引当金8百万円を控除しております。また、Advanced Plastic Manufacturing Inc.の金融機関からの借入金に対し77百万円の債務保証を行っておりますが、同額債務保証損失引当金を計上しております。</p>	輸出為替手形割引高	55百万円	受取手形裏書譲渡高	213百万円	現金及び預金	10百万円	割賦売掛金	2	その他の流動資産	70	建物及び構築物	2,920	土地	3,442		6,446	投資有価証券	176百万円	その他(出資金)	335百万円	保証先	金額(百万円)	内容	(株)EXCERA	115	借入債務	Plustech Inc.	75	借入債務	合計	190		<p>1. リース債権(将来のリース料)の引当として、貸与先より56百万円の手形を預かっております。</p> <p>2. 受取手形割引高及び輸出為替手形割引高</p> <table border="0"> <tr> <td>輸出為替手形割引高</td> <td>171百万円</td> </tr> <tr> <td>受取手形裏書譲渡高</td> <td>45百万円</td> </tr> </table> <p>3. 担保に供している資産</p> <table border="0"> <tr> <td>現金及び預金</td> <td>9百万円</td> </tr> <tr> <td>その他の流動資産</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td>2,760</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>3,557</td> </tr> <tr> <td>長期貸付金</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>その他投資その他の資産</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="border-top: 1px solid black;">6,420</td> </tr> </table> <p>上記物件について、短期借入金1,205百万円、1年内返済予定の長期借入金1,535百万円、長期借入金6,178百万円、1年内償還予定の社債214百万円、社債172百万円の担保に供しております。</p> <p>4. 非連結子会社及び関連会社に対する株式及び出資金投資その他の資産</p> <table border="0"> <tr> <td>投資有価証券</td> <td>194百万円</td> </tr> <tr> <td>その他(出資金)</td> <td>449百万円</td> </tr> </table> <p>5. 偶発債務</p> <p>次の会社について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>保証先</th> <th>金額(百万円)</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(株)EXCERA</td> <td>96</td> <td>借入債務</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、Advanced Plastic Manufacturing Inc.の金融機関からの借入金に対し48百万円の債務保証を行っておりますが、同額債務保証損失引当金を計上しております。</p>	輸出為替手形割引高	171百万円	受取手形裏書譲渡高	45百万円	現金及び預金	9百万円	その他の流動資産	27	建物及び構築物	2,760	土地	3,557	長期貸付金	43	その他投資その他の資産	21		6,420	投資有価証券	194百万円	その他(出資金)	449百万円	保証先	金額(百万円)	内容	(株)EXCERA	96	借入債務
輸出為替手形割引高	55百万円																																																												
受取手形裏書譲渡高	213百万円																																																												
現金及び預金	10百万円																																																												
割賦売掛金	2																																																												
その他の流動資産	70																																																												
建物及び構築物	2,920																																																												
土地	3,442																																																												
	6,446																																																												
投資有価証券	176百万円																																																												
その他(出資金)	335百万円																																																												
保証先	金額(百万円)	内容																																																											
(株)EXCERA	115	借入債務																																																											
Plustech Inc.	75	借入債務																																																											
合計	190																																																												
輸出為替手形割引高	171百万円																																																												
受取手形裏書譲渡高	45百万円																																																												
現金及び預金	9百万円																																																												
その他の流動資産	27																																																												
建物及び構築物	2,760																																																												
土地	3,557																																																												
長期貸付金	43																																																												
その他投資その他の資産	21																																																												
	6,420																																																												
投資有価証券	194百万円																																																												
その他(出資金)	449百万円																																																												
保証先	金額(百万円)	内容																																																											
(株)EXCERA	96	借入債務																																																											

前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)												
<p>6. 財務制限条項</p> <p>当社及び連結子会社4社は、平成20年9月30日に株式会社三井住友銀行をアレンジャーとし、契約期間を契約日より3年間とするシンジケートローンによるコミットメントライン契約を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table border="1" data-bbox="199 405 735 510"> <tr> <td>融資枠設定金額</td> <td>15,000百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td>5,394百万円</td> </tr> <tr> <td>差引残高</td> <td>9,605百万円</td> </tr> </table> <p>なお、上記コミットメントライン契約には、以下の財務制限条項が付されております。</p> <p>平成21年3月期末、及びそれ以降の各連結会計年度末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額を、(1)平成20年3月期末における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の75%に相当する金額、または(2)直近の連結会計年度末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の75%に相当する金額のうち、いずれか高いほうの金額を維持すること。</p> <p>平成21年3月期末、及びそれ以降の各連結会計年度末日における連結損益計算書に記載される経常損益につき、2期連続して損失を計上しないこと。</p> <p>但し、平成21年3月31日現在、上記財務制限条項の一部に抵触しておりますが、財務制限条項の変更契約を平成21年6月30日付で締結し、抵触の状況は解消されております。なお、変更後の財務制限条項は下記のとおりであります。</p> <p>平成22年3月期末、及びそれ以降の各連結会計年度末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額を、(1)平成21年3月期末における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の80%に相当する金額、または(2)直近の連結会計年度末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の80%に相当する金額のうち、いずれか高いほうの金額を維持すること。</p> <p>平成21年3月期末、及びそれ以降の各連結会計年度末日における連結損益計算書に記載される経常損益につき、3期連続して損失を計上しないこと。</p>	融資枠設定金額	15,000百万円	借入実行残高	5,394百万円	差引残高	9,605百万円	<p>6. 財務制限条項</p> <p>当社及び連結子会社4社は、平成20年9月30日に株式会社三井住友銀行をアレンジャーとし、契約期間を契約日より3年間とするシンジケートローンによるコミットメントライン契約を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table border="1" data-bbox="853 405 1390 510"> <tr> <td>融資枠設定金額</td> <td>15,000百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td>7,628百万円</td> </tr> <tr> <td>差引残高</td> <td>7,371百万円</td> </tr> </table> <p>なお、上記コミットメントライン契約には、以下の財務制限条項が付されております。</p> <p>平成22年3月期末、及びそれ以降の各連結会計年度末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額を、(1)平成21年3月期末における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の80%に相当する金額、または(2)直近の連結会計年度末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の80%に相当する金額のうち、いずれか高いほうの金額を維持すること。</p> <p>平成21年3月期末、及びそれ以降の各連結会計年度末日における連結損益計算書に記載される経常損益につき、3期連続して損失を計上しないこと。</p>	融資枠設定金額	15,000百万円	借入実行残高	7,628百万円	差引残高	7,371百万円
融資枠設定金額	15,000百万円												
借入実行残高	5,394百万円												
差引残高	9,605百万円												
融資枠設定金額	15,000百万円												
借入実行残高	7,628百万円												
差引残高	7,371百万円												

前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)						
7 .	<p>7 . 財務制限条項</p> <p>連結子会社である株式会社ソディックプラステックは、平成21年11月20日に株式会社三井住友銀行をアレンジャーとし、契約期間を契約日より3年間とするシンジケートローンによるコミットメントライン契約を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table border="0" data-bbox="826 405 1390 510"> <tr> <td>融資枠設定金額</td> <td style="text-align: right;">1,500百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">1,500百万円</td> </tr> <tr> <td>差引残高</td> <td style="text-align: right;">- 百万円</td> </tr> </table> <p>なお、上記コミットメントライン契約には、以下の財務制限条項が付されております。</p> <p>平成22年3月期末日及びそれ以降の各連結会計年度末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額を、直近の連結会計年度末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の75%以上に維持すること。</p> <p>平成22年3月期末日及びそれ以降の各事業年度末日における単体の貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額を、直近の事業年度末日における単体の貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の75%以上に維持すること。</p> <p>平成22年3月期末日以降の各連結会計期間における連結損益計算書に記載される経常損益を2期連続して損失としないこと。但し、平成22年3月期末日における連結損益計算書に記載される経常損益が、平成21年3月期末日における連結損益計算書に記載される経常損益と2期連続して損失となる場合を除く。</p> <p>平成22年3月期末日以降の各事業年度における単体の損益計算書に記載される経常損益を2期連続して損失としないこと。</p>	融資枠設定金額	1,500百万円	借入実行残高	1,500百万円	差引残高	- 百万円
融資枠設定金額	1,500百万円						
借入実行残高	1,500百万円						
差引残高	- 百万円						

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)																								
<p>1. 人件費に含まれている引当金の繰入額は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">219百万円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">219百万円</td> </tr> </table>	退職給付費用	219百万円	賞与引当金繰入額	219百万円	<p>1. 人件費に含まれている引当金の繰入額は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">204百万円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">136百万円</td> </tr> </table>	退職給付費用	204百万円	賞与引当金繰入額	136百万円																
退職給付費用	219百万円																								
賞与引当金繰入額	219百万円																								
退職給付費用	204百万円																								
賞与引当金繰入額	136百万円																								
<p>2. 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費</p> <p style="text-align: right;">2,013百万円</p>	<p>2. 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費</p> <p style="text-align: right;">1,532百万円</p>																								
<p>3. 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">機械装置及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">15百万円</td> </tr> </table>	機械装置及び運搬具	15百万円	<p>3. 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">6百万円</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">51</td> </tr> <tr> <td>工具器具備品</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td>リース資産</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right;">59</td> </tr> </table>	建物及び構築物	6百万円	機械装置及び運搬具	51	工具器具備品	0	リース資産	0	合計	59												
機械装置及び運搬具	15百万円																								
建物及び構築物	6百万円																								
機械装置及び運搬具	51																								
工具器具備品	0																								
リース資産	0																								
合計	59																								
<p>4. 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">機械装置及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">1百万円</td> </tr> </table>	機械装置及び運搬具	1百万円	<p>4. 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">15</td> </tr> <tr> <td>工具器具備品</td> <td style="text-align: right;">4</td> </tr> <tr> <td>リース資産</td> <td style="text-align: right;">3</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">30</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right;">54</td> </tr> </table>	建物及び構築物	0百万円	機械装置及び運搬具	15	工具器具備品	4	リース資産	3	土地	30	合計	54										
機械装置及び運搬具	1百万円																								
建物及び構築物	0百万円																								
機械装置及び運搬具	15																								
工具器具備品	4																								
リース資産	3																								
土地	30																								
合計	54																								
<p>5. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">46百万円</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">48</td> </tr> <tr> <td>工具器具備品</td> <td style="text-align: right;">17</td> </tr> <tr> <td>建設仮勘定</td> <td style="text-align: right;">22</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right;">134</td> </tr> </table>	建物及び構築物	46百万円	機械装置及び運搬具	48	工具器具備品	17	建設仮勘定	22	合計	134	<p>5. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">13百万円</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">47</td> </tr> <tr> <td>工具器具備品</td> <td style="text-align: right;">3</td> </tr> <tr> <td>リース資産</td> <td style="text-align: right;">1</td> </tr> <tr> <td>建設仮勘定</td> <td style="text-align: right;">8</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right;">75</td> </tr> </table>	建物及び構築物	13百万円	機械装置及び運搬具	47	工具器具備品	3	リース資産	1	建設仮勘定	8	ソフトウェア	0	合計	75
建物及び構築物	46百万円																								
機械装置及び運搬具	48																								
工具器具備品	17																								
建設仮勘定	22																								
合計	134																								
建物及び構築物	13百万円																								
機械装置及び運搬具	47																								
工具器具備品	3																								
リース資産	1																								
建設仮勘定	8																								
ソフトウェア	0																								
合計	75																								

前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)				当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)			
6. 減損損失 当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。				6. 減損損失 当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。			
場所	用途	種類	金額 (百万円)	場所	用途	種類	金額 (百万円)
タイ	事務所	建物	12	福井県 坂井市	遊休	建物、及び構築物、工具器具備品等	0
岐阜県 可児市	遊休	機械装置	54	石川県 羽 咋郡	遊休	土地	20
福井県 坂井市他	遊休	建物、及び機械装置、工具器具備品、借地権等	35	ドイツ	事業用資産	建物、及び機械装置、工具器具備品、ソフトウェア等	37
合計			103	香港	事業用資産	建物、及び工具器具備品等	6
				合計			65
<p>当社は、管理会計上の区分を基準に資産のグルーピングを行っております。ただし、賃貸資産及び事業の用に直接供していない遊休資産については個々にグルーピングしております。</p> <p>上記資産グループは除却予定及び遊休状態であり、今後の使用見込みもないため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。</p> <p>なお、当該資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、取引事例等市場価格を参考に評価しております。</p>				<p>当社グループは、管理会計上の区分を基準に資産のグルーピングを行っております。ただし、賃貸資産及び事業の用に直接供していない遊休資産については個々にグルーピングしております。</p> <p>福井県坂井市にある資産につきましては、除却予定及び遊休状態であり、今後の使用見込みもないため、帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。</p> <p>石川県羽咋郡にある従業員の福利厚生目的の保養所につきましては、実質的に遊休状態であり、今後の使用見込みが不明なため、帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。</p> <p>ドイツの連結子会社2社の事業用資産につきましては、金融危機以降の設備投資意欲の減退に歯止めがかかり、回復に向かうと見込まれるものの、現時点における将来の回収可能性が低いと見込まれるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。</p> <p>香港の事業用資産につきましては、これまでタイの製造子会社から中国の顧客に販売する際に、一部が香港子会社を経由しておりましたが、今後はタイと中国間のFTAを活用し、香港子会社を経由しない直接取引の増加が予想されます。そのため現時点における将来の回収可能性が低いと見込まれるため、香港子会社の帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。</p> <p>なお、当該資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、取引事例等市場価格を参考に評価しております。</p>			
<p>7. 前期損益修正益の内訳は、次のとおりであります。</p> <p>前期売上原価見積計上差額 37百万円</p>				7.			
<p>8. 前期損益修正損の内訳は、次のとおりであります。</p> <p>債務保証損失引当金繰入額 10百万円</p> <p>販売手数料 74百万円</p> <p>減価償却費等 7百万円</p> <p>合計 92百万円</p>				8.			

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)										
9 .	9 . 事業構造改善費用 事業構造改善費用の主なものは、次のとおりであります。 <table data-bbox="852 286 1390 468"> <tr> <td>特別退職金</td> <td>214百万円</td> </tr> <tr> <td>たな卸資産廃棄損</td> <td>159百万円</td> </tr> <tr> <td>たな卸資産評価損</td> <td>102百万円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>146百万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>622百万円</td> </tr> </table>	特別退職金	214百万円	たな卸資産廃棄損	159百万円	たな卸資産評価損	102百万円	その他	146百万円	合計	622百万円
特別退職金	214百万円										
たな卸資産廃棄損	159百万円										
たな卸資産評価損	102百万円										
その他	146百万円										
合計	622百万円										



(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	53,432,510	-	-	53,432,510
合計	53,432,510	-	-	53,432,510
自己株式				
普通株式(注)1,2	1,626,188	2,293,843	315	3,919,716
合計	1,626,188	2,293,843	315	3,919,716

(注)1. 普通株式の自己株式の株式数の増加2,293,843株は、取締役会決議による自己株式の取得による増加2,292,000株、単元未満株式の買取りによる増加1,843株であります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少315株は、単元未満株式の売渡しによる減少であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権 の目的とな る株式の種 類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			前連結会計 年度末	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会社)	ストック・オプションとして の新株予約権	-	-	-	-	-	33
株式会社ソ ディックブ ラステック	ストック・オプションとして の新株予約権	-	-	-	-	-	38
	合計	-	-	-	-	-	71

(注)当連結会計年度末日において権利行使できません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成20年6月27日 定時株主総会	普通株式	518	10	平成20年3月31日	平成20年6月30日
平成20年11月14日 取締役会	普通株式	495	10	平成20年9月30日	平成20年12月3日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの  
該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	53,432,510	-	-	53,432,510
合計	53,432,510	-	-	53,432,510
自己株式				
普通株式(注)	3,919,716	871	-	3,920,587
合計	3,919,716	871	-	3,920,587

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加871株は、単元未満株式の買取りによる増加871株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権 の目的とな る株式の種 類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			前連結会計 年度末	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会社)	ストック・オプションとして の新株予約権	-	-	-	-	-	23
株式会社ソ ディックプ ラステック	ストック・オプションとして の新株予約権	-	-	-	-	-	0
	合計	-	-	-	-	-	24

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)												
<p>1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">18,717百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">24</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">18,693</td> </tr> </table> <p>2. 重要な非資金取引の内容 ファイナンス・リース取引 当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の金額は、それぞれ827百万円であります。</p>	現金及び預金勘定	18,717百万円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	24	現金及び現金同等物	18,693	<p>1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">15,817百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">12</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">15,804</td> </tr> </table> <p>2. 重要な非資金取引の内容 ファイナンス・リース取引 当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の金額は、それぞれ173百万円であります。</p>	現金及び預金勘定	15,817百万円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	12	現金及び現金同等物	15,804
現金及び預金勘定	18,717百万円												
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	24												
現金及び現金同等物	18,693												
現金及び預金勘定	15,817百万円												
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	12												
現金及び現金同等物	15,804												

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)																																																																														
<p>ファイナンス・リース取引 (借主側)</p> <p>リース資産の内容</p> <p>(1)有形固定資産 主として、工作機械事業における生産設備(機械装置及び運搬具)、産業機械事業における生産設備(機械装置及び運搬具)、ホストコンピューター(工具、器具及び備品)及び精密金型・精密成形事業における生産設備(機械装置及び運搬具)であります。</p> <p>(2)無形固定資産 主として、産業機械事業における生産管理用ソフトウェアであります。</p> <p>リース資産の減価償却の方法 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 「4.会計処理基準に関する事項(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。</p> <p>(貸主側)</p> <p>1.ファイナンス・リース取引</p> <p>(1)リース投資資産の内訳</p> <p>流動資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">リース料債権部分</td> <td style="text-align: right;">155百万円</td> </tr> <tr> <td>受取利息相当額</td> <td style="text-align: right;">18百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">リース投資資産</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">137百万円</td> </tr> </table> <p>(2)リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の連結決算日後の回収予定額</p> <p>流動資産</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">リース債権 (百万円)</th> <th style="text-align: center;">リース投資資産 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1年以内</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">64</td></tr> <tr><td>1年超</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">48</td></tr> <tr><td>2年以内</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">25</td></tr> <tr><td>2年超</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">12</td></tr> <tr><td>3年以内</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">4</td></tr> <tr><td>3年超</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">-</td></tr> <tr><td>4年以内</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">-</td></tr> <tr><td>4年超</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">-</td></tr> <tr><td>5年以内</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">-</td></tr> <tr><td>5年超</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">-</td></tr> </tbody> </table>	リース料債権部分	155百万円	受取利息相当額	18百万円	リース投資資産	137百万円		リース債権 (百万円)	リース投資資産 (百万円)	1年以内	-	64	1年超	-	48	2年以内	-	25	2年超	-	12	3年以内	-	4	3年超	-	-	4年以内	-	-	4年超	-	-	5年以内	-	-	5年超	-	-	<p>ファイナンス・リース取引 (借主側)</p> <p>リース資産の内容</p> <p>(1)有形固定資産 同左</p> <p>(2)無形固定資産 同左</p> <p>リース資産の減価償却の方法 同左</p> <p>(貸主側)</p> <p>1.ファイナンス・リース取引</p> <p>(1)リース投資資産の内訳</p> <p>流動資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">リース料債権部分</td> <td style="text-align: right;">88百万円</td> </tr> <tr> <td>受取利息相当額</td> <td style="text-align: right;">12百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">リース投資資産</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">76百万円</td> </tr> </table> <p>(2)リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の連結決算日後の回収予定額</p> <p>流動資産</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">リース債権 (百万円)</th> <th style="text-align: center;">リース投資資産 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1年以内</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">45</td></tr> <tr><td>1年超</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">25</td></tr> <tr><td>2年以内</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">12</td></tr> <tr><td>2年超</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">4</td></tr> <tr><td>3年以内</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">-</td></tr> <tr><td>3年超</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">-</td></tr> <tr><td>4年以内</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">-</td></tr> <tr><td>4年超</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">-</td></tr> <tr><td>5年以内</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">-</td></tr> <tr><td>5年超</td><td style="text-align: center;">-</td><td style="text-align: center;">-</td></tr> </tbody> </table>	リース料債権部分	88百万円	受取利息相当額	12百万円	リース投資資産	76百万円		リース債権 (百万円)	リース投資資産 (百万円)	1年以内	-	45	1年超	-	25	2年以内	-	12	2年超	-	4	3年以内	-	-	3年超	-	-	4年以内	-	-	4年超	-	-	5年以内	-	-	5年超	-	-
リース料債権部分	155百万円																																																																														
受取利息相当額	18百万円																																																																														
リース投資資産	137百万円																																																																														
	リース債権 (百万円)	リース投資資産 (百万円)																																																																													
1年以内	-	64																																																																													
1年超	-	48																																																																													
2年以内	-	25																																																																													
2年超	-	12																																																																													
3年以内	-	4																																																																													
3年超	-	-																																																																													
4年以内	-	-																																																																													
4年超	-	-																																																																													
5年以内	-	-																																																																													
5年超	-	-																																																																													
リース料債権部分	88百万円																																																																														
受取利息相当額	12百万円																																																																														
リース投資資産	76百万円																																																																														
	リース債権 (百万円)	リース投資資産 (百万円)																																																																													
1年以内	-	45																																																																													
1年超	-	25																																																																													
2年以内	-	12																																																																													
2年超	-	4																																																																													
3年以内	-	-																																																																													
3年超	-	-																																																																													
4年以内	-	-																																																																													
4年超	-	-																																																																													
5年以内	-	-																																																																													
5年超	-	-																																																																													

(金融商品関係)

当連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針です。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2)金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を定期的に把握する体制としています。

また、外貨建ての金銭債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、原則として外貨建ての営業債務をネットしたポジションを限度として先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が担当取締役に報告されております。

営業債務である支払手形及び買掛金及び未払金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金、社債は主に設備投資に係る資金調達です。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、このうち長期のものの一部については、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引(金利スワップ取引)をヘッジ手段として利用しております。

法人税、住民税(都道府県民税及び市町村民税)及び事業税の未払額である未払法人税等は、そのほとんどが2ヶ月以内に納付期限が到来するものであります。

デリバティブ取引の執行、管理については、取引権限を定めた社内規程に従って行っており、また、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っています。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(3)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。  
なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1)現金及び預金	15,817	15,817	-
(2)受取手形及び売掛金	11,653	11,653	-
(3)投資有価証券	1,246	1,246	-
(4)長期貸付金	1,513		
貸倒引当金(*1)	157		
	1,355	1,321	34
<b>資産計</b>	<b>30,073</b>	<b>30,038</b>	<b>34</b>
(1)支払手形及び買掛金	7,037	7,037	-
(2)短期借入金	21,687	21,687	-
(3)未払金	1,117	1,117	-
(4)未払法人税等	188	188	-
(5)社債(*2)	1,226	1,215	10
(6)長期借入金(*3)	12,279	12,252	27
<b>負債計</b>	<b>43,537</b>	<b>43,498</b>	<b>38</b>
デリバティブ取引(*4)	(93)	(93)	-

(\*1)長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(\*2)社債には、1年内償還予定の社債も含まれております。

(\*3)長期借入金には、1年内返済予定の長期借入金も含まれております。

(\*4)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については( )で示しております。

(注)1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

## (1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (3)投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

## (4)長期貸付金

これらの時価の算定は、一定の期間ごとに分類し、与信管理上の信用リスク区分ごとに、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。また、貸倒懸念債権については、同様の割引率による見積キャッシュ・フローの割引現在価値、又は、担保及び保証による回収見込額等により、時価を算定しております。

負 債

## (1)支払手形及び買掛金、(2)短期借入金、(3)未払金、(4)未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (5)社債

これらの時価は、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(6)長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額（百万円）
非上場株式	439

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	15,817	-	-	-
受取手形及び売掛金	11,647	6	-	-
長期貸付金	-	545	830	137
合計	27,464	551	830	137

4. 社債、長期借入金の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「社債明細表」及び「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成21年3月31日)

1. その他有価証券で時価のあるもの

	種類	取得原価 (百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	143	229	85
	(2) 債券	-	-	-
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	143	229	85
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	819	636	183
	(2) 債券	-	-	-
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	223	179	43
	小計	1,042	815	226
合計		1,185	1,044	141

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
1,420	84	-

3. 時価評価されていない主な有価証券の内容

	連結貸借対照表計上額(百万円)
(1) 子会社株式及び関連会社株式等	176
(2) その他有価証券 非上場株式	282

4. その他有価証券のうち満期があるものの今後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
(1) 債券				
国債・地方債等	-	-	-	-
社債	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
(2) その他				
投資信託受益証券	1	-	-	-
合計	1	-	-	-



当連結会計年度（平成22年3月31日）

1. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	586	379	207
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	586	379	207
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	493	583	89
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	167	207	40
	小計	660	791	130
	合計	1,246	1,170	76

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自平成21年4月1日至平成22年3月31日）

売却損益の合計金額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

3. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において減損処理を行っておりますが、減損処理金額の合計の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

1. 取引の状況に関する事項

前連結会計年度  
(自 平成20年4月1日  
至 平成21年3月31日)

1. 取引の内容

利用しているデリバティブ取引は、通貨関連では為替予約取引、オプション取引、金利関連では金利スワップ取引、商品関連では銅スワップ取引及び亜鉛スワップ取引であります。

2. 取引に対する取組方針

デリバティブ取引は、将来の為替・金利・原材料価格の変動によるリスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。

3. 取引の利用目的

デリバティブ取引は、通貨関連では外貨建金銭債権債務の為替変動リスクを回避し、安定的な利益の確保を図る目的で、金利関連では借入金利等の将来の金利市場における利率上昇による変動リスクを回避する目的で、また商品関連では連結子会社製品の一部として使用する銅及び亜鉛材料の価格変動リスクを回避する目的で利用しております。

なお、一部のデリバティブ取引を利用してヘッジ会計を行っております。

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。ただし、金利スワップ取引のうち特例処理（金融商品に係る会計基準注解）の対象となる取引については、当該特例処理を適用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...金利スワップ取引、為替予約取引

ヘッジ対象...変動金利社債の支払金利、変動金利借入の支払金利、外貨建金銭債権

ヘッジ方針

当社は、財務上のリスク管理対策の一環として、デリバティブ取引を行っております。外貨建債権の為替変動リスクを軽減する目的で為替予約取引を、借入金等の変動リスク軽減のために金利スワップ取引を行うものとしております。

ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの、ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計額を比較する方法によっております。なお、特例処理によっている金利スワップ取引については、有効性評価を省略しております。

4. 取引に係るリスクの内容

為替予約取引及び通貨オプション取引における為替相場の変動によるリスク、及び金利スワップ取引における市場金利の変動によるリスクは、投機的な取引を行っていないため、ほとんどないと認識しております。

前連結会計年度  
(自平成20年4月1日  
至平成21年3月31日)

5. 取引に係るリスク管理体制

当社はデリバティブ取引の開始に際しては、取締役会の決議をもって実施することとしており、日常の管理体制は経理規程、組織および職務権限規程ならびに資金運用管理に関する内規を適用して実施しております。

6. 取引の時価等に関する事項についての補足説明

取引の時価等に関する事項に記載されている契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額、または計算上の想定元本であり、当該取引に係る市場リスクや信用リスクの規模を表すものではありません。

2. 取引の時価等に関する事項

デリバティブ取引の契約額等、時価及び評価損益

(前連結会計年度)

(1) 商品関連

区分	種類	前連結会計年度(平成21年3月31日)			
		契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	スワップ取引				
	銅	470	253	225	225
	亜鉛	312	195	210	210
	合計	782	448	436	436

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 金利関連

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は除いております。

(当連結会計年度)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 商品関連

区分	種類	当連結会計年度(平成22年3月31日)			
		契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	スワップ取引				
	銅	253	36	1	1
	亜鉛	195	78	88	88
	合計	448	114	86	86

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 通貨関連

区分	種類	当連結会計年度(平成22年3月31日)			
		契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建 米ドル	258	-	265	6
	合計	258	-	265	6

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引  
金利関連

区分	種類	主なヘッジ対象	当連結会計年度(平成22年3月31日)		
			契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	2,260	2,084	(注)
	合計		2,260	2,084	-

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

前連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

当社グループは、確定給付型の制度として退職一時金制度、厚生年金基金制度及び適格退職年金制度を設けております。なお、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次のとおりであります。

制度全体の積立状況に関する事項(平成20年3月31日)

年金資産の額	116,372百万円
年金財政計算上の給付債務の額	147,188百万円
差引額	30,815百万円

制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合(平成20年3月31日) 3.93%

補足説明

上記の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高34,179百万円及び剰余金3,363百万円であり、本制度における過去勤務債務の償却方法は期間20年の元利均等償却であります。

当連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

当社グループは、確定給付型の制度として退職一時金制度、厚生年金基金制度及び適格退職年金制度を設けております。なお、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次のとおりであります。

制度全体の積立状況に関する事項(平成21年3月31日)

年金資産の額	93,997百万円
年金財政計算上の給付債務の額	148,468百万円
差引額	54,471百万円

制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合(平成21年3月31日) 3.67%

補足説明

上記の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高32,845百万円及び資産評価調整加算額14,217百万円並びに財政上の不足金7,408百万円であり、本制度における過去勤務債務の償却方法は期間20年の元利均等償却であります。

2. 退職給付債務およびその内訳

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
(1) 退職給付債務	2,098	1,582
(2) 年金資産	917	561
(3) 未積立退職給付債務((1)+(2))	1,181	1,020
(4) 未認識数理計算上の差異	207	15
(5) 未認識過去勤務債務	29	-
(6) 連結貸借対照表計上額純額((3)+(4)+(5))	944	1,005
(7) 前払年金費用	-	-
(8) 退職給付引当金((6)-(7))	944	1,005

3. 退職給付費用の内訳

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
(1) 勤務費用	183	162
(2) 利息費用	37	32
(3) 期待運用収益	29	21
(4) 数理計算上の差異の費用処理額	29	63
(5) 過去勤務債務の費用処理額	5	1
(6) 退職給付費用((1) + (2) + (3) + (4) + (5))	226	238

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
(1) 割引率	2.0%	2.0%
(2) 期待運用収益率	3.0%	3.0%
(3) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	同左
(4) 数理計算上の差異の処理年数 (発生翌連結会計年度から定率法で費用処理することとしております。)	10年	10年
(5) 過去勤務債務の額の処理年数 (発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用処理しております。)	10年	10年

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

1. スtock・オプションに係る当連結会計年度における費用計上額及び科目名

販売費及び一般管理費 72百万円

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

会社名	提出会社
決議年月日	平成19年8月10日
付与対象者の区分及び人数	当社の取締役9名及び当社の監査役4名
株式の種類別のストック・オプションの付与数	普通株式 225,000株
付与日	平成19年8月24日
権利確定条件	<p>1. 新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、権利行使時において当社の取締役、監査役または従業員のいずれかの地位にあることを要する。ただし、任期満了により当社の取締役または監査役を退任した場合、定年を理由に退職した場合、その他当社の取締役会が正当な理由があると認めた場合は、この限りではない。</p> <p>2. 新株予約権者の相続人による新株予約権の行使は認められない。</p> <p>3. その他の条件については、当社株主総会決議および取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>
対象勤務期間	対象期間の定めはありません。
権利行使期間	自平成21年9月1日 至平成24年8月31日

会社名	株式会社ソディックプラステック
決議年月日	平成13年6月15日
付与対象者の区分及び人数	株式会社ソディックプラステックの取締役 6名 及び執行役員 6名 並びに従業員 33名
株式の種類別のストック・オプションの付与数	普通株式 520株
付与日	平成13年6月16日
権利確定条件	<p>1. 権利行使時においても、権利を付与された者は、株式会社ソディックプラステックの取締役または従業員であることを要する。ただし、株式会社ソディックプラステックの指示により関連会社の取締役、監査役、顧問または従業員としての地位を継続して保有する場合は権利を行使できる。</p> <p>2. 権利行使により取得できる株式の発行価格の総額は年間10,000千円以下とする。</p> <p>3. その他の権利行使の条件については、定時株主総会決議及び取締役会決議に基づき、株式会社ソディックプラステックと対象取締役及び従業員との間で締結する付与契約に定めるものとする。</p>
対象勤務期間	-
権利行使期間	自平成15年7月1日 至平成20年6月30日

会社名	株式会社ソディックプラステック
決議年月日	平成19年6月27日
付与対象者の区分及び人数	株式会社ソディックプラステックの取締役9名及び監査役4名
株式の種類別のストック・オプションの付与数	普通株式 219株
付与日	平成19年7月31日
権利確定条件	<p>1. 平成19年7月31日以降、新株予約権を付与された者が株式会社ソディックプラステックの役員および使用人のいずれの地位をも喪失した場合、新株予約権の行使可能期間を超えない範囲で、当該喪失日の翌日から3年間に限り新株予約権を行使することができる。但し、会社に損害を与えたこと等による解雇、解任その他による地位の喪失の場合は、行使することはできない。</p> <p>2. 新株予約権者が権利行使期間内に死亡した場合は、取締役会の承認を条件として、新株予約権の行使可能期間を超えない範囲で、相続人は新株予約権者の死亡の翌日から3年間に限り新株予約権を行使することができる。</p> <p>3. 新株予約権者が新株予約権の全部又は一部を放棄した場合には、同放棄にかかる新株予約権を行使することができないものとする。</p> <p>4. その他の条件は、株式会社ソディックプラステックと被付与者との間で締結する契約で定めるところによる。</p>
対象勤務期間	1年間（自平成19年7月31日至平成20年7月31日）
権利行使期間	自平成20年8月1日 至平成30年7月31日

会社名	株式会社ソディックプラステック
決議年月日	平成20年7月5日
付与対象者の区分及び人数	株式会社ソディックプラステックの取締役9名及び監査役4名
株式の種類別のストック・オプションの付与数	普通株式 275株
付与日	平成20年7月31日
権利確定条件	<p>1. 平成20年7月31日以降、新株予約権を付与された者が株式会社ソディックプラステックの役員および使用人のいずれの地位をも喪失した場合、新株予約権の行使可能期間を超えない範囲で、当該喪失日の翌日から3年間に限り新株予約権を行使することができる。但し、会社に損害を与えたこと等による解雇、解任その他による地位の喪失の場合は、行使することはできない。</p> <p>2. 新株予約権者が権利行使期間内に死亡した場合は、取締役会の承認を条件として、新株予約権の行使可能期間を超えない範囲で、相続人は新株予約権者の死亡の翌日から3年間に限り新株予約権を行使することができる。</p> <p>3. 新株予約権者が新株予約権の全部又は一部を放棄した場合には、同放棄にかかる新株予約権を行使することができないものとする。</p> <p>4. その他の条件は、株式会社ソディックプラステックと被付与者との間で締結する契約で定めるところによる。</p>
対象勤務期間	-
権利行使期間	自平成21年8月1日 至平成31年7月31日



(2)ストック・オプションの規模及びその変動状況  
ストック・オプションの数

会社名	提出会社	株式会社ソディック プラステック	株式会社ソディック プラステック	株式会社ソディック プラステック
決議年月日	平成19年8月10日	平成13年6月15日	平成19年6月27日	平成20年7月5日
権利確定前				
期首(株)	225,000	-	219	-
付与(株)	-	-	-	275
失効(株)	-	-	-	-
権利確定(株)	-	-	219	-
未確定残(株)	225,000	-	-	275
権利確定後				
期首(株)	-	405	-	-
権利確定(株)	-	-	219	-
権利行使(株)	-	-	219	-
失効(株)	-	405	-	-
未行使残(株)	-	-	-	-

単価情報

会社名	提出会社	株式会社ソディック プラステック	株式会社ソディック プラステック	株式会社ソディック プラステック
決議年月日	平成19年8月10日	平成13年6月15日	平成19年6月27日	平成20年7月5日
権利行使価格(円)	932	400,000	1	1
行使時平均株価 (円)	-	-	118,424	-
付与日における公正 な評価単価(円)	184	-	200,060	140,084

3. 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

〔株式会社ソディックプラステック〕

(1)使用した算定技法

二項モデル

(2)使用した主な基礎数値及びその見積方法

株価変動性

64.191% 年率、上場後の日次株価に基づき算定

予想配当

5,000円/株 平成20年3月期の配当実績による。

無リスク利子率

1.621% (残存期間11年)

付与日から権利行使期間の最終日までの期間に対応する残存期間の国債の利回り

4. スtock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積もりは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用している。

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

1. スtock・オプションに係る当連結会計年度における費用計上額及び科目名

販売費及び一般管理費 - 百万円

2. 権利不行使による失効により利益として計上した金額

営業外収益 その他 4百万円

3. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

会社名	提出会社
決議年月日	平成19年8月10日
付与対象者の区分及び人数	当社の取締役9名及び当社の監査役4名
株式の種類別のStock・オプションの付与数	普通株式 225,000株
付与日	平成19年8月24日
権利確定条件	<p>1. 新株予約権の割当てを受けた者（以下「新株予約権者」という。）は、権利行使時において当社の取締役、監査役または従業員のいずれかの地位にあることを要する。ただし、任期満了により当社の取締役または監査役を退任した場合、定年を理由に退職した場合、その他当社の取締役会が正当な理由があると認めた場合は、この限りではない。</p> <p>2. 新株予約権者の相続人による新株予約権の行使は認められない。</p> <p>3. その他の条件については、当社株主総会決議および取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>
対象勤務期間	対象期間の定めはありません。
権利行使期間	自平成21年9月1日 至平成24年8月31日

会社名	株式会社ソディックプラステック
決議年月日	平成20年7月5日
付与対象者の区分及び人数	株式会社ソディックプラステックの取締役9名及び監査役4名
株式の種類別のストック・オプションの付与数	普通株式 275株
付与日	平成20年7月31日
権利確定条件	<p>1. 平成20年7月31日以降、新株予約権を付与された者が株式会社ソディックプラステックの役員および使用人のいずれの地位をも喪失した場合、新株予約権の行使可能期間を超えない範囲で、当該喪失日の翌日から3年間に限り新株予約権を行使することができる。但し、会社に損害を与えたこと等による解雇、解任その他による地位の喪失の場合は、行使することはできない。</p> <p>2. 新株予約権者が権利行使期間内に死亡した場合は、取締役会の承認を条件として、新株予約権の行使可能期間を超えない範囲で、相続人は新株予約権者の死亡の翌日から3年間に限り新株予約権を行使することができる。</p> <p>3. 新株予約権者が新株予約権の全部又は一部を放棄した場合には、同放棄にかかる新株予約権を行使することができないものとする。</p> <p>4. その他の条件は、株式会社ソディックプラステックと被付与者との間で締結する契約で定めるところによる。</p>
対象勤務期間	-
権利行使期間	自平成21年8月1日 至平成31年7月31日

(2)ストック・オプションの規模及びその変動状況  
ストック・オプションの数

会社名	提出会社	株式会社ソディック プラステック
決議年月日	平成19年8月10日	平成20年7月5日
権利確定前		
期首(株)	225,000	275
付与(株)	-	-
失効(株)	69,500	-
権利確定(株)	155,500	275
未確定残(株)	-	-
権利確定後		
期首(株)	-	-
権利確定(株)	155,500	275
権利行使(株)	-	271
失効(株)	26,000	-
未行使残(株)	129,500	4

単価情報

会社名	提出会社	株式会社ソディック プラステック
決議年月日	平成19年8月10日	平成20年7月5日
権利行使価格(円)	932	1
行使時平均株価 (円)	-	68,416
付与日における公正 な評価単価(円)	184	140,084

4. 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法  
該当事項はありません。

5. スtock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積もりは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用している。

( 税効果会計関係 )

前連結会計年度 ( 自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日 )	当連結会計年度 ( 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日 )																																																																								
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">464百万円</td></tr> <tr><td>たな卸資産評価損</td><td style="text-align: right;">481</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">170</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">2,640</td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">3,124</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">366</td></tr> <tr><td>未実現利益</td><td style="text-align: right;">193</td></tr> <tr><td>製品保証引当金</td><td style="text-align: right;">178</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">234</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">688</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">8,543</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">8,312</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">231</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">3</td></tr> <tr><td>為替差益</td><td style="text-align: right;">48</td></tr> <tr><td>子会社の留保利益金</td><td style="text-align: right;">6</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">64</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">122</td></tr> </table>	貸倒引当金	464百万円	たな卸資産評価損	481	賞与引当金	170	投資有価証券評価損	2,640	繰越欠損金	3,124	退職給付引当金	366	未実現利益	193	製品保証引当金	178	減損損失	234	その他	688	繰延税金資産小計	8,543	評価性引当額	8,312	繰延税金資産合計	231	その他有価証券評価差額金	3	為替差益	48	子会社の留保利益金	6	その他	64	繰延税金負債合計	122	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">247百万円</td></tr> <tr><td>たな卸資産評価損</td><td style="text-align: right;">724</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">115</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">267</td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">5,186</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">391</td></tr> <tr><td>未実現利益</td><td style="text-align: right;">119</td></tr> <tr><td>製品保証引当金</td><td style="text-align: right;">137</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">40</td></tr> <tr><td>子会社株式</td><td style="text-align: right;">947</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">646</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">8,823</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">8,741</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">81</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">51</td></tr> <tr><td>為替差益</td><td style="text-align: right;">54</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">133</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">239</td></tr> </table>	貸倒引当金	247百万円	たな卸資産評価損	724	賞与引当金	115	投資有価証券評価損	267	繰越欠損金	5,186	退職給付引当金	391	未実現利益	119	製品保証引当金	137	減損損失	40	子会社株式	947	その他	646	繰延税金資産小計	8,823	評価性引当額	8,741	繰延税金資産合計	81	その他有価証券評価差額金	51	為替差益	54	その他	133	繰延税金負債合計	239
貸倒引当金	464百万円																																																																								
たな卸資産評価損	481																																																																								
賞与引当金	170																																																																								
投資有価証券評価損	2,640																																																																								
繰越欠損金	3,124																																																																								
退職給付引当金	366																																																																								
未実現利益	193																																																																								
製品保証引当金	178																																																																								
減損損失	234																																																																								
その他	688																																																																								
繰延税金資産小計	8,543																																																																								
評価性引当額	8,312																																																																								
繰延税金資産合計	231																																																																								
その他有価証券評価差額金	3																																																																								
為替差益	48																																																																								
子会社の留保利益金	6																																																																								
その他	64																																																																								
繰延税金負債合計	122																																																																								
貸倒引当金	247百万円																																																																								
たな卸資産評価損	724																																																																								
賞与引当金	115																																																																								
投資有価証券評価損	267																																																																								
繰越欠損金	5,186																																																																								
退職給付引当金	391																																																																								
未実現利益	119																																																																								
製品保証引当金	137																																																																								
減損損失	40																																																																								
子会社株式	947																																																																								
その他	646																																																																								
繰延税金資産小計	8,823																																																																								
評価性引当額	8,741																																																																								
繰延税金資産合計	81																																																																								
その他有価証券評価差額金	51																																																																								
為替差益	54																																																																								
その他	133																																																																								
繰延税金負債合計	239																																																																								
<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>当連結会計年度は税金等調整前当期純損失のため記載しておりません。</p>	<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>当連結会計年度は税金等調整前当期純損失のため記載しておりません。</p>																																																																								

(企業結合等関係)

前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
<p>(共通支配下の取引等) 連結子会社である株式会社ソディック新横と連結子会社である株式会社ソディックEMGおよび株式会社トム・ソディックの合併</p> <p>1. 結合当事企業の名称及び事業の内容、企業結合の法的形式、結合後企業の名称並びに取引の目的を含む取引の概要</p> <p>(1) 結合当事企業の名称及び事業の内容 結合企業 名称 株式会社ソディック新横 事業の内容 放電加工機、周辺器機及び消耗品の販売 被結合企業 イ. 名称 株式会社ソディックEMG 事業の内容 工業用セラミックの製造 ロ. 名称 株式会社トム・ソディック 事業の内容 食料品加工機械の開発、製造及び販売</p> <p>(2) 企業結合の法的形式及び結合後企業の名称 株式会社ソディックEMG、株式会社トム・ソディックを消滅会社とする吸収合併であり、結合後企業の名称は株式会社ソディック新横となっております。</p> <p>(3) 取引の目的を含む取引の概要 当社グループにおける経営の一層の効率化を図ったものです。</p> <p>2. 実施した会計処理の概要 上記合併は、共通支配下の取引に該当するため、内部取引としてすべて消去しています。したがって、当該会計処理が連結財務諸表に与える影響はありません。</p>	<p>(共通支配下の取引等) 提出会社である株式会社ソディックと連結子会社である株式会社ソディックハイテックの合併</p> <p>1. 結合当事企業の名称及び事業の内容、企業結合日、企業結合の法的形式、結合後企業の名称並びに取引の目的を含む取引の概要</p> <p>(1) 結合当事企業の名称及び事業の内容 結合企業 名称 株式会社ソディック 事業の内容 放電加工機の開発、製造、販売 被結合企業 名称 株式会社ソディックハイテック 事業の内容 放電加工機の周辺機器・消耗品の販売、メンテナンス及び金属製品の製造、精密工作機械の製造・販売</p> <p>(2) 企業結合日 平成21年10月1日</p> <p>(3) 企業結合の法的形式及び結合後企業の名称 株式会社ソディックハイテックを消滅会社とする吸収合併であり、結合後企業の名称は株式会社ソディックとなっております。</p> <p>(4) 取引の目的を含む取引の概要 当社グループにおける経営の一層の効率化を図ったものです。</p> <p>2. 実施した会計処理の概要 上記合併は、共通支配下の取引に該当するため、内部取引としてすべて消去しています。したがって、当該会計処理が連結財務諸表に与える影響はありません。</p>

<p>前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>提出会社である株式会社ソディックと連結子会社である株式会社ソディックCPCの合併</p> <p>1. 結合当事企業の名称及び事業の内容、企業結合の法的形式、結合後企業の名称並びに取引の目的を含む取引の概要</p> <p>(1) 結合当事企業の名称及び事業の内容</p> <p>結合企業 名称 株式会社ソディック 事業の内容 放電加工機の開発、製造、販売</p> <p>被結合企業 名称 株式会社ソディックCPC 事業の内容 放電加工機・周辺機器・消耗品の販売</p> <p>(2) 企業結合の法的形式及び結合後企業の名称 株式会社ソディックを存続会社とし、株式会社ソディックCPCを消滅会社とする吸収合併を行いました。</p> <p>(3) 取引の目的を含む取引の概要 経営管理体制の強化、並びに経営の効率化を図ったものです。</p> <p>2. 実施した会計処理の概要 上記合併は、共通支配下の取引に該当するため、内部取引としてすべて消去しています。したがって、当該会計処理が連結財務諸表に与える影響はありません。</p>	<p>連結子会社である株式会社ソディックプラスチックと連結子会社である株式会社ソディック新横の事業分離</p> <p>1. 対象となった事業の名称及びその事業の内容、企業結合日、企業結合の法的形式、結合後企業の名称並びに取引の目的を含む取引の概要</p> <p>(1) 対象となった事業の名称及びその事業の内容 事業の名称 食品機械事業 事業の内容 食料品加工機械の開発・製造・販売</p> <p>(2) 企業結合日 平成21年10月1日</p> <p>(3) 企業結合の法的形式 株式会社ソディック新横を分離企業、株式会社ソディックプラスチックを分離先企業とする事業譲渡</p> <p>(4) 結合後企業の名称 株式会社ソディックプラスチック</p> <p>(5) 取引の目的を含む取引の概要 当社グループにおける経営の一層の効率化を図ったものです。</p> <p>2. 実施した会計処理の概要 「企業結合に係る会計基準」(企業会計審議会 平成15年10月31日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成19年11月15日公表分)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。</p>

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
	<p>提出会社である株式会社ソディックと連結子会社である株式会社ソディック新横の会社分割</p> <p>1.対象となった事業の名称及びその事業の内容、企業結合日、企業結合の法的形式、結合後企業の名称並びに取引の目的を含む取引の概要</p> <p>(1)対象となった事業の名称及び事業の内容 事業の名称 金型成形事業 事業の内容 金型の設計・製造、成形加工</p> <p>(2)企業結合日 平成21年12月1日</p> <p>(3)企業結合の法的形式 株式会社ソディックを分割会社、株式会社ソディック新横を承継会社とする吸収分割</p> <p>(4)結合後企業の名称 株式会社ソディック新横</p> <p>(5)取引の目的を含む取引の概要 当社グループにおける経営の一層の効率化を図ったものです。</p> <p>2.実施した会計処理の概要 「企業結合に係る会計基準」(企業会計審議会 平成15年10月31日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成19年11月15日公表分)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。</p>

(賃貸等不動産関係)

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。



(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

	工作機械事業 (百万円)	産業機械事業 (百万円)	精密金型・精密成形事業 (百万円)	食品機械事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
・売上高及び営業利益								
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	35,811	12,199	3,703	2,002	816	54,533	-	54,533
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	62	4	4	17	87	176	(176)	-
計	35,874	12,204	3,708	2,019	903	54,709	(176)	54,533
営業費用	36,172	12,123	4,261	2,111	939	55,608	1,437	57,045
営業利益または営業損失( )	297	80	552	92	36	898	(1,614)	2,512
・資産、減価償却費、減損損失及び資本的支出								
資産	46,984	10,696	5,145	2,864	649	66,340	18,011	84,351
減価償却費	2,110	405	269	135	90	3,011	84	3,096
減損損失	48	54	-	-	-	103	-	103
資本的支出	1,803	581	291	154	28	2,859	155	3,014

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分は、日本工業規格及び内部管理上採用している区分によっております。

2. 各事業区分の主要製品

工作機械事業.....NC放電加工機、マシニングセンタ、細穴加工機及び周辺機器

産業機械事業.....プラスチック射出成形機、リアモータ応用製品

精密金型・精密成形事業...精密金型、精密成形品、合成樹脂加工製品及び周辺機器

食品機械事業.....食品機械及び周辺機器

その他の事業.....金型生産統合システム、セラミックス製品及びその関連機器並びにその周辺機器

3. 配賦不能営業費用の状況

当連結会計年度における営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用は、16億14百万円であり、その主なものは連結財務諸表提出会社の本社機能に係る費用であります。

4. 全社資産の状況

当連結会計年度における資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産は、183億52百万円であり、その主なものは連結財務諸表提出会社での余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券、出資金)及び管理部門に係る資産等であります。

5. 「会計処理の変更」に記載のとおり、一部の連結子会社は、販売した機械本体の無償補修費用を、従来支出時の費用として処理しておりましたが、当連結会計年度より過去の売上高に対する支出割合に基づき、製品保証引当金を計上する方法に変更しております。

この変更により、従来と同一基準による会計処理を行った場合と比較して、当連結会計年度の営業利益が「産業機械事業」で22百万円増加しております。

6. 「会計処理の変更」に記載のとおり、通常の販売目的で保有する棚卸資産については、従来、評価基準として原価法によっておりましたが、当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)に変更しております。

この変更により、従来と同一基準による会計処理を行った場合と比較して、当連結会計年度の営業損失が「工作機械事業」で20百万円増加し、営業利益が「産業機械事業」で9百万円減少しております。

7. 「会計処理の変更」に記載のとおり、当連結会計年度より「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用しております。この変更により、従来と同一基準による会計処理を行った場合と比較して、当連結会計年度の営業損失が「工作機械事業」で1億92百万円、「精密金型・精密成形事業」で0百万円それぞれ増加しております。
8. 「会計処理の変更」に記載のとおり、当連結会計年度より「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用しております。この変更により、従来と同一基準による会計処理を行った場合と比較して、当連結会計年度の営業損失が「工作機械事業」で50百万円増加し、「精密金型・精密成形事業」で0百万円減少し、営業利益が「産業機械事業」で11百万円増加しております。
9. 事業の種類別セグメントの変更  
従来「その他の事業」に含めておりました精密金型・精密成形事業、食品機械事業につきましては、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より「精密金型・精密成形事業」、「食品機械事業」として区分掲記することといたしました。この変更により、従来と同一基準による会計処理を行った場合と比較して、「精密金型・精密成形事業」では、当連結会計年度の売上高が37億8百万円、営業費用が42億61百万円、営業損失が5億52百万円、資産が51億45百万円、減価償却費が2億69百万円、資本的支出が2億91百万円それぞれ増加し、「食品機械事業」では、当連結会計年度の売上高が20億19百万円、営業費用が21億11百万円、営業損失が92百万円、資産が28億64百万円、減価償却費が1億35百万円、資本的支出が1億54百万円それぞれ増加し、「その他の事業」は、それぞれ同額減少しております。  
なお、前連結会計年度のセグメント情報を、当連結会計年度の事業区分によった場合の種類別セグメント情報は次のとおりであります。

前々連結会計年度(自平成19年4月1日至平成20年3月31日)

	工作機械事業 (百万円)	産業機械事業 (百万円)	精密金型・精密成形事業 (百万円)	食品機械事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
・売上高及び営業利益								
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	54,066	13,552	5,176	2,361	491	75,647	-	75,647
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	58	11	8	81	289	449	(449)	-
計	54,124	13,563	5,184	2,442	781	76,096	(449)	75,647
営業費用	47,893	13,138	5,073	2,641	802	69,549	965	70,514
営業利益または営業損失( )	6,231	424	111	198	21	6,547	(1,414)	5,133
・資産、減価償却費、減損損失及び資本的支出								
資産	67,782	13,980	6,833	2,857	1,745	93,199	10,768	103,967
減価償却費	2,135	428	275	146	49	3,035	95	3,131
減損損失	10	-	-	-	161	171	-	171
資本的支出	5,583	792	339	1,803	15	8,534	34	8,568

当連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

	工作機械 事業 (百万円)	産業機械 事業 (百万円)	精密金型 ・精密成 形事業 (百万円)	食品機械 事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
・売上高及び営業利益								
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	22,598	8,113	3,723	2,067	258	36,761	-	36,761
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	33	29	1	-	42	105	(105)	-
計	22,631	8,142	3,724	2,067	300	36,866	(105)	36,761
営業費用	23,314	8,185	3,549	2,833	364	38,246	1,203	39,449
営業利益または営業損失( )	683	42	175	765	63	1,379	(1,308)	2,688
・資産、減価償却費、減損損失及び資本的支出								
資産	37,351	10,623	4,659	2,875	504	56,014	16,753	72,767
減価償却費	1,745	325	309	121	30	2,531	109	2,640
減損損失	45	-	-	-	-	45	20	65
資本的支出	697	145	32	17	4	897	47	945

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分は、日本工業規格及び内部管理上採用している区分によっております。

2. 各事業区分の主要製品

工作機械事業.....NC放電加工機、マシニングセンタ、細穴加工機及び周辺機器

産業機械事業.....プラスチック射出成形機、リニアモータ応用製品

精密金型・精密成形事業...精密金型、精密成形品、合成樹脂加工製品及び周辺機器

食品機械事業.....食品機械及び周辺機器

その他の事業.....金型生産統合システム、セラミックス製品及びその関連機器並びにその周辺機器

3. 配賦不能営業費用の状況

当連結会計年度における営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用は、13億87百万円であり、その主なものは連結財務諸表提出会社の本社機能に係る費用であります。

4. 全社資産の状況

当連結会計年度における資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産は、171億26百万円であり、その主なものは連結財務諸表提出会社での余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券、出資金)及び管理部門に係る資産等であります。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)							
	日本 (百万円)	北・南米 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
・売上高及び営業利益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	32,289	3,266	6,027	12,949	54,533	-	54,533
(2) セグメント間の内部売上高	13,205	152	240	12,874	26,472	(26,472)	-
合計	45,494	3,418	6,268	25,824	81,006	(26,472)	54,533
営業費用	45,749	3,471	6,526	26,765	82,513	(25,467)	57,045
営業損失( )	254	52	257	941	1,507	(1,005)	2,512
・資産	67,227	2,151	3,728	23,741	96,849	(12,497)	84,351

(注) 1. 国または地域の区分の方法および各区分に属する主な国または地域の内訳は次のとおりであります。

(1) 国または地域の区分の方法.....地理的近接度による。

(2) 各区分に属する主な国または地域

北・南米...アメリカ

欧州 ...ドイツ、イギリス

アジア ...中国、台湾、中国香港、タイ、シンガポール、韓国

2. 配賦不能営業費用の状況

当連結会計年度における営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用は、16億14百万円であり、その主なものは連結財務諸表提出会社の本社機能に係る費用であります。

3. 全社資産の状況

当連結会計年度における資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産は、183億52百万円であり、その主なものは連結財務諸表提出会社での余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券、出資金)及び管理部門に係る資産等であります。

4. 「会計処理の変更」に記載のとおり、一部の連結子会社は、販売した機械本体の無償補修費用を、従来支出時の費用として処理しておりましたが、当連結会計年度より過去の売上高に対する支出割合に基づき、製品保証引当金を計上する方法に変更しております。

この変更により、従来と同一基準による会計処理を行った場合と比較して、当連結会計年度の営業損失が「日本」で22百万円減少しております。

5. 「会計処理の変更」に記載のとおり、通常の販売目的で保有する棚卸資産については、従来、評価基準として原価法によっておりましたが、当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号平成18年7月5日公表分)が適用されたことに伴い、原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)に変更しております。

この変更により、従来と同一基準による会計処理を行った場合と比較して、当連結会計年度の営業損失が「日本」で29百万円増加しております。

6. 「会計処理の変更」に記載のとおり、当連結会計年度より「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号平成18年5月17日)を適用しております。この変更により、従来と同一基準による会計処理を行った場合と比較して、当連結会計年度の営業損失が「アジア」で1億92百万円増加しております。

7. 「会計処理の変更」に記載のとおり、当連結会計年度より「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用しております。この変更により、従来と同一基準による会計処理を行った場合と比較して、当連結会計年度の営業損失が「日本」で39百万円増加しております。

当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)							
	日本 (百万円)	北・南米 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
・売上高及び営業利益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	23,103	2,315	3,258	8,083	36,761	-	36,761
(2) セグメント間の内部売上高	3,819	80	248	5,070	9,219	(9,219)	-
合計	26,922	2,396	3,507	13,154	45,981	(9,219)	36,761
営業費用	27,909	2,424	3,676	14,455	48,465	(9,016)	39,449
営業損失( )	986	27	169	1,301	2,484	(203)	2,688
・資産	56,938	1,840	2,587	21,948	83,315	(10,547)	72,767

(注) 1. 国または地域の区分の方法および各区分に属する主な国または地域の内訳は次のとおりであります。

(1) 国または地域の区分の方法.....地理的近接度による。

(2) 各区分に属する主な国または地域

北・南米...アメリカ

欧州 ...ドイツ、イギリス

アジア ...中国、台湾、中国香港、タイ、シンガポール、韓国

2. 配賦不能営業費用の状況

当連結会計年度における営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用は、13億87百万円であり、その主なものは連結財務諸表提出会社の本社機能に係る費用であります。

3. 全社資産の状況

当連結会計年度における資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産は、171億26百万円であり、その主なものは連結財務諸表提出会社での余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券、出資金)及び管理部門に係る資産等であります。

【海外売上高】

		北・南米	欧州	アジア	計
前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	・海外売上高(百万円)	3,644	6,347	18,551	28,543
	・連結売上高(百万円)	-	-	-	54,533
	・海外売上高の連結売上高 に占める割合(%)	6.7	11.6	34.0	52.3

- (注) 1. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高であります。  
2. 国または地域の区分の方法及び各区分に属する主な国または地域の内訳は次のとおりであります。  
(1) 国または地域の区分の方法.....地理的近接度による。  
(2) 各区分に属する主な国または地域  
北・南米...アメリカ、カナダ、メキシコ  
欧州 ...ドイツ、ロシア、イタリア、トルコ、フランス、イギリス  
アジア ...中国、台湾、中国香港、タイ、シンガポール、韓国

		北・南米	欧州	アジア	計
当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	・海外売上高(百万円)	2,545	3,244	13,694	19,484
	・連結売上高(百万円)	-	-	-	36,761
	・海外売上高の連結売上高 に占める割合(%)	6.9	8.8	37.3	53.0

- (注) 1. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高であります。  
2. 国または地域の区分の方法及び各区分に属する主な国または地域の内訳は次のとおりであります。  
(1) 国または地域の区分の方法.....地理的近接度による。  
(2) 各区分に属する主な国または地域  
北・南米...アメリカ、カナダ、メキシコ  
欧州 ...ドイツ、ロシア、イタリア、トルコ、フランス、イギリス  
アジア ...中国、台湾、中国香港、タイ、シンガポール、韓国

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

(追加情報)

当連結会計年度より、「関連当事者の開示に関する会計基準」(企業会計基準第11号 平成18年10月17日)及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準第13号 平成18年10月17日)を適用しております。この結果、従来の開示対象範囲に加えて、連結子会社と関連当事者との取引が開示対象に追加されております。

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
役員	鈴木正昭	-	-	(株)ソディックハイテック監査役(注2,3)	直接 1.43	株式の譲受	子会社(株)ソディックCPC)株式の譲受(注4)	72	-	-
	保坂昭夫	-	-	当社生産統括本部長(注2,3)	直接 0.42	株式の譲受	子会社(株)ソディックCPC)株式の譲受(注4)	49	-	-
	高木圭介	-	-	当社亜細亜営業本部長(注2,3)	直接 0.22	株式の譲受	子会社(株)ソディックCPC)株式の譲受(注4)	31	-	-

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
役員	唐戸幸作	-	-	当社営業技術本部長(注2,3)	直接 0.23	株式の譲受	子会社(株)ソディックCPC)株式の譲受(注4)	31	-	-

(注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておりません。

- 平成21年6月26日開催の株主総会において、当社取締役就任しております。
- 取引時点において、連結子会社である株式会社ソディックCPCの取締役でありました。
- 上記役員からの子会社株式の譲受の価格は、第三者機関の鑑定評価額を参考にして決定しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)	
役員	藤原克英	-	-	当社代表取締役社長	直接 0.30	資金の貸付	資金の貸付(注8) 上記貸付に係る受入担保(注9) 利息の受取	49 14 0	1年内回収予定の長期貸付金 長期貸付金	5 36	
	山本孝志	-	-	当社取締役副社長(注2)	直接 0.22	資金の貸付	資金の貸付(注8) 上記貸付に係る受入担保(注9) 利息の受取	49 14 0	1年内回収予定の長期貸付金 長期貸付金	6 29	
	金子雄二	-	-	当社常務取締役	直接 0.20	資金の貸付	資金の貸付(注8) 上記貸付に係る受入担保(注9) 利息の受取	49 14 0	1年内回収予定の長期貸付金 長期貸付金	6 37	
	表田俊二	-	-	当社取締役	直接 0.16	資金の貸付	資金の貸付(注8) 上記貸付に係る受入担保(注9) 利息の受取	38 11 0	1年内回収予定の長期貸付金 長期貸付金	4 32	
	藤田猛夫	-	-	当社取締役(注2)	直接 0.16	資金の貸付	資金の貸付(注8) 上記貸付に係る受入担保(注9) 利息の受取	38 11 0	1年内回収予定の長期貸付金 長期貸付金	5 31	
	小林繁	-	-	当社取締役	直接 0.21	資金の貸付	資金の貸付(注8) 上記貸付に係る受入担保(注9) 利息の受取	38 11 0	1年内回収予定の長期貸付金 長期貸付金	7 28	
	古川健一				当社取締役	直接 0.55	資金の貸付	資金の貸付(注8) 利息の受取	38 0	-	-
							株式の譲受	子会社(株)トム・ソディック)株式の譲受(注10)	18	-	-
	塩田成夫	-	-	(株)ソディックセールスジャパン代表取締役社長(注3)	直接 0.45	資金の貸付	資金の貸付(注8) 上記貸付に係る受入担保(注9) 利息の受取	71 21 0	1年内回収予定の長期貸付金 長期貸付金	6 57	
加藤和夫	-	-	Sodick Singapore Pte., Ltd. 取締役(注3)	直接 0.33	資金の貸付	資金の貸付(注8) 上記貸付に係る受入担保(注9) 利息の受取	77 22 1	1年内回収予定の長期貸付金 長期貸付金	7 63		

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	古川利彦	-	-	㈱ソディックハイテック代表取締役社長 (注4)	直接 4.74	資金の貸付	資金の貸付(注8)	1,200	長期貸付金	300
							上記貸付に係る受入担保(注9)	353		
							ゴルフ会員権の売却(注11)	17		
								32	-	-
	鈴木正昭	-	-	㈱ソディックハイテック監査役 (注4,5)	直接 1.43	資金の貸付	資金の貸付(注8)	210	1年内回収予定の長期貸付金 長期貸付金	21
							上記貸付に係る受入担保(注9)	64		
								3		100
						ゴルフ会員権の売却(注11)	21	未収入金	12	
渡貴雄一	-	-	-	当社欧米営業本部長 (注4,6)	直接 0.30	資金の貸付	資金の貸付(注8)	90	-	-
							利息の受取	1		
保坂昭夫	-	-	-	当社生産統括本部長 (注4,5)	直接 0.42	資金の貸付	資金の貸付(注8)	90	1年内回収予定の長期貸付金 長期貸付金	9
							上記貸付に係る受入担保(注9)	24		
							1		30	
松井孝	-	-	-	当社国内営業本部長 (注4,6)	直接 0.20	資金の貸付	資金の貸付(注8)	60	1年内回収予定の長期貸付金 長期貸付金	6
							上記貸付に係る受入担保(注9)	16		
							0		19	
高木圭介	-	-	-	当社亜細亜営業本部長 (注4,5)	直接 0.22	資金の貸付	資金の貸付(注8)	60	1年内回収予定の長期貸付金 長期貸付金	6
							上記貸付に係る受入担保(注9)	16		
							0		3	
唐戸幸作	-	-	-	当社営業技術本部長 (注4,5)	直接 0.23	資金の貸付	資金の貸付(注8)	60	1年内回収予定の長期貸付金 長期貸付金	6
							上記貸付に係る受入担保(注9)	16		
							0		34	
古川真由美	-	-	-	(注7)	-	株式の譲受	子会社(㈱トム・ソディック)株式の譲受(注10)	18	-	-

- (注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. 平成21年6月26日開催の株主総会において、当社取締役を辞任しております。
3. 当連結会計年度において、当社取締役を辞任しております。
4. 平成21年6月26日開催の株主総会において、当社取締役に就任しております。
5. 取引時点において、連結子会社である株式会社ソディックCPCの取締役でありました。
6. 取引時点において、連結子会社である株式会社ソディックハイテックの取締役でありました。
7. 当社取締役の古川健一及び古川利彦の近親者であります。
8. 上記役員に対する資金の貸付の利息については、市場金利を勘案して決定しております。
9. 上記役員に対する資金の貸付の担保として、当社株式等を受入れております。
10. 上記役員からの子会社株式の譲受の価格は、第三者機関鑑定評価額を参考にしております。
11. 上記役員へのゴルフ会員権の売却の価格は、市場価格を参考に決定しております。



当連結会計年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等  
該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有） 割合（％）	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	古川利彦	-	-	当社代表取締役会長	直接 4.74	資金の貸付	利息の受取 第三者割当増資の引受 (注6)	8 86	長期貸付金	300
	鈴木正昭	-	-	当社取締役副会長	直接 1.47	資金の貸付	資金の貸付 (注4) 上記貸付に係る受入担保 (注5) 利息の受取 第三者割当増資の引受 (注6)	86 80 4 36	1年内回収予定の長期貸付金 長期貸付金	29 157
	藤原克英	-	-	当社代表取締役社長	直接 0.30	資金の貸付	利息の受取	1	長期貸付金	42
	保坂昭夫	-	-	当社取締役副社長	直接 0.42	資金の貸付	利息の受取	1	長期貸付金	39
	金子雄二	-	-	当社常務取締役	直接 0.21	資金の貸付	利息の受取	1	1年内回収予定の長期貸付金 長期貸付金	8 36
	松井孝	-	-	当社常務取締役	直接 0.20	資金の貸付	利息の受取	0	長期貸付金	15
	唐戸幸作	-	-	当社常務取締役	直接 0.24	資金の貸付	利息の受取	0	長期貸付金	20
	表田俊二	-	-	当社取締役 (注2)	直接 0.19	資金の貸付	利息の受取	1	長期貸付金	36

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	小林繁	-	-	当社取締役 (注2)	直接 0.21	資金の貸付	利息の受取	0	1年内回収予定の 長期貸付金	1
									長期貸付金	28
	大迫健一	-	-	(株)ソディック プラス テック取締役副社長 (注3)	直接 0.00	資金の貸付	資金の貸付 (注4) 上記貸付に係る 受入担保 (注5) 利息の受取 第三者割当増資 の引受 (注6)	43 40 0 43	1年内回収予定の 長期貸付金 長期貸付金	4 39
	高橋祐一	-	-	(株)ソディック 新横常務 取締役 (注3)	直接 0.20	資金の貸付	利息の受取	1	1年内回収予定の 長期貸付金 長期貸付金	1 51

(注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 平成22年6月29日開催の株主総会において、当社取締役を辞任しております。

3. 当社取締役の古川健一及び古川利彦の近親者であります。

4. 上記役員に対する資金の貸付の利息については、市場金利を勘案して決定しております。

5. 上記役員に対する資金の貸付の担保として、当社株式等を受入れております。

6. 株式会社ソディックプラステックは、平成21年9月24日に第三者割当増資による株式を発行しております。

発行価額は、直前日及び直近3ヶ月の市場終値を基に一株当たり86,800円で発行しております。

( 1株当たり情報 )

前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
1株当たり純資産額 516.38円	1株当たり純資産額 449.54円
1株当たり当期純損失金額( ) 170.15円	1株当たり当期純損失金額( ) 74.11円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であるため記載していません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であるため記載していません。

(注) 1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
当期純損失( )(百万円)	8,527	3,669
普通株主に帰属しない金額(百万円)		-
普通株式に係る当期純損失( )(百万円)	8,527	3,669
期中平均株式数(千株)	50,114	49,512
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要	平成19年6月28日定時株主総会決議による新株予約権方式のストック・オプション(株式の数225千株)なお、概要は「第4提出会社の状況、1株式等の状況、(2)新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。	平成19年6月28日定時株主総会決議による新株予約権方式のストック・オプション(株式の数129千株)なお、概要は「第4提出会社の状況、1株式等の状況、(2)新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																		
<p>1. 平成21年5月20日開催の当社取締役会において、平成21年2月12日付にて決議した株式会社ソディックハイテックを分割会社、当社を承継会社とする会社分割(略式分割・簡易分割)による精密機械事業及びサービス事業の承継の中止を決議いたしました。</p> <p>2. 平成21年6月26日開催の定時株主総会において、平成21年10月1日を合併期日(効力発生日)として、当社の子会社である株式会社ソディックハイテックを吸収合併することを決議いたしました。</p> <p>・結合当事企業の名称及び事業の内容、企業結合の法的形式、結合後企業の名称並びに取引の目的を含む取引の概要</p> <p>結合当事企業の名称及び事業の内容</p> <p>結合企業</p> <p>名称 株式会社ソディック</p> <p>事業の内容 工作機械の開発製造並びに販売</p> <p>被結合企業</p> <p>名称 株式会社ソディックハイテック</p> <p>事業の内容 放電加工機の周辺機器・消耗品の販売、メンテナンス及び金属製品の製造、精密工作機械の製造・販売</p> <p>企業結合の法的形式及び結合後企業の名称</p> <p>株式会社ソディックを存続会社とし、株式会社ソディックハイテックを消滅会社とする吸収合併</p> <p>取引の目的を含む取引の概要</p> <p>当社グループは昨今の市場環境の悪化とその長期化に備え、組織体制の見直しを行い、経営資源の最適化を進めております。株式会社ソディックハイテックは当社工作機械の補修等を行うサービス事業や、工作機械の消耗品の販売を行うサプライ品事業など当社と密接な関連のある事業を展開しています。本合併は、当社と密接な関連のある子会社を吸収合併によって当社に統合し、経営資源及び人的資源の更なる有効活用と経営効率化を目指すものです。</p> <p>合併の日程</p> <p>合併決議取締役会 平成21年5月20日</p> <p>合併契約締結 平成21年5月20日</p> <p>合併承認株主総会 平成21年6月26日</p> <p>合併の予定日(効力発生日) 平成21年10月1日 (予定)</p> <p>合併の承認は、当社においては株主総会において行われ、株式会社ソディックハイテックにおいては取締役会にて行われます。</p>	<p>1. 平成22年6月29日開催の第34回定時株主総会において、資本準備金及び利益準備金の額の減少並びに剰余金処分について決議いたしました。</p> <p>(1)目的</p> <p>繰越損失を填補し、財務戦略上の柔軟性及び機動性の確保ならびに早期復配体制を目指すため、資本準備金の額を減少し、同額をその他資本剰余金に振り替えるとともに、利益準備金を減少し、同額を繰越利益剰余金に振り替えるものです。</p> <p>(2)資本準備金及び利益準備金の額の減少に関する事項</p> <p>会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を減少し、その他資本剰余金に、利益準備金の全額を減少し、繰越利益剰余金に振替えるものです。</p> <p>減少する準備金の項目及びその額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">資本準備金</td> <td style="text-align: right;">1,070百万円</td> </tr> <tr> <td>利益準備金</td> <td style="text-align: right;">135百万円</td> </tr> <tr> <td>増加する剰余金の項目及びその額</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他資本剰余金</td> <td style="text-align: right;">1,070百万円</td> </tr> <tr> <td>繰越利益剰余金</td> <td style="text-align: right;">135百万円</td> </tr> </table> <p>日程</p> <p>効力発生日 平成22年6月29日</p> <p>(3)剰余金処分に関する事項</p> <p>会社法第452条の規定に基づき、上記(2)で振替えたその他資本剰余金及び別途積立金の全部を繰越利益剰余金に振替え、欠損を填補いたします。</p> <p>減少する剰余金の項目及びその額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">その他資本剰余金</td> <td style="text-align: right;">1,070百万円</td> </tr> <tr> <td>別途積立金</td> <td style="text-align: right;">3,000百万円</td> </tr> <tr> <td>増加する剰余金の項目及びその額</td> <td></td> </tr> <tr> <td>繰越利益剰余金</td> <td style="text-align: right;">4,070百万円</td> </tr> </table>	資本準備金	1,070百万円	利益準備金	135百万円	増加する剰余金の項目及びその額		その他資本剰余金	1,070百万円	繰越利益剰余金	135百万円	その他資本剰余金	1,070百万円	別途積立金	3,000百万円	増加する剰余金の項目及びその額		繰越利益剰余金	4,070百万円
資本準備金	1,070百万円																		
利益準備金	135百万円																		
増加する剰余金の項目及びその額																			
その他資本剰余金	1,070百万円																		
繰越利益剰余金	135百万円																		
その他資本剰余金	1,070百万円																		
別途積立金	3,000百万円																		
増加する剰余金の項目及びその額																			
繰越利益剰余金	4,070百万円																		

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
株式会社ソディック	平成21年9月30日満期第2回無担保普通社債(運転資金)	平成16年 9月30日	500 (500)	-	1.30	- (注3)	平成21年 9月30日
株式会社ソディック	平成21年12月29日満期第3回無担保変動利付社債(運転資金)	平成16年 12月29日	1,000 (1,000)	-	1.06	- (注4)	平成21年 12月29日
株式会社ソディック 新横	平成22年3月30日満期第4回無担保社債	平成19年 3月30日	500 (500)	-	0.90	- (注5)	平成22年 3月30日
株式会社ソディック	平成23年9月30日満期第1回無担保社債	平成18年 9月29日	500 (200)	300 (200)	1.25	- (注6,11)	平成23年 9月30日
株式会社ソディック	平成23年11月2日満期第2回無担保社債	平成18年 11月2日	300 (100)	200 (100)	1.40	- (注7,11)	平成23年 11月2日
株式会社ソディック 新横	平成23年4月27日満期第1回無担保変動利付社債	平成18年 4月27日	500	500	1.07	- (注8)	平成23年 4月27日
株式会社ソディック 新横	平成23年9月26日満期第2回無担保変動利付社債	平成18年 9月26日	260 (120)	140 (120)	0.89	- (注9)	平成23年 9月26日
株式会社ソディック プラスチック	平成28年3月25日満期第3回無担保社債	平成21年 2月5日	100 (14)	86 (14)	1.40	定期預金 20 (注10)	平成28年 3月25日
合計	-	-	3,660 (2,434)	1,226 (434)	-	-	-

(注) 1. 各残高欄の( )書きの金額(内書)は、1年以内償還期限到来予定の金額であります。

2. 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
434	734	14	14	14	16

3. 当該社債については、株式会社北陸銀行の保証が付いております。

4. 当該社債については、株式会社三井住友銀行の保証が付いております。

5. 当該社債については、株式会社みずほ銀行の保証が付いております。

6. 当該社債については、株式会社三井住友銀行の保証が付いております。

7. 当該社債については、株式会社横浜銀行の保証が付いております。

8. 当該社債については、株式会社三井住友銀行の保証が付いております。

9. 当該社債については、株式会社三井住友銀行の保証が付いております。

10. 当該社債については、株式会社りそな銀行ならびに横浜市信用保証協会の共同保証が付いております。

11. 株式会社ソディックが株式会社ソディックハイテックと合併したことにより、その社債を引き継いだものであります。

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	28,113	21,687	1.46	-
1年以内返済予定の長期借入金	2,451	2,976	1.66	-
1年以内返済予定のリース債務	305	266	3.98	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	10,095	9,303	1.74	平成22年～ 平成26年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	553	426	4.60	平成22年～ 平成26年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	41,519	34,659	-	-

(注) 1. 平均利率については、当連結会計年度のものを使用して算定しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内(百万円)	2年超3年以内(百万円)	3年超4年以内(百万円)	4年超5年以内(百万円)
長期借入金	2,192	3,284	3,586	240
リース債務	258	62	62	42

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期 自平成21年4月1日 至平成21年6月30日	第2四半期 自平成21年7月1日 至平成21年9月30日	第3四半期 自平成21年10月1日 至平成21年12月31日	第4四半期 自平成22年1月1日 至平成22年3月31日
売上高(百万円)	6,962	8,500	9,925	11,372
税金等調整前四半期純損失 ( ) (百万円)	1,032	1,539	523	326
四半期純損失金額( ) (百万円)	999	1,551	584	534
1株当たり四半期純損失 金額( ) (円)	20.19	31.34	11.80	10.79

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,590	7,688
受取手形	4 4,362	4 2,374
売掛金	4 3,357	4 3,610
商品及び製品	1,010	1,085
仕掛品	2,779	1,655
未着品	102	68
原材料及び貯蔵品	735	931
前払費用	65	58
関係会社短期貸付金	801	316
未収入金	4 1,127	4 1,998
立替金	4 100	4 37
未収消費税等	297	187
その他	23	19
貸倒引当金	334	400
流動資産合計	23,020	19,631
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 5,985	1 6,865
減価償却累計額	3,955	4,218
建物(純額)	2,029	2,646
構築物	513	524
減価償却累計額	415	431
構築物(純額)	97	93
機械及び装置	1,097	1,130
減価償却累計額	582	634
機械及び装置(純額)	514	495
車両運搬具	14	14
減価償却累計額	12	13
車両運搬具(純額)	1	0
工具、器具及び備品	1,237	1,162
減価償却累計額	1,102	1,054
工具、器具及び備品(純額)	134	108
土地	1 5,339	1 5,835
リース資産	56	449
減価償却累計額	13	129
リース資産(純額)	42	319
有形固定資産合計	8,159	9,501
無形固定資産		
のれん	-	1,434
借地権	104	104
ソフトウェア	227	176
電話加入権	28	28
その他	0	8
無形固定資産合計	359	1,751

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,141	1,309
関係会社株式	14,287	12,045
出資金	0	0
関係会社出資金	8,385	8,251
従業員に対する長期貸付金	1	0
関係会社長期貸付金	4,142	4,226
長期前払費用	1	2
敷金及び保証金	107	77
その他	199	195
貸倒引当金	929	969
投資その他の資産合計	27,336	25,140
<b>固定資産合計</b>	<b>35,855</b>	<b>36,393</b>
<b>資産合計</b>	<b>58,876</b>	<b>56,025</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	4 1,659	4 1,766
買掛金	4 1,293	4 2,419
短期借入金	1 16,030	1 16,370
1年内返済予定の長期借入金	1 600	1 1,630
1年内償還予定の社債	1 1,500	1 300
リース債務	11	59
未払金	4 466	4 653
未払費用	107	133
未払法人税等	-	52
前受金	0	41
預り金	33	77
製品保証引当金	165	117
品質保証引当金	-	6
賞与引当金	175	129
その他	107	110
流動負債合計	22,151	23,868
<b>固定負債</b>		
社債	-	1 200
長期借入金	1 7,100	1 6,310
リース債務	32	261
繰延税金負債	51	106
退職給付引当金	638	538
製品保証引当金	146	84
債務保証損失引当金	-	33
その他	26	6
固定負債合計	7,996	7,540
<b>負債合計</b>	<b>30,147</b>	<b>31,408</b>



	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	20,775	20,775
資本剰余金		
資本準備金	6,947	6,947
その他資本剰余金	0	-
資本剰余金合計	6,947	6,947
利益剰余金		
利益準備金	135	135
その他利益剰余金		
別途積立金	3,000	3,000
繰越利益剰余金	68	4,205
利益剰余金合計	3,203	1,070
自己株式	2,135	2,135
株主資本合計	28,791	24,517
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	89	75
繰延ヘッジ損益	6	-
評価・換算差額等合計	96	75
新株予約権	33	23
純資産合計	28,728	24,616
負債純資産合計	58,876	56,025

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
売上高	14,614	-
製品売上高	-	8,814
商品売上高	-	1,744
役務提供売上高	-	1,531
売上高合計	14,614	12,090
売上原価		
製品期首たな卸高	864	1,010
合併による製品受入高	-	10
当期製品製造原価	12,341	7,520
小計	13,206	8,542
他勘定振替高	190	222
製品期末たな卸高	1,010	831
製品売上原価	12,004	7,487
合併による商品受入高	-	275
当期商品仕入高	-	1,275
商品期末たな卸高	-	253
商品売上原価	-	1,297
役務提供原価	-	1,140
売上原価合計	12,004	9,925
売上総利益	2,609	2,164
販売費及び一般管理費		
運賃及び荷造費	71	202
広告宣伝費	129	126
サービス費	23	17
役員報酬	214	121
給料及び手当	634	759
賞与	71	68
賞与引当金繰入額	77	64
退職給付費用	65	95
法定福利費	86	103
福利厚生費	46	54
旅費及び交通費	121	116
交際費	25	16
消耗品費	14	9
租税公課	139	146
減価償却費	160	288
通信費	28	42
賃借料	74	135
支払手数料	475	608
販売手数料	174	311
図書印刷費	15	13
研究開発費	551	353
貸倒引当金繰入額	18	-
その他	215	186
販売費及び一般管理費合計	3,436	3,845
営業損失( )	826	1,680

	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>営業外収益</b>		
受取利息	109	61
受取配当金	171	487
受取手数料	127	36
固定資産賃貸料	229	108
雑収入	33	85
<b>営業外収益合計</b>	<b>671</b>	<b>779</b>
<b>営業外費用</b>		
支払利息	193	361
手形売却損	1	1
社債利息	17	18
為替差損	1,145	156
固定資産賃貸費用	123	51
シンジケートローン手数料	225	150
雑損失	99	38
<b>営業外費用合計</b>	<b>1,805</b>	<b>777</b>
<b>経常損失( )</b>	<b>1,960</b>	<b>1,678</b>
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	35	15
関係会社株式売却益	129	22
貸倒引当金戻入額	87	14
抱合せ株式消滅差益	-	792
その他	2	30
<b>特別利益合計</b>	<b>254</b>	<b>875</b>
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	37	41
減損損失	35	21
関係会社貸倒引当金繰入額	216	49
投資有価証券評価損	411	7
関係会社整理損	57	45
関係会社株式評価損	1,683	-
関係会社出資金評価損	-	314
特別退職金	25	-
債務保証損失引当金繰入額	-	33
事業構造改善費用	-	560
その他	0	20
<b>特別損失合計</b>	<b>2,467</b>	<b>1,093</b>
<b>税引前当期純損失( )</b>	<b>4,173</b>	<b>1,897</b>
法人税、住民税及び事業税	106	98
過年度法人税等	103	-
法人税等調整額	560	6
法人税等合計	563	104
<b>当期純損失( )</b>	<b>4,736</b>	<b>2,002</b>

【製造原価明細書】

区分	区分注記 番号	前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)		当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費	1	10,070	79.9	4,935	74.0
労務費		708	5.6	580	8.7
経費		1,826	14.5	1,153	17.3
(減価償却費)		(232)	(1.8)	(267)	(4.0)
(外注加工費)		(83)	(0.7)	(120)	(1.8)
(その他の経費)		(1,510)	(12.0)	(765)	(11.5)
当期総製造費用		12,605	100.0	6,668	100.0
期首仕掛品 たな卸高		2,584		2,779	
合併による 仕掛品受入 高		-		124	
他勘定振替 高	2	68		396	
期末仕掛品 たな卸高		2,779		1,655	
当期製品製 造原価		12,341		7,520	

(注)

前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
1 材料費には、当社の仕様に基づき製造依頼した仕入先よりの部品購入高1,731百万円が含まれております。	1 材料費には、当社の仕様に基づき製造依頼した仕入先よりの部品購入高1,398百万円が含まれております。
2 他勘定振替高内訳 販売費及び一般管理費 (研究開発費等) 25百万円 固定資産振替 42 合計 68	2 他勘定振替高内訳 販売費及び一般管理費 10百万円 (研究開発費等) 特別損失 207 (事業構造改善費用) 固定資産振替 31 会社分割による仕掛品減少 高 147 合計 396

原価計算の方法

当社の原価計算の方法は、個別原価計算を採用しております。期中においては、加工費について予定原価を採用し、中間期末及び事業年度末において実際原価との差額を期末たな卸高と売上原価に配賦しております。

【役務原価明細書】

区分	区分注記 番号	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)		当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費	1	-	-	406	35.6
労務費		-	-	463	40.6
経費		-	-	270	23.8
役務提供原価		-	-	1,140	100.0

(注) 1 主な内訳は、次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
賃借料(百万円)	-	65
旅費交通費(百万円)	-	53

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	20,775	20,775
当期末残高	20,775	20,775
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
前期末残高	6,947	6,947
当期末残高	6,947	6,947
<b>その他資本剰余金</b>		
前期末残高	0	0
<b>当期変動額</b>		
自己株式の処分	0	-
会社分割による減少	-	2,272
資本剰余金から利益剰余金への振替	-	2,272
<b>当期変動額合計</b>	0	0
当期末残高	0	-
<b>資本剰余金合計</b>		
前期末残高	6,947	6,947
<b>当期変動額</b>		
自己株式の処分	0	-
会社分割による減少	-	2,272
資本剰余金から利益剰余金への振替	-	2,272
<b>当期変動額合計</b>	0	0
当期末残高	6,947	6,947
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
前期末残高	135	135
当期末残高	135	135
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>別途積立金</b>		
前期末残高	3,000	3,000
当期末残高	3,000	3,000
<b>繰越利益剰余金</b>		
前期末残高	5,818	68
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	1,013	-
資本剰余金から利益剰余金への振替	-	2,272
<b>当期純損失( )</b>	4,736	2,002
<b>当期変動額合計</b>	5,749	4,274
当期末残高	68	4,205

	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>利益剰余金合計</b>		
前期末残高	8,953	3,203
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	1,013	-
資本剰余金から利益剰余金への振替	-	2,272
当期純損失( )	4,736	2,002
<b>当期変動額合計</b>	<b>5,749</b>	<b>4,274</b>
当期末残高	3,203	1,070
<b>自己株式</b>		
前期末残高	971	2,135
<b>当期変動額</b>		
自己株式の取得	1,163	0
自己株式の処分	0	-
<b>当期変動額合計</b>	<b>1,163</b>	<b>0</b>
当期末残高	2,135	2,135
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	35,704	28,791
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	1,013	-
会社分割による減少	-	2,272
当期純損失( )	4,736	2,002
自己株式の取得	1,163	0
自己株式の処分	0	-
<b>当期変動額合計</b>	<b>6,913</b>	<b>4,274</b>
当期末残高	28,791	24,517
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	271	89
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	360	165
<b>当期変動額合計</b>	<b>360</b>	<b>165</b>
当期末残高	89	75
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
前期末残高	5	6
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	0	6
<b>当期変動額合計</b>	<b>0</b>	<b>6</b>
当期末残高	6	-

	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>評価・換算差額等合計</b>		
前期末残高	265	96
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	361	171
<b>当期変動額合計</b>	<b>361</b>	<b>171</b>
当期末残高	96	75
<b>新株予約権</b>		
前期末残高	13	33
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	19	9
<b>当期変動額合計</b>	<b>19</b>	<b>9</b>
当期末残高	33	23
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	35,983	28,728
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	1,013	-
会社分割による減少	-	2,272
当期純損失（ ）	4,736	2,002
自己株式の取得	1,163	0
自己株式の処分	0	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	341	162
<b>当期変動額合計</b>	<b>7,255</b>	<b>4,111</b>
当期末残高	28,728	24,616



【重要な会計方針】

項目	前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	子会社株式及び関連会社株式 ...移動平均法による原価法 その他有価証券 時価のあるもの ...決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) 時価のないもの ...移動平均法による原価法	子会社株式及び関連会社株式 ...同左 その他有価証券 時価のあるもの ...同左 時価のないもの ...同左
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	時価法	同左
3. たな卸資産の評価基準及び評価方法	(1) 商品及び製品、仕掛品並びに未着品 個別法による原価法 (貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法) (2) 原材料及び貯蔵品 先入先出法による原価法 (貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)	(1) 商品 先入先出法による原価法 (貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法) (2) 製品、仕掛品並びに未着品 個別法による原価法 (貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法) (3) 原材料及び貯蔵品 先入先出法による原価法 (貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)
4. 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 定率法。ただし、建物(建物付属設備を除く)については定額法。 なお、耐用年数は以下のとおりです。 建物 3～50年 構築物 3～50年 機械及び装置 4～12年 車両運搬具 2～7年 工具器具備品 2～17年 (2) 無形固定資産(リース資産を除く) 定額法。ただし、ソフトウェアについては、自社利用目的のものは社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法、販売目的のものは見込販売数量に基づく償却額と、残存見込販売有効期間に基づく均等償却額との、いずれか大きい金額を計上しております。 なお、販売目的のソフトウェアの当初における見込販売有効期間は3年としております。	(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 定率法。ただし、建物(建物付属設備を除く)については定額法。 なお、耐用年数は以下のとおりです。 建物 3～50年 構築物 3～50年 機械及び装置 2～12年 車両運搬具 2～7年 工具器具備品 2～20年 (2) 無形固定資産(リース資産を除く) 定額法。ただし、ソフトウェアについては、自社利用目的のものは社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法、販売目的のものは見込販売数量に基づく償却額と、残存見込販売有効期間に基づく均等償却額との、いずれか大きい金額を計上しております。 なお、販売目的のソフトウェアの当初における見込販売有効期間は3年としております。 のれんについては、投資効果の発現する期間で均等償却しております。

項目	前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	<p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。</p> <p>(4) 長期前払費用 均等償却によっております。 なお、償却期間については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。 外貨建金銭債権債務は、期末日の直物等為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p>	<p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。</p> <p>(4) 長期前払費用 均等償却によっております。</p> <p style="text-align: right;">同左</p>
6. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員の賞与の支給に充てるため、賞与支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。 数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数による定率法（10年）により発生の翌事業年度から費用処理することとしております。 過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。</p> <p>(4) 製品保証引当金 製品の無償補修費用の支出に備えるため、過去の売上高に対する支出割合に基づき必要額を計上しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 退職給付引当金 同左</p> <p>(4) 製品保証引当金 同左</p>

項目	前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
7. ヘッジ会計の方法	<p>(5)品質保証引当金</p> <p>(6)債務保証損失引当金</p> <p>(1)ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理を採用しております。ただし、金利スワップ取引のうち「金利スワップの特例処理」(金融商品に関する会計基準注解)の対象となる取引については当該特例処理を適用しております。</p> <p>(2)ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段...金利スワップ取引、為替予約取引 ヘッジ対象...変動金利社債の支払金利、変動金利借入の支払金利、外貨建金銭債権</p> <p>(3)ヘッジ方針 当社は、財務上のリスク管理対策の一環として、デリバティブ取引を行っております。外貨建債権の為替変動リスクを軽減する目的で為替予約取引を、また借入金等の金利変動リスク軽減のために金利スワップ取引を行うものとしております。</p> <p>(4)ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ開始時から有効性判定時までの、ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計額を比較する方法によっております。 また、特例処理によっている金利スワップについては、有効性評価を省略しております。</p>	<p>(5)品質保証引当金 有償修理後に発生する品質保証費用の支出に充てるため、過去の実績を基礎にして、品質保証引当金を計上しております。</p> <p>(6)債務保証損失引当金 債務保証等に係る損失に備えるため、被保証者の財政状態等を勘案して将来の損失負担見込み額を計上しております。</p> <p>(1)ヘッジ会計の方法 金利スワップ取引のうち「金利スワップの特例処理」(金融商品に関する会計基準注解)の対象となる取引については当該特例処理を適用しております。</p> <p>(2)ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段...金利スワップ取引 ヘッジ対象...変動金利借入の支払金利</p> <p>(3)ヘッジ方針 当社は、財務上のリスク管理対策の一環として、デリバティブ取引を行っております。借入金等の金利変動リスク軽減のために金利スワップ取引を行うものとしております。</p> <p>(4)ヘッジ有効性評価の方法 同左</p>
8. その他財務諸表作成のための重要な事項	<p>(1)消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しております。</p>	<p>(1)消費税等の会計処理 同左</p>

【会計処理の変更】

<p>前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>たな卸資産 通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、評価基準として原価法によっておりましたが、当事業年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分)が適用されたことに伴い、原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)に変更しております。 これにより、営業損失、経常損失及び税引前当期純損失は、それぞれ20百万円増加しております。</p>	
<p>リース会計 所有権転移外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引にかかる会計処理によっております。 なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権転移外ファイナンス・リース取引については、前連結会計年度末における未経過リース料期末残高相当額(利息相当額控除後)を取得価額とし、期首に取得したものとしてリース資産に計上する方法によっております。 これにより、営業損失は3百万円、経常損失及び税引前当期純損失は、それぞれ0百万円減少しております。</p>	
	<p>退職給付引当金 当事業年度より「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。 なお、これによる営業損失、経常損失及び税引前当期純損失に与える影響はありません。</p>

【表示の変更】

<p>前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>(損益計算書)</p>	<p>(損益計算書)</p> <p>売上高及び売上原価については、金額的重要性が増したため、当事業年度より「製品売上高」「役務提供売上高」及び「役務提供原価」として区分掲記しております。</p> <p>なお、前事業年度における「役務提供売上高」は360百万円であり、「役務提供原価」はありません。</p> <p>「商品売上高」及び「商品売上原価」は株式会社ソディックハイテックとの合併により、当事業年度より発生しております。</p> <p>また、前事業年度において、特別利益の「その他」に含めて表示しておりました抱合せ株式消滅差益は、金額的重要性が増したため当事業年度より「抱合せ株式消滅差益」として区分掲記しております。</p> <p>なお、前事業年度における「抱合せ株式消滅差益」は2百万円であります。</p>

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成21年3月31日)		当事業年度 (平成22年3月31日)																													
1. 借入金等の担保に供されている資産(簿価)は次のとおりであります。		1. 借入金等の担保に供されている資産(簿価)は次のとおりであります。																													
建物	1,382百万円	建物	1,270百万円																												
土地	2,860	土地	2,936																												
合計	4,243	合計	4,207																												
上記に対応する債務		上記に対応する債務																													
短期借入金	3,180百万円	短期借入金	1,118百万円																												
長期借入金 (1年以内返済予定の長期借入金を含む)	4,200	長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	4,696																												
1年内償還予定の社債	1,500	社債	300																												
合計 (根抵当権の極度額)	8,880 (10,370)	合計 (1年内償還予定の社債を含む) (根抵当権の極度額)	6,115 (10,370)																												
2. 保証債務 次の関係会社等について、金融機関からの借入及びリース契約の債務に対し債務保証を行っております。 (外貨については決算日の為替相場により換算しております。)		2. 保証債務 次の関係会社等について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。 (外貨については決算日の為替相場により換算しております。)																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>保証先</th> <th>金額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Sodick (Thailand) Co.,Ltd.</td> <td>1,607 (15,414千タイバツ、10百万米ドル及び583百万円)</td> </tr> <tr> <td>蘇州沙迪克特種設備有限公司</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>(株)ソディック新横</td> <td>3,567</td> </tr> <tr> <td>Sodick Europe Holding GmbH</td> <td>93 (720千ユーロ)</td> </tr> <tr> <td>(株)E X C E R A</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5,391</td> </tr> </tbody> </table>		保証先	金額 (百万円)	Sodick (Thailand) Co.,Ltd.	1,607 (15,414千タイバツ、10百万米ドル及び583百万円)	蘇州沙迪克特種設備有限公司	7	(株)ソディック新横	3,567	Sodick Europe Holding GmbH	93 (720千ユーロ)	(株)E X C E R A	115	合計	5,391	<table border="1"> <thead> <tr> <th>保証先</th> <th>金額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Sodick (Thailand) Co.,Ltd.</td> <td>1,537 (8,414千タイバツ、10百万米ドル及び583百万円)</td> </tr> <tr> <td>(株)ソディック新横</td> <td>1,577</td> </tr> <tr> <td>(株)E X C E R A</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>Sodick Inc.</td> <td>279 (3百万円米ドル)</td> </tr> <tr> <td>Sodick Europe Holding GmbH</td> <td>216 (1,731千ユーロ)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,706</td> </tr> </tbody> </table>		保証先	金額 (百万円)	Sodick (Thailand) Co.,Ltd.	1,537 (8,414千タイバツ、10百万米ドル及び583百万円)	(株)ソディック新横	1,577	(株)E X C E R A	96	Sodick Inc.	279 (3百万円米ドル)	Sodick Europe Holding GmbH	216 (1,731千ユーロ)	合計	3,706
保証先	金額 (百万円)																														
Sodick (Thailand) Co.,Ltd.	1,607 (15,414千タイバツ、10百万米ドル及び583百万円)																														
蘇州沙迪克特種設備有限公司	7																														
(株)ソディック新横	3,567																														
Sodick Europe Holding GmbH	93 (720千ユーロ)																														
(株)E X C E R A	115																														
合計	5,391																														
保証先	金額 (百万円)																														
Sodick (Thailand) Co.,Ltd.	1,537 (8,414千タイバツ、10百万米ドル及び583百万円)																														
(株)ソディック新横	1,577																														
(株)E X C E R A	96																														
Sodick Inc.	279 (3百万円米ドル)																														
Sodick Europe Holding GmbH	216 (1,731千ユーロ)																														
合計	3,706																														
3. 受取手形割引高及び輸出為替手形割引高 輸出為替手形割引高 4百万円		3. 受取手形割引高及び輸出為替手形割引高 輸出為替手形割引高 171百万円																													
4. 関係会社に対する主な資産・負債		4. 関係会社に対する主な資産・負債																													
受取手形	2,890百万円	受取手形	1,100百万円																												
売掛金	2,839	売掛金	1,757																												
未収入金	1,106	未収入金	1,976																												
立替金	99	立替金	26																												
支払手形	180	支払手形	165																												
買掛金	1,021	買掛金	1,819																												
未払金	222	未払金	290																												

( 損益計算書関係 )

前事業年度 ( 自 平成20年 4 月 1 日 至 平成21年 3 月31日 )	当事業年度 ( 自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日 )
<p>1 . 関係会社に係る注記 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれて おります。</p> <p>関係会社への売上高 13,302百万円 関係会社よりの仕入高 11,703 関係会社よりの受取利息 107 関係会社よりの受取配当金 144 関係会社よりの受取手数料 127 関係会社よりの固定資産 賃貸料 200</p> <p>2 . 他勘定振替高内訳 機械及び装置 190百万円</p> <hr/> <p>合計 190</p>	<p>1 . 関係会社に係る注記 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれて おります。</p> <p>関係会社への売上高 3,772百万円 関係会社よりの仕入高 6,177 関係会社よりの受取利息 61 関係会社よりの受取配当金 473 関係会社よりの受取手数料 36 関係会社よりの固定資産 賃貸料 93</p> <p>2 . 他勘定振替高内訳 機械及び装置 180百万円 その他の特別損失 32 会社分割による製品減少高 10</p> <hr/> <p>合計 222</p>
<p>3 . 研究開発費の総額 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費 1,009百万円</p>	<p>3 . 研究開発費の総額 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費 833百万円</p>
<p>4 . 固定資産売却益</p> <p>機械及び装置 2百万円 工具器具備品 0 土地 32</p> <hr/> <p>合計 35</p>	<p>4 . 固定資産売却益</p> <p>機械及び装置 15百万円 車両運搬具 0 工具器具備品 0</p> <hr/> <p>合計 15</p>
<p>5 . 固定資産除却損</p> <p>建物 3百万円 構築物 0 機械及び装置 7 工具器具備品 4 建設仮勘定 22</p> <hr/> <p>合計 37</p>	<p>5 . 固定資産除却損</p> <p>建物 4百万円 構築物 0 機械及び装置 28 工具器具備品 0 リース資産 0 建設仮勘定 8</p> <hr/> <p>合計 41</p>

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)				当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)													
6. 減損損失 当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。				6. 減損損失 当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。													
場所	用途	種類	金額 (百万円)	場所	用途	種類	金額 (百万円)										
福井県 坂井市他	遊休	建物及び機械及び装置、工具 器具備品等	35	福井県 坂井市	遊休	建物及び構築物、工具器具備 品等	0										
<p>当社は、管理会計上の区分を基準に資産のグルーピングを行っております。ただし、賃貸資産及び事業の用に直接供していない遊休資産については個々にグルーピングしてまいります。</p> <p>上記資産グループは遊休状態であり、遊休資産については今後の使用見込みもないため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。</p> <p>なお、当該資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、取引事例等市場価格を参考に評価しております。</p>				石川県羽咋郡	遊休	土地	20										
				合計				21									
				<p>7.</p>				<p>当社は、管理会計上の区分を基準に資産のグルーピングを行っております。ただし、賃貸資産及び事業の用に直接供していない遊休資産については個々にグルーピングしてまいります。</p> <p>福井県坂井市にある資産につきましては、除却予定及び遊休状態であり、今後の使用見込みもないため、帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。</p> <p>石川県羽咋郡にある従業員の福利厚生目的の保養所につきましては、実質的に遊休状態であり、今後の使用見込みが不明なため、帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。</p> <p>なお、当該資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、取引事例等市場価格を参考に評価しております。</p> <p>7. 事業構造改善費用 事業構造改善費用の主なものは、次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>たな卸資産廃棄損</td> <td>159百万円</td> </tr> <tr> <td>特別退職金</td> <td>151百万円</td> </tr> <tr> <td>たな卸資産評価損</td> <td>102百万円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>146百万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>560百万円</td> </tr> </table>				たな卸資産廃棄損	159百万円	特別退職金	151百万円	たな卸資産評価損	102百万円
たな卸資産廃棄損	159百万円																
特別退職金	151百万円																
たな卸資産評価損	102百万円																
その他	146百万円																
合計	560百万円																



(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式(注)1,2	1,626,188	2,293,843	315	3,919,716
合計	1,626,188	2,293,843	315	3,919,716

(注)1. 普通株式の自己株式の株式数の増加2,293,843株は、取締役会決議による自己株式の取得による増加2,292,000株、単元未満株式の買取りによる増加1,843株であります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少315株は、単元未満株式の売渡しによる減少であります。

当事業年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式(注)	3,919,716	871	-	3,920,587
合計	3,919,716	871	-	3,920,587

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加871株は、単元未満株式の買取りによる増加871株であります。

(リース取引関係)

前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
1. ファイナンス・リース取引(借主側) リース資産の内容 有形固定資産 主として、工作機械事業における実験用設備(機械及び装置)であります。 リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。	1. ファイナンス・リース取引(借主側) リース資産の内容 有形固定資産 主として、工作機械事業における実験用設備(機械及び装置)であります。 リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(有価証券関係)

前事業年度(平成21年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの

	貸借対照表計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
子会社株式	825	675	149

当事業年度(平成22年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式

	貸借対照表計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
子会社株式	1,802	1,645	156

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式

区分	貸借対照表計上額(百万円)
子会社株式	10,243

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

( 税効果会計関係 )

前事業年度 ( 自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日 )	当事業年度 ( 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日 )																																																																
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">265百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">71</td></tr> <tr><td>たな卸資産評価損</td><td style="text-align: right;">269</td></tr> <tr><td>有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">2,639</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">259</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">209</td></tr> <tr><td>製品保証引当金</td><td style="text-align: right;">126</td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">919</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">438</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,198</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">5,198</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">-</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">3</td></tr> <tr><td>為替差益</td><td style="text-align: right;">48</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">51</td></tr> </table>	貸倒引当金	265百万円	賞与引当金	71	たな卸資産評価損	269	有価証券評価損	2,639	退職給付引当金	259	減損損失	209	製品保証引当金	126	繰越欠損金	919	その他	438	繰延税金資産小計	5,198	評価性引当額	5,198	繰延税金資産合計	-	その他有価証券評価差額金	3	為替差益	48	繰延税金負債合計	51	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">556百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">52</td></tr> <tr><td>たな卸資産評価損</td><td style="text-align: right;">448</td></tr> <tr><td>有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">2,550</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">218</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">218</td></tr> <tr><td>製品保証引当金</td><td style="text-align: right;">81</td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">1,953</td></tr> <tr><td>子会社株式</td><td style="text-align: right;">1,031</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">529</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">7,640</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">7,631</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">8</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">51</td></tr> <tr><td>為替差益</td><td style="text-align: right;">54</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">8</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">114</td></tr> </table>	貸倒引当金	556百万円	賞与引当金	52	たな卸資産評価損	448	有価証券評価損	2,550	退職給付引当金	218	減損損失	218	製品保証引当金	81	繰越欠損金	1,953	子会社株式	1,031	その他	529	繰延税金資産小計	7,640	評価性引当額	7,631	繰延税金資産合計	8	その他有価証券評価差額金	51	為替差益	54	その他	8	繰延税金負債合計	114
貸倒引当金	265百万円																																																																
賞与引当金	71																																																																
たな卸資産評価損	269																																																																
有価証券評価損	2,639																																																																
退職給付引当金	259																																																																
減損損失	209																																																																
製品保証引当金	126																																																																
繰越欠損金	919																																																																
その他	438																																																																
繰延税金資産小計	5,198																																																																
評価性引当額	5,198																																																																
繰延税金資産合計	-																																																																
その他有価証券評価差額金	3																																																																
為替差益	48																																																																
繰延税金負債合計	51																																																																
貸倒引当金	556百万円																																																																
賞与引当金	52																																																																
たな卸資産評価損	448																																																																
有価証券評価損	2,550																																																																
退職給付引当金	218																																																																
減損損失	218																																																																
製品保証引当金	81																																																																
繰越欠損金	1,953																																																																
子会社株式	1,031																																																																
その他	529																																																																
繰延税金資産小計	7,640																																																																
評価性引当額	7,631																																																																
繰延税金資産合計	8																																																																
その他有価証券評価差額金	51																																																																
為替差益	54																																																																
その他	8																																																																
繰延税金負債合計	114																																																																
<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>当事業年度は税引前当期純損失のため記載しておりません。</p>	<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>当事業年度は税引前当期純損失のため記載しておりません。</p>																																																																

(企業結合等関係)

1. 前事業年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)  
該当事項はありません。
2. 当事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)  
共通支配下の取引等  
連結財務諸表「注記事項(企業結合等関係)」に記載しているため、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)		当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	
1株当たり純資産額	579.55円	1株当たり純資産額	496.70円
1株当たり当期純損失金額( )	94.52円	1株当たり当期純損失金額( )	40.44円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であるため記載していません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であるため記載していません。	

(注) 1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
当期純損失( )(百万円)	4,736	2,002
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純損失( ) (百万円)	4,736	2,002
期中平均株式数(千株)	50,114	49,512
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要	平成19年6月28日定時株主総会決議による新株予約権方式のストック・オプション(株式の数225千株)なお、概要は「第4提出会社の状況、1株式等の状況、(2)新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。	平成19年6月28日定時株主総会決議による新株予約権方式のストック・オプション(株式の数129千株)なお、概要は「第4提出会社の状況、1株式等の状況、(2)新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																		
<p>1. 平成21年5月20日開催の当社取締役会において、平成21年2月12日付にて決議した株式会社ソディックハイテックを分割会社、当社を承継会社とする会社分割(略式分割・簡易分割)による精密機械事業及びサービス事業の承継の中止を決議いたしました。</p> <p>2. 平成21年6月26日開催の定時株主総会において、平成21年10月1日を合併期日(効力発生日)として、当社の子会社である株式会社ソディックハイテックを吸収合併することを決議いたしました。</p> <p>・結合当事企業の名称及び事業の内容、企業結合の法的形式、結合後企業の名称並びに取引の目的を含む取引の概要</p> <p>結合当事企業の名称及び事業の内容</p> <p>結合企業</p> <p>名称 株式会社ソディック</p> <p>事業の内容 工作機械の開発製造並びに販売</p> <p>被結合企業</p> <p>名称 株式会社ソディックハイテック</p> <p>事業の内容 放電加工機の周辺機器・消耗品の販売、メンテナンス及び金属製品の製造、精密工作機械の製造・販売</p> <p>企業結合の法的形式及び結合後企業の名称</p> <p>株式会社ソディックを存続会社とし、株式会社ソディックハイテックを消滅会社とする吸収合併</p> <p>取引の目的を含む取引の概要</p> <p>当社グループは昨今の市場環境の悪化とその長期化に備え、組織体制の見直しを行い、経営資源の最適化を進めております。株式会社ソディックハイテックは当社工作機械の補修等を行うサービス事業や、工作機械の消耗品の販売を行うサプライ品事業など当社と密接な関連のある事業を展開しています。本合併は、当社と密接な関連のある子会社を吸収合併によって当社に統合し、経営資源及び人的資源の更なる有効活用と経営効率化を目指すものです。</p> <p>合併の日程</p> <p>合併決議取締役会 平成21年5月20日</p> <p>合併契約締結 平成21年5月20日</p> <p>合併承認株主総会 平成21年6月26日</p> <p>合併の予定日(効力発生日) 平成21年10月1日 (予定)</p> <p>合併の承認は、当社においては株主総会において行われ、株式会社ソディックハイテックにおいては取締役会にて行われます。</p>	<p>1. 平成22年6月29日開催の第34回定時株主総会において、資本準備金及び利益準備金の額の減少並びに剰余金処分について決議いたしました。</p> <p>(1)目的</p> <p>繰越損失を填補し、財務戦略上の柔軟性及び機動性の確保ならびに早期復配体制を目指すため、資本準備金の額を減少し、同額をその他資本剰余金に振り替えるとともに、利益準備金を減少し、同額を繰越利益剰余金に振り替えるものです。</p> <p>(2)資本準備金及び利益準備金の額の減少に関する事項</p> <p>会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を減少し、その他資本剰余金に、利益準備金の全額を減少し、繰越利益剰余金に振り替えるものです。</p> <p>減少する準備金の項目及びその額</p> <table border="0"> <tr> <td>資本準備金</td> <td>1,070百万円</td> </tr> <tr> <td>利益準備金</td> <td>135百万円</td> </tr> <tr> <td>増加する剰余金の項目及びその額</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他資本剰余金</td> <td>1,070百万円</td> </tr> <tr> <td>繰越利益剰余金</td> <td>135百万円</td> </tr> </table> <p>日程</p> <p>効力発生日 平成22年6月29日</p> <p>(3)剰余金処分に関する事項</p> <p>会社法第452条の規定に基づき、上記(2)で振替えたその他資本剰余金及び別途積立金の全部を繰越利益剰余金に振替え、欠損を填補いたします。</p> <p>減少する剰余金の項目及びその額</p> <table border="0"> <tr> <td>その他資本剰余金</td> <td>1,070百万円</td> </tr> <tr> <td>別途積立金</td> <td>3,000百万円</td> </tr> <tr> <td>増加する剰余金の項目及びその額</td> <td></td> </tr> <tr> <td>繰越利益剰余金</td> <td>4,070百万円</td> </tr> </table>	資本準備金	1,070百万円	利益準備金	135百万円	増加する剰余金の項目及びその額		その他資本剰余金	1,070百万円	繰越利益剰余金	135百万円	その他資本剰余金	1,070百万円	別途積立金	3,000百万円	増加する剰余金の項目及びその額		繰越利益剰余金	4,070百万円
資本準備金	1,070百万円																		
利益準備金	135百万円																		
増加する剰余金の項目及びその額																			
その他資本剰余金	1,070百万円																		
繰越利益剰余金	135百万円																		
その他資本剰余金	1,070百万円																		
別途積立金	3,000百万円																		
増加する剰余金の項目及びその額																			
繰越利益剰余金	4,070百万円																		

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有価証券	(株)ほくほくフィナンシャルグループ	282
		プレス工業(株)	249
		(株)サカタのタネ	121
		(株)三井住友フィナンシャルグループ	104
		三菱鉛筆(株)	104
		(株)東京海上ホールディングス	98
		(株)北國銀行	69
		Cho Ei Ltd.	45
		オーニック(株)	19
		(株)エヌシーネットワーク	15
		その他11銘柄	52
計		5,072,369.938	1,162

【その他】

種類及び銘柄		投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有価証券	VIETNAM GROWTH FUND L.P.	147
計		2	147

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	5,985	1,187	307 (0)	6,865	4,218	180	2,646
構築物	513	29	17 (0)	524	431	14	93
機械及び装置	1,097	539	506	1,130	634	149	495
車両運搬具	14	1	1	14	13	0	0
工具、器具及び備品	1,237	158	232 (0)	1,162	1,054	53	108
土地	5,339	683	187 (20)	5,835	-	-	5,835
リース資産	56	834	441	449	129	53	319
有形固定資産計	14,242	3,434	1,694 (21)	15,983	6,482	453	9,501
無形固定資産							
のれん	-	1,712	220	1,492	57	59	1,434
借地権	104	-	-	104	-	-	104
ソフトウェア	434	119	132	421	245	130	176
電話加入権	28	-	-	28	-	-	28
その他	4	8	3	8	0	0	8
無形固定資産計	570	1,840	356	2,054	303	189	1,751
長期前払費用	2	4	-	6	2	0	4 (1)

(注) 1. 長期前払費用の差引期末残高欄の( )書の金額(内数)は1年内に費用化される長期前払費用であり、貸借対照表上、流動資産「前払費用」に計上しております。

2. 「当期減少額」欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。

3. 当期増加額には、株式会社ソディックハイテックとの合併による増加額が次のとおり含まれております。

建物 1,175百万円  
構築物 29百万円  
機械及び装置 371百万円  
車両運搬具 1百万円  
工具器具及び備品 151百万円  
土地 683百万円  
リース資産 824百万円  
のれん 1,696百万円  
ソフトウェア 24百万円

4. 当期減少額には、精密金型・精密成形事業と株式会社ソディック新横に全社分割により承継させたことによる減少額が次のとおり含まれております。

建物 236百万円  
構築物 13百万円  
機械及び装置 230百万円  
車両運搬具 0百万円  
工具器具及び備品 43百万円  
土地 166百万円  
リース資産 417百万円  
のれん 218百万円  
ソフトウェア 0百万円

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	1,264	215	6	103	1,370
製品保証引当金	312	201	126	186	201
品質保証引当金	-	6	-	-	6
賞与引当金	175	129	175	-	129
債務保証損失引当金	-	33	-	-	33

(注) 貸倒引当金の当期減少額(その他)103百万円、および製品保証引当金の当期減少額(その他)186百万円は、洗替えによるものであります。

(2)【主な資産及び負債の内容】

平成22年3月31日現在における主な資産及び負債の内容

資産の部

a. 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	5
預金	
当座預金	6,272
普通預金	754
外貨建普通預金	652
その他	4
合計	7,688

b. 受取手形

相手先別内訳		期日別内訳	
相手先	金額(百万円)	期日	金額(百万円)
Sodick Deutschland GmbH	439	平成22年4月	588
(株)兼松K G K	353	5月	561
(株)ソディックプラステック	249	6月	692
Sodick Europe Ltd.	136	7月	343
(株)山善	133	8月	158
その他	1,061	9月以降	30
合計	2,374	合計	2,374

c. 売掛金

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
Sodick Europe Holding GmbH	417
Sodick Inc.	380
Sodick Singapore Pte.,Ltd.	225
Sodick Engineering Service (Thailand) Co., Ltd.	223
(株)兼松K G K	189
その他	2,174
合計	3,610



(b) 売掛金の発生及び回収ならびに滞留状況

前期繰越高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間
A	B	C	D	C A + B	D B ÷ 12
3,357	12,481	12,228	3,610	77.2	3.5ヵ月

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

d. 商品及び製品

内訳	金額(百万円)
NC形彫り放電加工機	249
NCワイヤ放電加工機	292
マシニングセンタ	226
その他	316
合計	1,085

e. 仕掛品

内訳	金額(百万円)
NC形彫り放電加工機	378
NCワイヤ放電加工機	568
マシニングセンタ	365
その他	343
合計	1,655

f. 未着品

内訳	金額(百万円)
NC形彫り放電加工機	6
NCワイヤ放電加工機	60
その他	1
合計	68

g. 原材料及び貯蔵品

内訳	金額(百万円)
原材料	
主要購入部品	
N C形彫り放電加工機	217
N Cワイヤ放電加工機	313
マシニングセンタ	94
補助購入部品(補修部品を含む)	300
小計	925
貯蔵品	
製品カタログ	2
製品取扱説明書	3
小計	5
合計	931

h. 関係会社株式

相手先	金額(百万円)
(株)ソディック新横	5,107
Sodick(Thailand) Co., Ltd.	3,194
(株)ソディックプラスチック	1,802
Sodick (H.K.) Co.,Ltd.	781
Sodick (Taiwan) Co.,Ltd.	748
その他	411
合計	12,045

i. 関係会社出資金

相手先	金額(百万円)
沙迪克(厦門)有限公司	6,449
蘇州沙迪克特種設備有限公司	1,313
沙迪克機電(上海)有限公司	286
上海沙迪克軟件有限公司	118
蘇州S T K鑄造有限公司	62
その他	21
合計	8,251

j. 関係会社長期貸付金

相手先	金額(百万円)
沙迪克(厦門)有限公司	2,035
Sodick Europe GmbH	925
Sodick (Thailand) Co., Ltd.	334
蘇州凱旋機電元件有限公司	271
Sodick Inc.	260
その他	399
合計	4,226

負債の部

a. 支払手形

相手先別内訳		期日別内訳	
相手先	金額(百万円)	期日	金額(百万円)
Sodick (Thailand) Co., Ltd.	157	平成22年4月	529
(株)安川メカトロック	156	5月	370
(株)忍足研究所	101	6月	337
THK(株)	100	7月	309
(株)イマリ精工	67	8月	212
その他	1,177	9月以降	-
合計	1,760	合計	1,760

b. 買掛金

相手先	金額(百万円)
Sodick(Thailand) Co.,Ltd.	1,245
(株)ソディック新横	388
蘇州沙迪克特種設備有限公司	115
(株)ソディック・エフ・エー	48
THK(株)	45
その他	576
合計	2,419

c. 短期借入金

相手先	金額(百万円)
(株)横浜銀行	5,220
(株)三井住友銀行	3,680
(株)みずほ銀行	3,540
(株)北陸銀行	1,670
(株)北國銀行	880
(株)三菱東京UFJ銀行	720
三菱UFJ信託銀行(株)	360
(株)静岡銀行	300
合計	16,370

d. 長期借入金

相手先	金額(百万円)
(株)みずほ銀行	1,717
(株)北陸銀行	1,700
(株)三井住友銀行	1,255
(株)横浜銀行	638
(株)北國銀行	500
日本生命保険(相)	500
合計	6,310

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 (特別口座に記録された株式) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告とする。ただし事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行う。 公告掲載URL <a href="http://www.sodick.co.jp/ir/ir-f.html">http://www.sodick.co.jp/ir/ir-f.html</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しています。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第33期）（自平成20年4月1日至平成21年3月31日）平成21年6月30日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成21年6月30日関東財務局に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

（第34期第1四半期）（自平成21年4月1日至平成21年6月30日）平成21年8月12日関東財務局長に提出。

（第34期第2四半期）（自平成21年7月1日至平成21年9月30日）平成21年11月12日関東財務局長に提出。

（第34期第3四半期）（自平成21年10月1日至平成21年12月31日）平成22年2月12日関東財務局長に提出。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成21年6月30日

株式会社ソディック

取締役会 御中

### 三 優 監 査 法 人

代表社員 業務執行社員	公認会計士	久保 幸年
代表社員 業務執行社員	公認会計士	岩田 巨人

#### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ソディックの平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ソディック及び連結子会社の平成21年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 追記情報

1. 会計方針の変更に記載されているとおり、会社は当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」を適用しているため、当該会計基準により連結財務諸表を作成している。
2. 会計方針の変更に記載されているとおり、会社は当連結会計年度より「リース取引に関する会計基準」を適用しているため、当該会計基準により連結財務諸表を作成している。
3. 会計方針の変更に記載されているとおり、会社は当連結会計年度より「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」を適用しているため、当該会計基準により連結財務諸表を作成している。
4. 会計方針の変更に記載されているとおり、当連結会計年度より、一部の連結子会社における機械本体の無償補修費用につき製品保証引当金を計上する方法へ変更している。
5. 会計方針の変更に記載されているとおり、当連結会計年度より、一部の連結子会社における機械本体の無償補修等に係る費用を売上原価に計上する方法へ変更している。
6. 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成21年5月20日開催の取締役会において株式会社ソディックハイテックを分割会社、会社を承継会社とする会社分割の中止を決議した。
7. 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成21年6月26日開催の定時株主総会において株式会社ソディックハイテックを吸収合併することを決議した。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ソディックの平成21年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社ソディックが平成21年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。



## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年6月29日

株式会社ソディック  
取締役会 御中

### 三 優 監 査 法 人

代表社員 業務執行社員	公認会計士	久保 幸年
代表社員 業務執行社員	公認会計士	岩田 巨人

#### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ソディックの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ソディック及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 追記情報

1. 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に記載されているとおり、会社及び一部の連結子会社は当事業年度より「退職給付に係る会計基準」の一部改正（その3）を適用している。
2. 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に記載されているとおり、一部の連結子会社は当連結会計年度より「工事契約に関する会計基準」を適用しているため、当該会計基準により連結財務諸表を作成している。
3. 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成22年6月29日開催の定時株主総会において資本準備金の額の減少及び剰余金の処分を決議した。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ソディックの平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社ソディックが平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成21年6月30日

株式会社ソディック

取締役会 御中

### 三 優 監 査 法 人

代表社員 公認会計士 久保 幸年  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 岩田 巨人  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ソディックの平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第33期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ソディックの平成21年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 追記情報

1. 会計方針の変更に記載されているとおり、会社は当事業年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」を適用しているため、当該会計基準により財務諸表を作成している。
2. 会計方針の変更に記載されているとおり、会社は当事業年度より「リース取引に関する会計基準」を適用しているため、当該会計基準により財務諸表を作成している。
3. 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成21年5月20日開催の取締役会において株式会社ソディックハイテックを分割会社、会社を承継会社とする会社分割の中止を決議した。
4. 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成21年6月26日開催の定時株主総会において株式会社ソディックハイテックを吸収合併することを決議した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成22年6月29日

株式会社ソディック

取締役会 御中

### 三 優 監 査 法 人

代表社員 公認会計士 久保 幸年  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 岩田 巨人  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ソディックの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第34期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ソディックの平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 追記情報

1. 会計方針の変更に記載されているとおり、会社は当事業年度より「退職給付に係る会計基準」の一部改正（その3）を適用している。
2. 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成22年6月29日開催の定時株主総会において資本準備金の額の減少及び剰余金の処分を決議した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。